

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第714集

サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書

2020

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
（公財）岩手県文化振興事業団

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第714集

サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

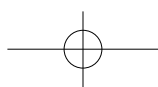
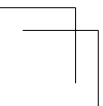
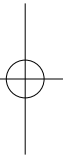
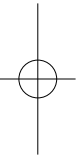
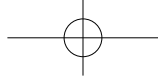
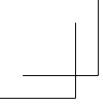
2020

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

(公財) 岩手県文化振興事業団

サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

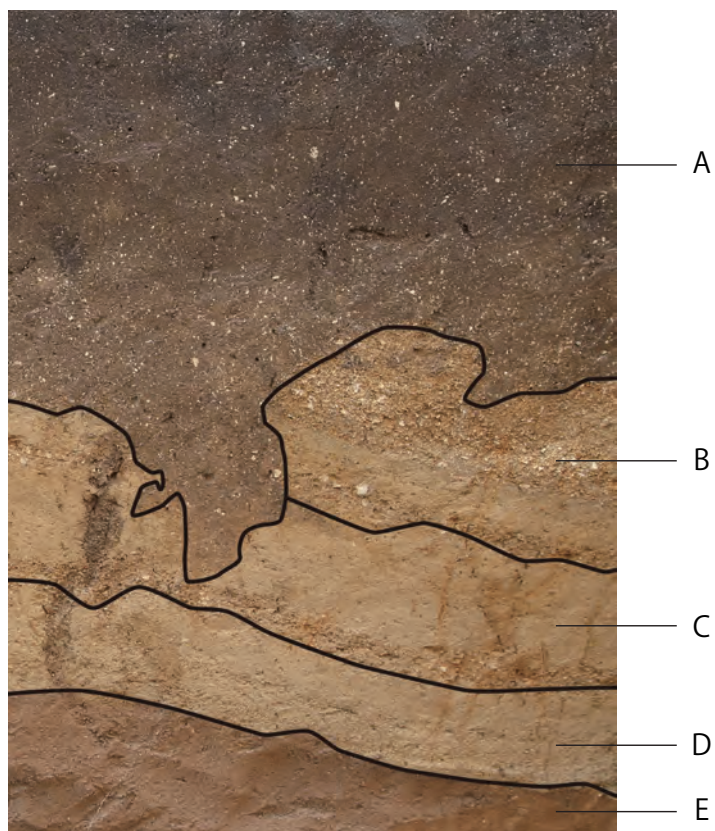




遺跡遠景（東上空から）



遺跡全景（平成 28 年度）



テフラ採取層位A～E

火山灰分析採取土層



5号土坑副穴断面

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設に関連して、平成28～30年度の延べ14ヶ月間に発掘調査を実施したサンニヤⅢ遺跡の成果をまとめたものです。調査の結果、縄文時代の狩猟場の特徴が分かる貴重な資料を得ることが出来ました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省三陸国道事務所、洋野町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和2年3月

公益財団法人岩手県文化振興事業団
理事長 高橋嘉行

例 言

- 1 本報告書は、岩手県九戸郡洋野町種市第25地割に所在するサンニヤⅢ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、三陸沿岸道路建設に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課との協議を経て、三陸国道事務所の委託を受けた公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳における遺跡番号と今回の調査における遺跡略号は以下のとおりである。
遺跡番号：IF48-2250
遺跡略号：S NⅢ-16(平成28年度)・S NⅢ-17(平成29年度)・S NⅢ-18(平成30年度)
- 4 発掘調査期間・面積・担当者は以下のとおりである。
平成28年度
調査期間：平成28年9月15日～12月16日
調査面積：14,000㎡
担当者：八木勝枝・菊池貴広・高橋義介・森 裕樹・佐々木あゆみ
平成29年度
調査期間：平成29年4月7日～11月29日
調査面積：17,200㎡
担当者：菊池貴広・川又 晋・佐々木あゆみ・遠藤 修
平成30年度
調査期間：平成30年4月4日～9月30日
調査面積：2,000㎡
担当者：菊池貴広・野中裕貴・出町拓也
- 5 室内整理期間・担当者は以下のとおりである。
平成28年度
整理期間：平成28年11月1日～平成29年3月31日
担当者：八木勝枝・森 裕樹・佐々木あゆみ
平成29年度
整理期間：平成29年11月1日～平成30年3月31日
担当者：菊池貴広・佐々木あゆみ・遠藤 修
平成30年度
整理期間：平成30年12月1日～平成31年3月31日
担当者：菊池貴広・星 雅之・川又 晋
- 6 本報告書の執筆は、第Ⅰ章を国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、第Ⅱ章を菊池・八木・森、第Ⅲ章を菊池・八木、第Ⅳ章を菊池・八木・佐々木・遠藤・森、第Ⅴ章を菊池、第Ⅵ章を菊池が担当し、全体の編集は菊池が行った。
- 7 各種委託業務は次の機関に委託した。
火山灰分析：パリノ・サーヴェイ株式会社
石材・石質鑑定：花崗岩研究会

基準点測量：株式会社ダイヤ

航空写真撮影：東邦航空株式会社

- 8 今回の発掘調査で出土した遺物と諸記録は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 9 これまでに、調査成果の一部を当埋蔵文化財センターのホームページ、調査概報等で公表しているが、本書の記載内容を正式なものとする。

凡 例

- 1 遺構図中で記載した座標値は平面直角座標第Ⅹ系(世界測地系)に基づく。
- 2 遺構図等の方位は真北を表示している。
- 3 遺構図の縮尺は、陥し穴状遺構：1／50、土坑：1／50、焼土遺構：1／20、炭窯：1／40を基本とする。
- 4 層位名として、基本層序にはローマ数字を、遺構の覆土にはアラビア数字を使用している。
- 5 土層の記載には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。
- 6 遺物実測図の縮尺は、土器・礫石器：1／3、剥片石器：1／2を基本とする。
- 7 遺構図版及び遺物図版中に網掛けをしている場合は、個々に凡例を付している。
- 8 国土地理院発行地形図を編集掲載したものには、図中に図幅名と縮尺を付した。
- 9 テフラの名称については、十和田中楸テフラを To-Cu、十和田南部浮石を To-Nb と省略した箇所がある。

目 次

I	調査に至る経過	1
II	立地と環境	1
	1 遺跡の位置と立地	1
	2 周辺の地形	1
	3 基本層序	4
	4 周辺の遺跡	6
III	調査・整理の方法	9
	1 野外調査	9
	2 室内整理	10
IV	検出された遺構	17
	1 調査経過	17
	2 検出遺構	17
V	出土遺物	62
	1 遺構に伴う遺物	62
	2 遺構外出土遺物	62
VI	総括	75
	1 陥し穴遺構について	75
	2 打製石斧について	76
	3 遺構全体について	76
VII	火山灰分析	84
	報告書抄録	133

図版目次

第1図	遺跡の位置図	2	第30図	51～53号陥し穴状遺構	52
第2図	遺跡周辺の段丘区分図	3	第31図	54～55号陥し穴状遺構	53
第3図	遺跡周辺の地形図	3	第32図	56～58号陥し穴状遺構	54
第4図	基本層序	5	第33図	59～61号陥し穴状遺構	55
第5図	周辺の遺跡	8	第34図	62～64号陥し穴状遺構	56
第6図	グリッド配置図	11	第35図	65～69号陥し穴状遺構	57
第7図	遺構配置図	12	第36図	1～4号土坑	58
第8図	遺構配置図拡大図(1)	13	第37図	5～8号土坑	59
第9図	遺構配置図拡大図(2)	14	第38図	9～14号土坑	60
第10図	遺構配置図拡大図(3)	15	第39図	15～18号土坑	61
第11図	遺構配置図拡大図(4)	16	第40図	打製石斧分類模式図	64
第12図	1・2号炭窯・1・2号焼土遺構	34	第41図	出土遺物(1)	65
第13図	1～3号陥し穴状遺構	35	第42図	出土遺物(2)	66
第14図	4～6号陥し穴状遺構	36	第43図	出土遺物(3)	67
第15図	7～9号陥し穴状遺構	37	第44図	出土遺物(4)	68
第16図	10～12号陥し穴状遺構	38	第45図	出土遺物(5)	69
第17図	13～15号陥し穴状遺構	39	第46図	出土遺物(6)	70
第18図	16～18号陥し穴状遺構	40	第47図	出土遺物(7)	71
第19図	19～21号陥し穴状遺構	41	第48図	出土遺物(8)	72
第20図	22～24号陥し穴状遺構	42	第49図	陥し穴状遺構主軸グラフ	78
第21図	25～27号陥し穴状遺構	43	第50図	土坑分類図	78
第22図	28～30号陥し穴状遺構	44	第51図	周辺遺跡の円形陥し穴状遺構集成図(1)	79
第23図	31～33号陥し穴状遺構	45			
第24図	34～36号陥し穴状遺構	46	第52図	周辺遺跡の円形陥し穴状遺構集成図(2)	80
第25図	37～39号陥し穴状遺構	47			
第26図	40～42号陥し穴状遺構	48	第53図	周辺遺跡の円形陥し穴状遺構集成図(3)	81
第27図	43～45号陥し穴状遺構	49			
第28図	46～47号陥し穴状遺構	50	第54図	周辺遺跡の円形陥し穴状遺構集成図(4)	82
第29図	48～50号陥し穴状遺構	51			

表目次

第1表	周辺遺跡一覧	7	第5表	石器観察表	74
第2表	陥し穴状遺構・土坑観察表	19	第6表	陥し穴状遺構集成一覧	78
第3表	土坑副穴観察表	33	第7表	周辺遺跡の打製石斧が出土している 竪穴住居跡	83
第4表	土器・陶磁器観察表	73			

巻頭カラー写真図版目次

- 巻頭カラー写真図版1 遺跡全景
巻頭カラー写真図版2 火山灰分析採取土層・5号土坑副穴断面

写真図版目次

写真図版1	調査区現況	91	写真図版22	58～61号陥し穴状遺構	112
写真図版2	基本層序	92	写真図版23	62～65号陥し穴状遺構	113
写真図版3	1号炭窯	93	写真図版24	66～69号陥し穴状遺構	114
写真図版4	2号炭窯	94	写真図版25	1～4号土坑	115
写真図版5	1・2号焼土遺構、 1・2号陥し穴状遺構	95	写真図版26	8・15・18号土坑	116
写真図版6	3～6号陥し穴状遺構	96	写真図版27	5号土坑	117
写真図版7	7～10号陥し穴状遺構	97	写真図版28	6号土坑	118
写真図版8	11～14号陥し穴状遺構	98	写真図版29	7号土坑	119
写真図版9	15～18号陥し穴状遺構	99	写真図版30	9号土坑	120
写真図版10	19～22号陥し穴状遺構	100	写真図版31	10号土坑	121
写真図版11	23～26号陥し穴状遺構	101	写真図版32	11号土坑	122
写真図版12	27～30号陥し穴状遺構	102	写真図版33	14号土坑	123
写真図版13	31～34号陥し穴状遺構	103	写真図版34	16号土坑	124
写真図版14	35～38号陥し穴状遺構	104	写真図版35	17号土坑	125
写真図版15	39～42号陥し穴状遺構	105	写真図版36	検出状況	126
写真図版16	43・44・48・49号陥し穴状遺構	106	写真図版37	検出状況	127
写真図版17	45号陥し穴状遺構	107	写真図版38	出土遺物(1)	128
写真図版18	46号陥し穴状遺構	108	写真図版39	出土遺物(2)	129
写真図版19	47号陥し穴状遺構	109	写真図版40	出土遺物(3)	130
写真図版20	50～53号陥し穴状遺構	110	写真図版41	出土遺物(4)	131
写真図版21	54～57号陥し穴状遺構	111	写真図版42	出土遺物(5)	132

I 調査に至る経過

サンニヤⅢ遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業(侍浜～階上)の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成28年6月21日付け国東整陸一調第15号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成28年6月27日～6月29日、8月1日～8月5日にわたり試掘調査を行い、平成28年9月6日付け教生第849号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成28年4月1日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)

II 立地と環境

1 遺跡の位置と立地

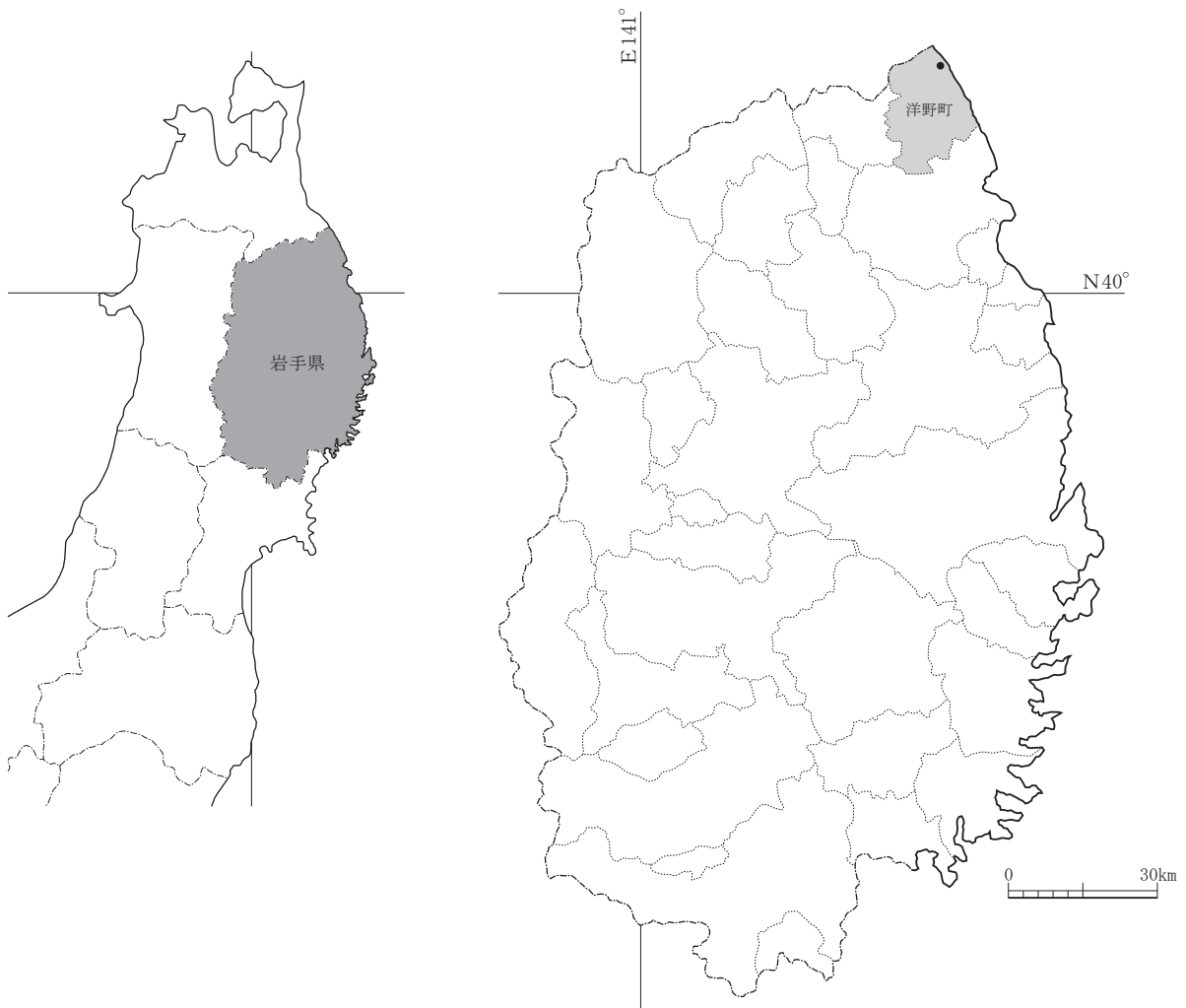
サンニヤⅢ遺跡が所在する洋野町は、岩手県沿岸部最北端に位置し、南は久慈市、西は軽米町、北は青森県三戸郡階上町に隣接する。平成18年1月1日に旧種市町と旧大野村が合併し、総面積は302.92㎡、総人口は16,846人(平成31年1月31日時点)を数える。町域の現況は山林が210.70㎡と町域の約7割を占め、標高100mを境に西部高原地域と東部海岸地域に区分されている。夏季、西部高原地域は東部海岸地域と比較して気温が4～5℃高く、東部海岸地域は春から夏に顕著なやませ(偏東風)の影響で濃霧が発生し、湿度が高く日照時間が短い特徴がある。

サンニヤⅢ遺跡は、JR八戸線種市駅から西方に約1.2km、川尻川右岸の標高約62m前後に立地する。北緯40°24'26"、東経141°42'9"付近に位置する。川尻川は遺跡から直線距離約1.65kmで河口となる。地図上では、国土地理院発行2万5千分の1地形図「種市」NK-54-18-6-2に含まれる。

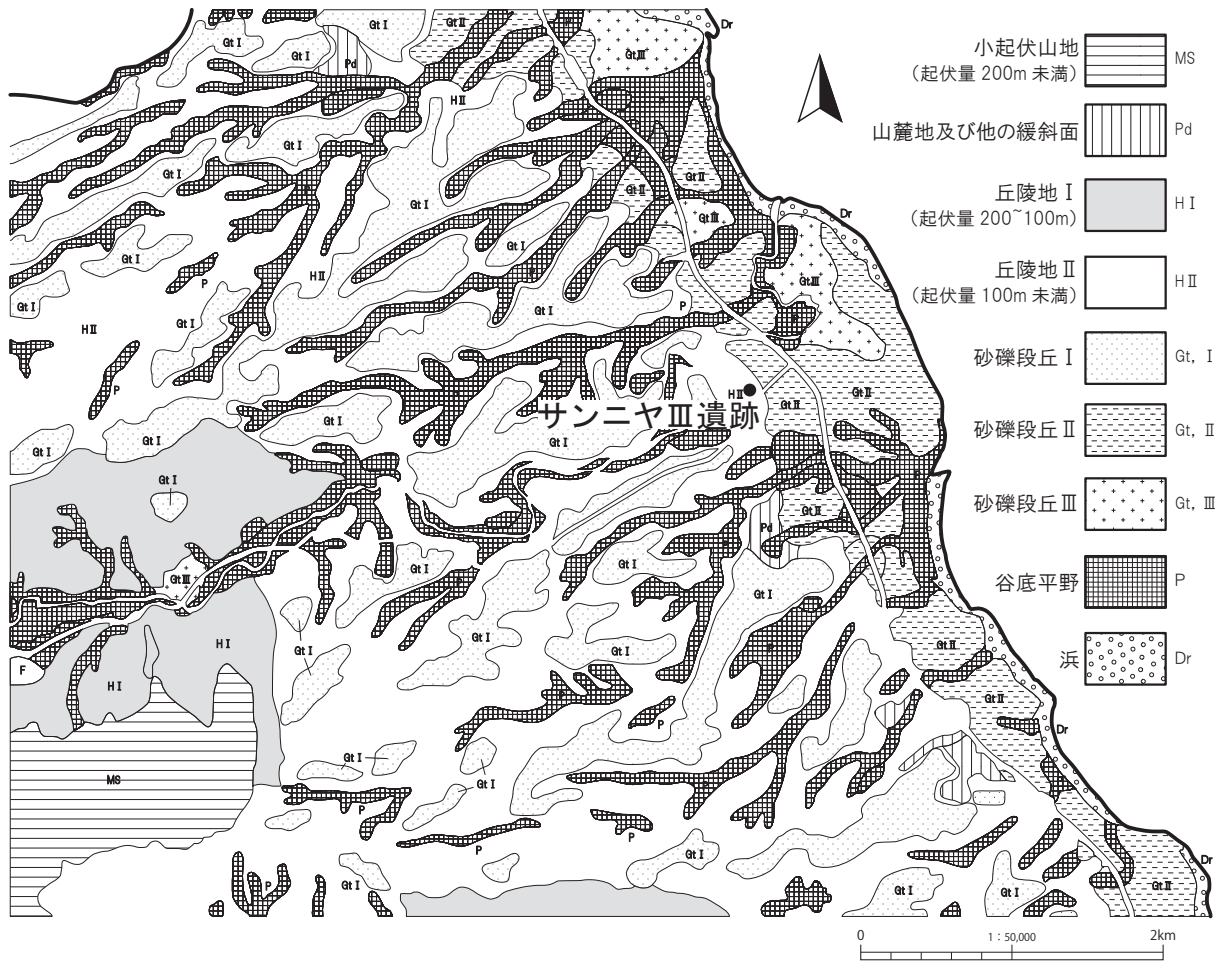
2 周辺の地形

サンニヤⅢ遺跡周辺の旧種市町は、軽米町・旧大野村との町境をなす階上岳(種市岳740.1m)、久慈平岳(706.3m)及び海成段丘によって形成された南北に連なる地形配列・表層地質をなしている。海成段丘は、海側の低い段丘から順に種市段丘・白前段丘で、現在の国道45号線は種市段丘上の白前段丘接点近くに南北に作られ、三陸沿岸道路はより高位面にあたる白前段丘上に建設される予定である。

2 周辺の地形



第1図 遺跡位置図



第2図 遺跡周辺の地形



第3図 遺跡周辺地形図

3 基本層序

第4図は、調査区A～D地点の土層である。層序は上位からⅠ～Ⅷ層に大別される。遺構検出面は、基本層序A地点付近がⅤ層、B地点付近がⅣ層、C地点付近がⅢ層、D地点付近がⅢ層の各上面である。(第7図)。

A地点

- Ⅰ a 層 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 締密(褐色土ブロック20%含み斑状をなす)
- Ⅰ b 層 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 締やや密(白色浮石細粒微量に含む)
- Ⅱ層 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性強 締中(白色浮石細粒微量に含む)
- Ⅲ層 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 締中
- Ⅳ a 層 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性強 締やや密(直径1mm褐色土粒5%含む)
- Ⅳ b 層 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性強 締やや密(直径2mm褐色土粒20%含む)
- Ⅴ層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 締密(直径2～3mm褐色土粒50%含む)
- Ⅵ層 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 締密(直径2～3mm褐色土粒3%含む)

B地点

- Ⅰ層 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 締やや密(白色浮石細粒微量に含む)
- Ⅱ層 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性強 締中(白色浮石細粒微量に含む)
- Ⅲ層 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 締中
- Ⅳ層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 締密(直径2～3mm褐色土粒50%含む)
- Ⅴ層 10YR5/8黄褐色 シルト 粘性弱 締密(十和田八戸テフラ)
- Ⅵ層 10YR4/4褐色 粘土 粘性強 締密(高館テフラ)

C地点

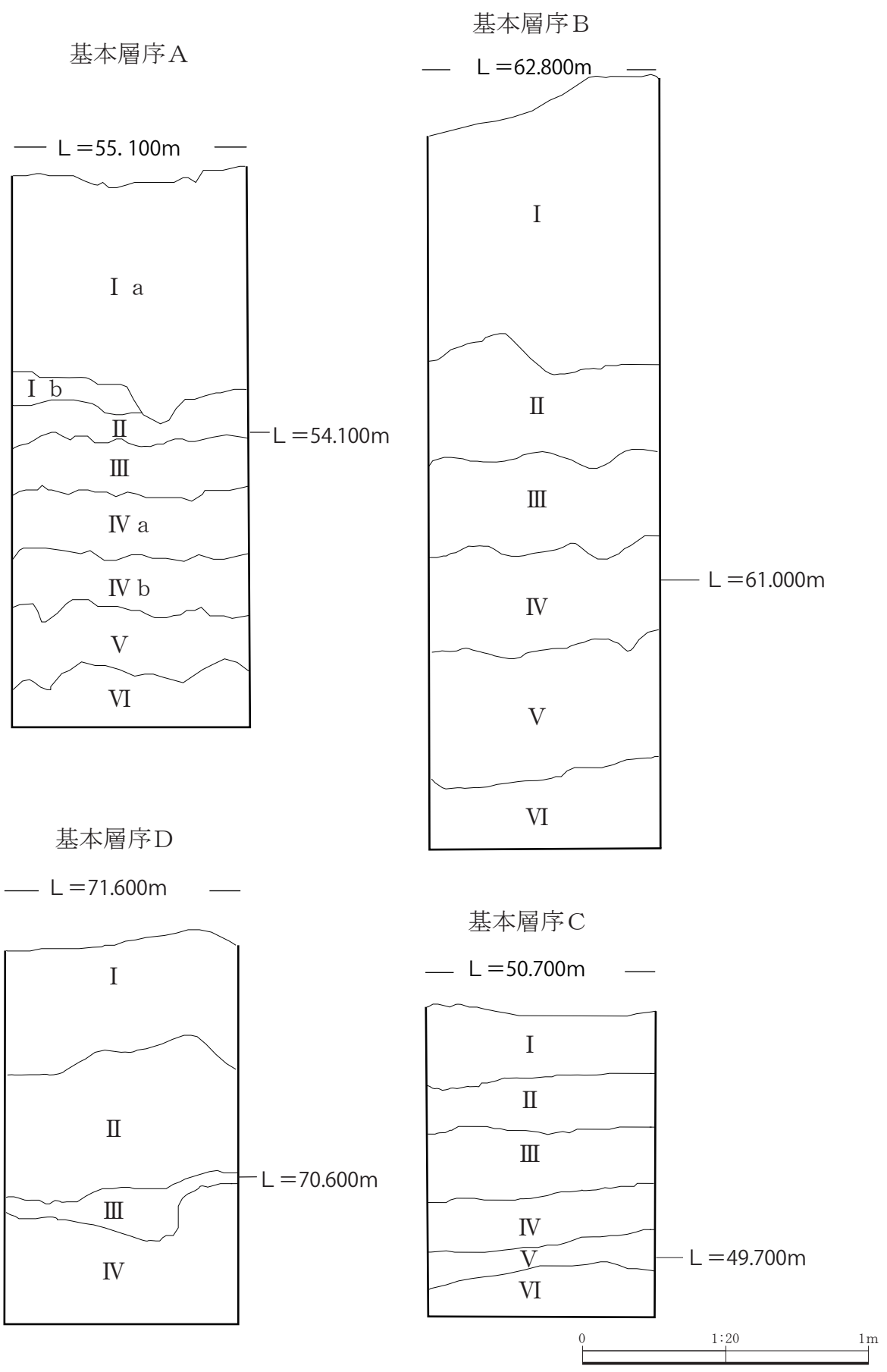
- Ⅰ層 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 締やや密(白色浮石細粒微量に含む)
- Ⅱ層 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性強 締中(白色浮石細粒微量に含む)
- Ⅲ層 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 締中
- Ⅳ層 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 締やや密
- Ⅴ層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 締密(直径2～3mm褐色土粒50%含む)
- Ⅵ層 10YR5/8黄褐色 シルト 粘性弱 締密(十和田八戸テフラ)

D地点

- Ⅰ層 礫層(盛土)
- Ⅱ層 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性強 締中(白色浮石細粒微量に含む)
- Ⅲ層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 締密(直径2～3mm褐色土粒50%含む)
- Ⅳ層 10YR5/8黄褐色 シルト 粘性弱 締密(十和田八戸テフラ)

A・B・C地点のⅡ・Ⅲ層には十和田中掬テフラが粒状に、A地点のⅤ層・B地点のⅣ層・C地点のⅤ層には十和田南部浮石テフラが層状に含まれる。A地点のⅥ層、B地点のⅤ層、C地点のⅥ層、D地点のⅣ層が十和田八戸テフラ、またB地点のⅥ層が高館火山灰層に比定される。

5号土坑副穴を精査するため土坑東側にトレンチを設定後、層位ごとに試料を採取し分析を依頼した(巻頭カラー写真図版2)。この結果、十和田八戸テフラについてはユニットが形成されていることが確認された(第Ⅶ章 サンニヤⅢ遺跡の火山灰分析)。



第4図 基本層序

4 周辺の遺跡 (第5図 第1表)

平成31年3月現在、岩手県遺跡情報検索システムに登録されている洋野町内の遺跡は219遺跡である。そのうち、サンニヤⅢ遺跡近隣の遺跡を抽出したものが第5図である。ここでは、図に示した遺跡位置図をもとに縄文時代から中世の各時代を概観する。

縄文時代

集落跡は、石倉遺跡(16)、サンニヤⅠ遺跡(24)、サンニヤⅡ遺跡(26)、板橋Ⅱ遺跡(30)、ゴッソー遺跡(32)、南鹿糠Ⅰ遺跡(38)が挙げられ、後期前半の集落跡が多い傾向が窺える。集落跡と種別が異なる西平内Ⅰ遺跡(2)では、後期前半の配石遺構と整地層が確認されている。

狩猟場は、平内Ⅱ遺跡(3)、サンニヤⅠ遺跡(24)、荒津内遺跡(31)、ゴッソー遺跡(32)、南鹿糠Ⅰ遺跡(38)、板橋Ⅱ遺跡(30)、板橋遺跡(36)が挙げられる。近年の発掘調査では、集落跡の性格をもつ一方、狩猟場の性格をもつ複合遺跡として確認される傾向がある。また、本遺跡で出土している「打製石斧」と同類のものが前述した遺跡でも出土している。

弥生時代

集落跡は、平内Ⅱ遺跡(3)で弥生時代前期の竪穴住居2棟、北玉川遺跡(42)で弥生時代中期の竪穴住居1棟が確認されている。

古代

登録されている遺跡は、北平内Ⅱ遺跡(8)、石倉遺跡(16)、横手遺跡(27)、大久保遺跡(37)である。各遺跡で土師器片が採取されている。近年の調査においては鹿糠浜Ⅰ遺跡(40)で集落跡が確認されている。

中世

城館跡は、小手野沢館(28)、板橋館(34)で堀・郭などが確認されている。

第Ⅱ章に関わる引用・参考文献

岩手県教育委員会発行

2016『岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成26年度 復興関係)』岩手県文化財調査報告書第146集
(公財)岩手県文化振興事業団発行

1996『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集

2001『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集

2017『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集

2018『北鹿糠遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第686集

2018『サンニヤⅠ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第687集

種市町教育委員会発行

2004『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』種市町埋蔵文化財調査報告書第1集

洋野町教育委員会発行

2013『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集

2015『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集

第1表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	時代	出土遺物等	備考
1	笹花Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	平成23年度新規発見
2	西平内Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（後期）・石斧・剥片	岩埋文報第673集（2017）
3	平内Ⅱ	散布地	縄文・弥生・近世	縄文土器（中期末～後期前葉）・弥生土器（前期後葉）・石器・鉄製品他	洋野町教委報第1集（2004）・洋野町教委報第2集（2015）・洋野町教委報第3集（2017）
4	北平内Ⅴ	散布地	縄文・弥生・近世	縄文土器（後期～晩期）・弥生土器（前期）	平成23年度新規発見
5	北平内Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器・石斧・礫器	平成23年度新規発見
6	北平内Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（後期）・剥片	平成23年度新規発見
7	北平内Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	平成23年度新規発見
8	北平内Ⅱ	散布地	縄文・古代	縄文土器・土師器	平成23年度新規発見
9	北平内Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器・石斧・敲石	平成23年度新規発見
10	浜平内	散布地	縄文	縄文土器（早期・晩期）・石斧・敲石	平成23年度新規発見
11	平内Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（後期）・剥片	平成23年度新規発見
12	平内Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（前期・中期）・剥片	
13	平内Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（中期）・磨石	
14	平内Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器（前期）・石斧・礫器	平成23年度新規発見
15	南平内Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（晩期）・製塩土器	平成23年度新規発見
16	石倉	集落跡	縄文・古代	縄文土器（後期）・敲石・礫器・土師器	
17	東平内Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	平成23年度新規発見
18	東平内Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器・石斧・敲石・礫器・剥片	平成23年度新規発見
19	南平内Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器・剥片	平成23年度新規発見
20	南平内Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器・剥片石器	平成23年度新規発見
21	樫割	散布地	縄文	石棒	
22	南川尻	散布地	縄文	縄文土器・石器	平成26年度発掘調査
23	南館	城館跡	中世	掘跡	昭和59年度調査
24	サンニヤⅠ	集落跡・狩猟場	縄文	縄文土器	岩埋文第687集（2018）
25	サンニヤⅢ	狩猟場	縄文	陥し穴状遺構・縄文土器・石器	平成28～30年度発掘調査
26	サンニヤⅡ	集落跡	古代	竪穴住居・土坑・縄文土器・土師器	岩手県教育委員会第146集（2016）
27	横手	散布地	縄文・古代	縄文土器（晩期）・土師器	
28	小手野沢館	城館跡	中世	堀跡・郭	昭和59年度調査
29	トチの木	散布地	縄文	縄文土器（後期・晩期）	
30	板橋Ⅱ	集落跡・狩猟場	縄文	縄文土器（後期）	平成30年度新規発見
31	荒津内	散布地・狩猟場	縄文	陥し穴状遺構・土坑・焼土遺構・土師器	平成29年度発掘調査
32	ゴッソー	集落跡	縄文	縄文土器（早期～晩期）・製塩土器・弥生土器・竪穴住居・土坑	岩埋文第238集（1996）・岩埋文報第357集（2001）
33	たけの子	散布地	縄文	縄文土器（後期・晩期）・製塩土器	
34	板橋館	城館跡	中世	単郭・掘跡	昭和59年度調査
35	北鹿糠	集落跡・狩猟場	縄文	縄文土器・石器	岩埋文報第686集（2018）
36	板橋	狩猟場	縄文	陥し穴状遺構	平成29年度新規発見
37	大久保	散布地	縄文・古代	縄文土器（前期・後期・晩期）・石斧・土師器	
38	南鹿糠Ⅰ	集落跡	縄文	竪穴住居・縄文土器（早期・前期）	平成26・27年度発掘調査
39	鹿糠浜Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（後期）・石器	平成25年度新規発見
40	鹿糠浜Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器・石器	平成25年度新規発見
41	鹿糠浜Ⅲ	散布地	縄文	陥し穴状遺構	平成29年度新規発見
42	北玉川	散布地	縄文	縄文土器	平成27年度新規発見



25,000分の1「角浜」「種市」改変

第5図 周辺の遺跡

Ⅲ 調査・整理の方法

1 野外調査

(1) 調査区の区割り設定

調査区画の設定は、平面直角座標第X系の $X=45840.000$ $Y=73540.000$ を遺跡の原点とした。座標原点を起点として、遺跡全体を一辺 $40\times 40\text{m}$ の大区画に区割りを行い、さらに大区画を $4\times 4\text{m}$ の小区画に細分した。西から東側にアルファベットの大文字A～H、北から南側にローマ数字I～IXを付した。小区画は西から東側にアルファベットのa～j、北から南側に数字の1～10を与えている。調査区の名称は、大区画と小区画の組み合わせでIA1a、IA10aというように呼称した。

遺跡の基準点1～4と補点1の平面直角座標値と杭高(標高)は以下のとおりである。

基準点1	$X=45785.383$	$Y=73740.639$	$H=64.366$
基準点2	$X=45725.056$	$Y=73757.686$	$H=52.445$
基準点3	$X=45609.035$	$Y=73728.044$	$H=59.943$
基準点4	$X=45633.408$	$Y=73610.797$	$H=51.839$
補点1	$X=45697.288$	$Y=73606.894$	$H=48.472$

(2) 粗掘りと遺構検出

岩手県教育委員会生涯学習文化財課が実施した試掘結果に基づき、試掘掘削箇所に留意しながら調査を開始した。試掘結果を確認しながら重機を使用して粗掘りを行い、表土から遺構検出面上層まで掘り下げ、その後人力で遺構検出を行った。

(3) 遺構の命名

遺構名は検出された遺構ごとに順に通し番号を付して、1号陥し穴状遺構、1号土坑のように命名した。精査の過程で遺構でないと判断したものについては、野外調査・室内整理作業の混乱を避けるために欠番とした。

(4) 遺構の精査と実測

遺構精査は、二分法を原則とした。個々の遺構は埋土の堆積状況、遺構全景の撮影を行い、断面図は人手で、平面図は電子平板によって記録を行った。遺構外の遺物はグリッドと出土層位を記録して取り上げた。

(5) 写真撮影

写真撮影は 6×9 判モノクロームフィルムカメラ(FUJI GSW690Ⅲ)1台とデジタル一眼レフカメラ(Canon EOS 5D)1台で行った。撮影では、日付・遺構名などを記した撮影カードを写しこみ、室内整理作業に用いた。この他、調査終了時の平成28年12月12日、回転翼機(ヘリコプター)による航空写真撮影を行った。

1 野外調査

(6) 体験学習

平成29年11月2日に洋野町立種市中学校一学年50名が来跡し、遺構検出・精査などの体験をした。

2 室内整理

(1) 遺構図面の整理

野外調査時に計測した電子平板(株式会社キュービック「遺構くん」システム)のデータを用いて作図した平面図と、野外作業員が作図した断面図を遺構ごとに分類・点検・修正後に第二原図(修正図面)の作成、トレース、図版作成の順に作業を行った。平成28年度調査の1・2号炭窯、1・2号焼土遺構、1～4号土坑・1～39号陥し穴状遺構の図版はデジタルトレースによって遺構修正図・図版の作成を行った。平成29・30年度調査の5号～18号土坑・40～69号陥し穴状遺構は、デジタルトレースは使用せず、マイラー用紙で第2原図を作成し、手作業でトレース・図版作成を行った。野外で撮影した遺構写真は、遺構ごとに分類・整理を行い、その中から代表的な写真を選んで写真図版を作成した。

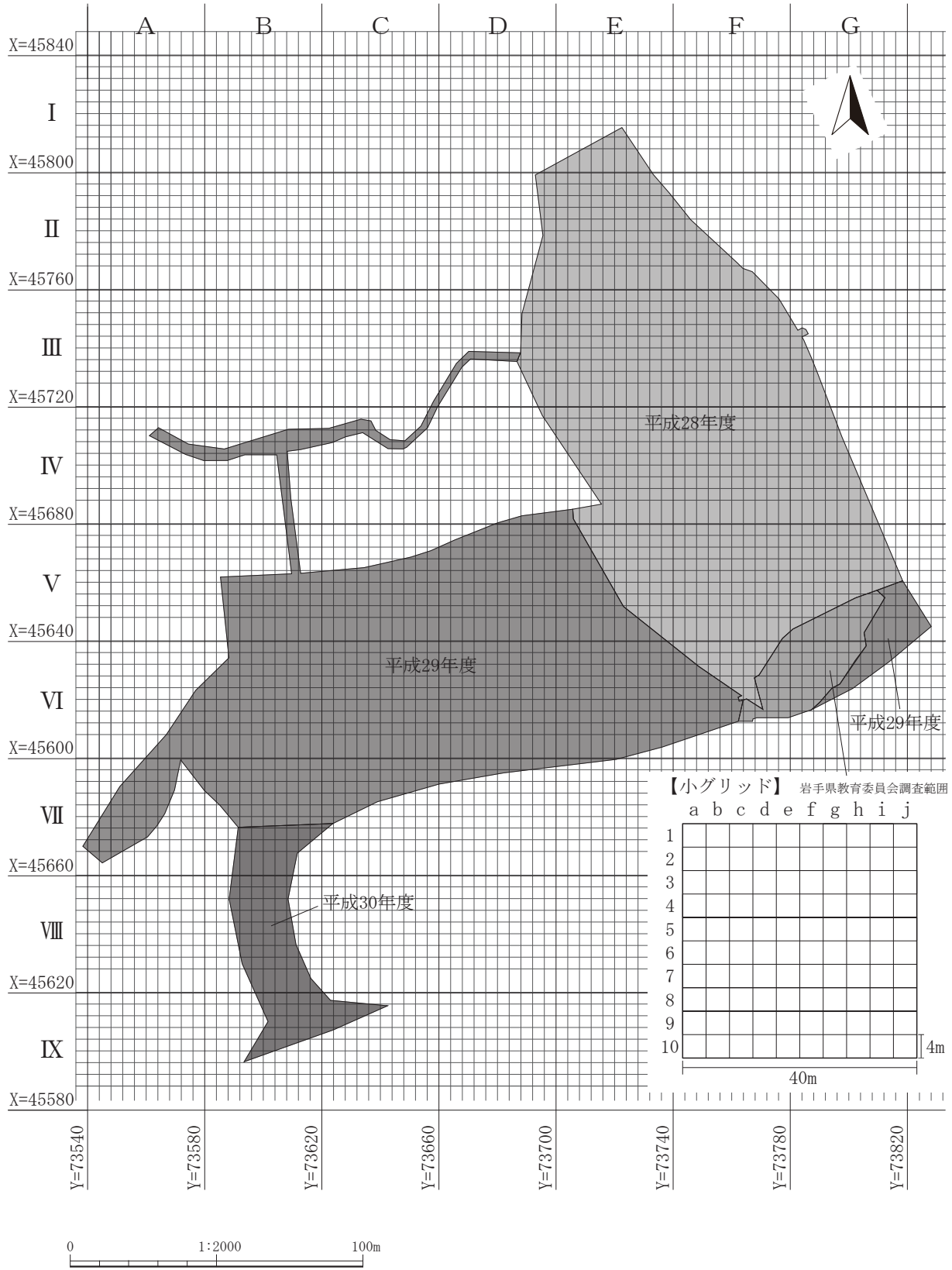
(2) 遺物の整理

出土遺物は洗浄を行い、種別毎に分類して袋に収め、袋毎に重量計測を行った。その後、遺物注記・接合作業を経て、本書掲載分と不掲載分を選別、掲載分は種別毎に仮番号を付して登録作業を行った。その後、実測・拓本、点検・修正、トレース作業を行い、図版を作成した。仮番号は最終的に掲載番号に付け替えた。本書への掲載は、土器に関しては、遺構外の口縁部・底部は全点掲載した。石器は概ね全体器形が把握できるものを優先して掲載した。

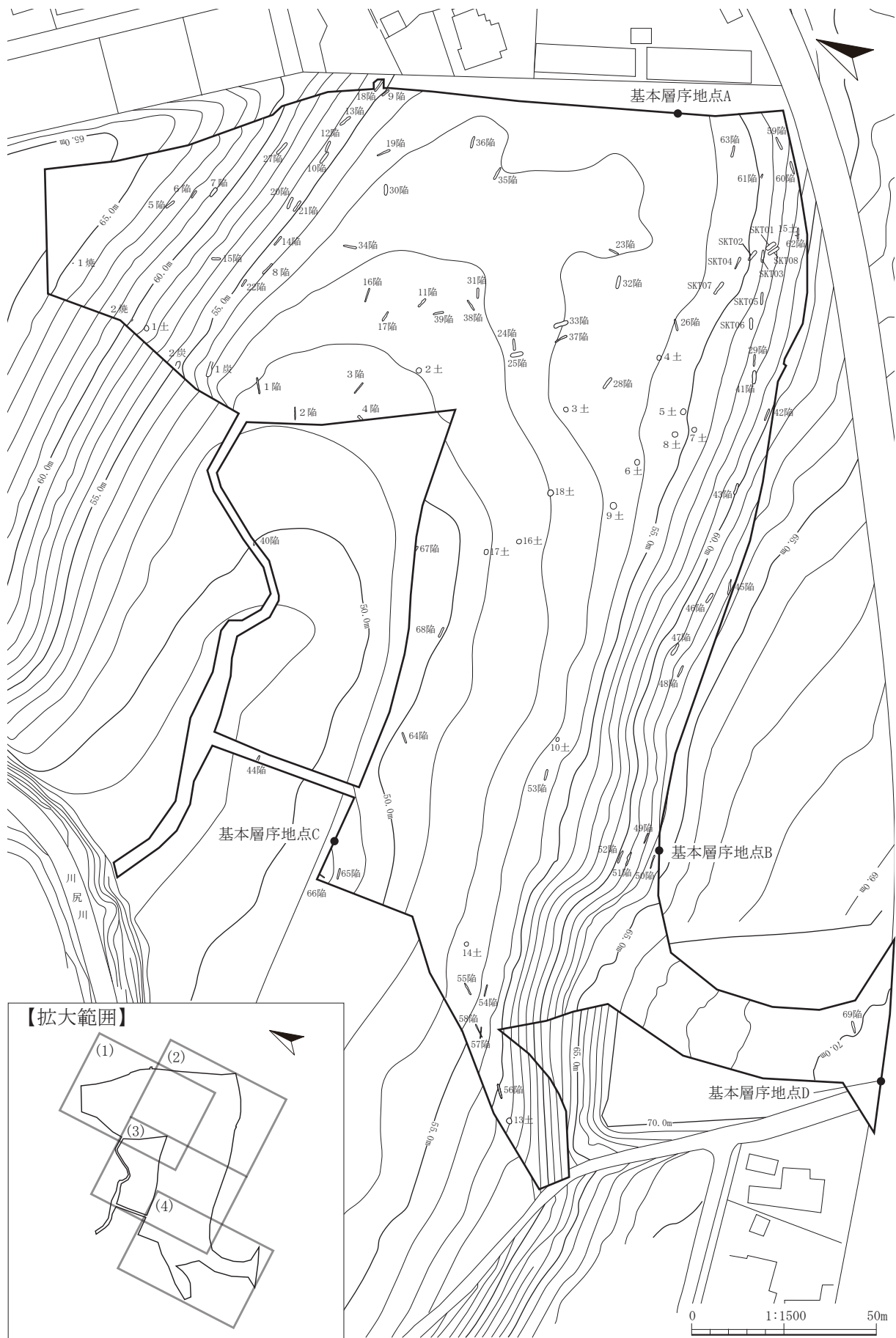
(3) 写真撮影と整理

野外調査時の記録写真等は、6×9判モノクローム写真はネガとともにアルバムに貼付し、デジタルカメラデータは遺構毎に個別フォルダにまとめデータを格納した。遺構写真図版の原稿はデジタルデータを編集して作成している。

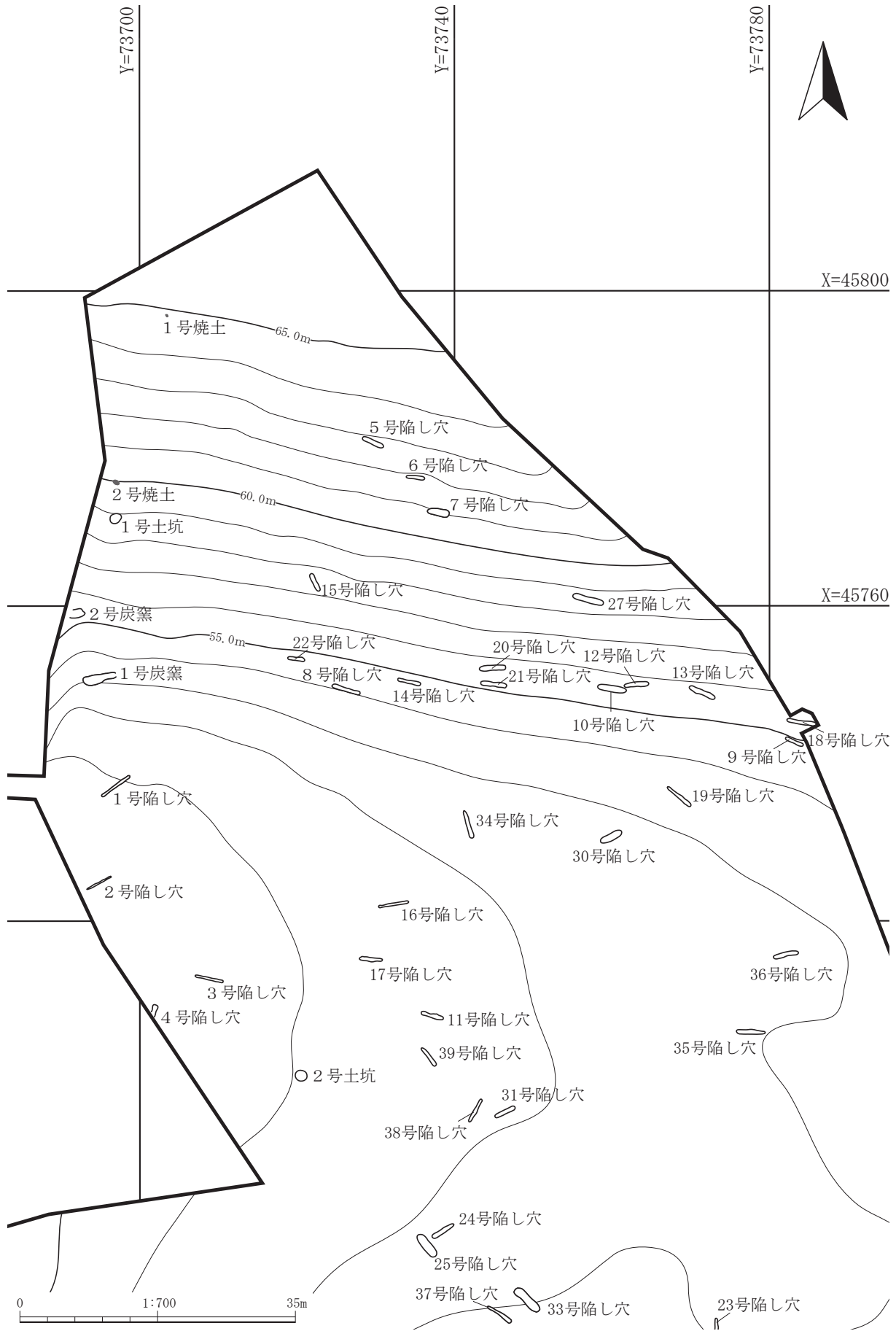
遺物写真は、当センター写真室にて撮影技師がデジタル一眼レフ(Canon EOS1 Mark II)にて撮影した。



第6図 グリッド配置図

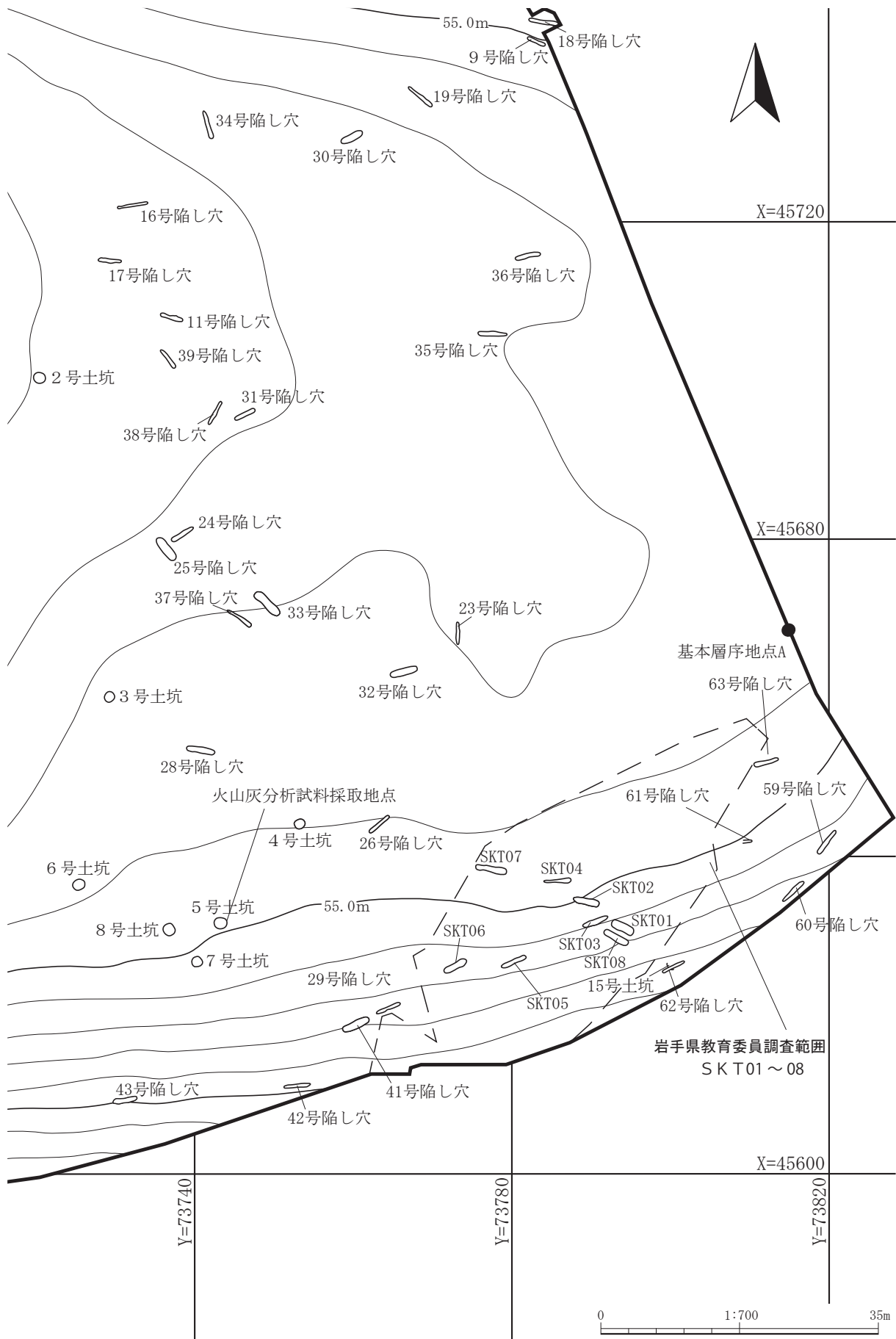


第7図 遺構配置図

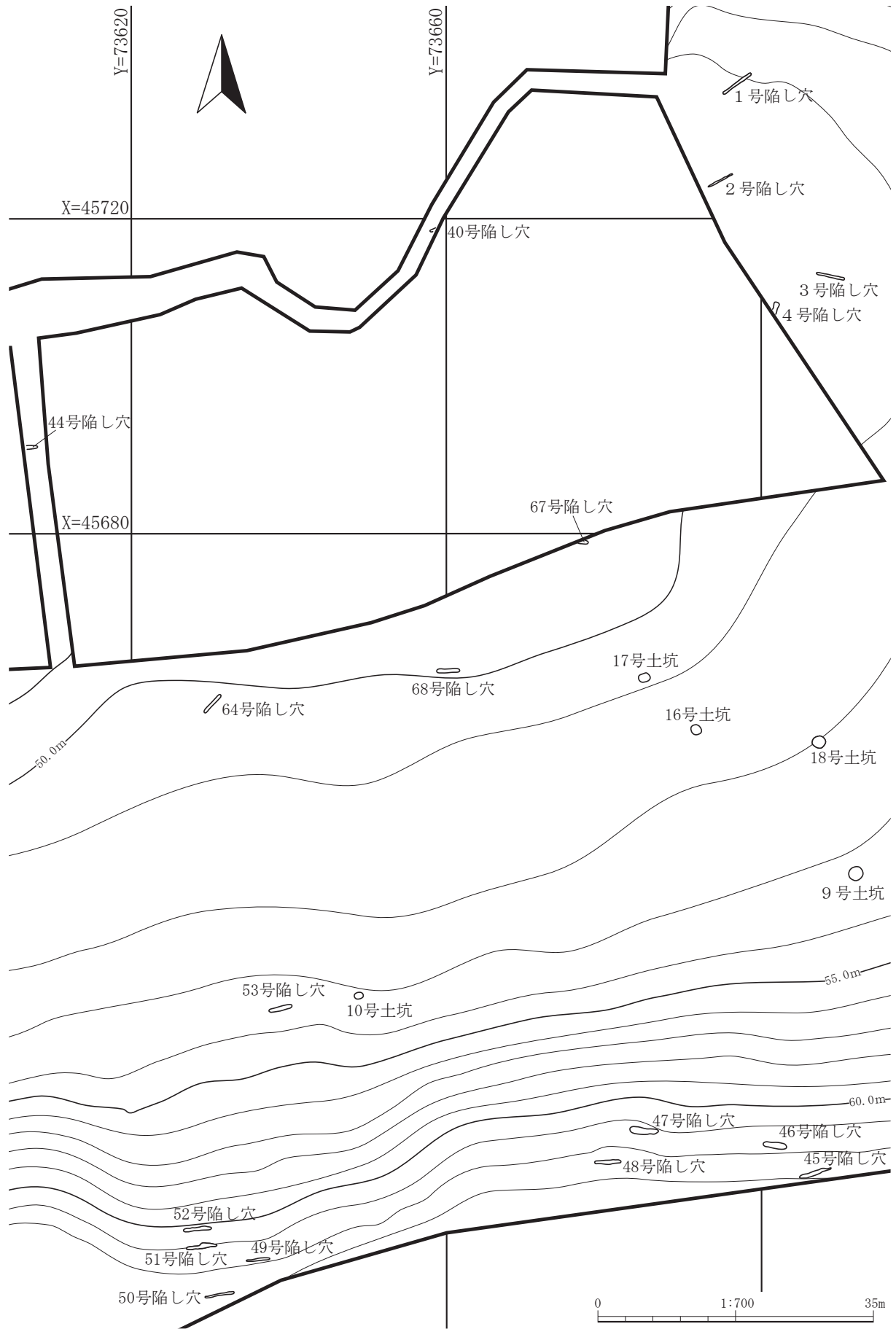


第8図 遺構配置図拡大図 (1)

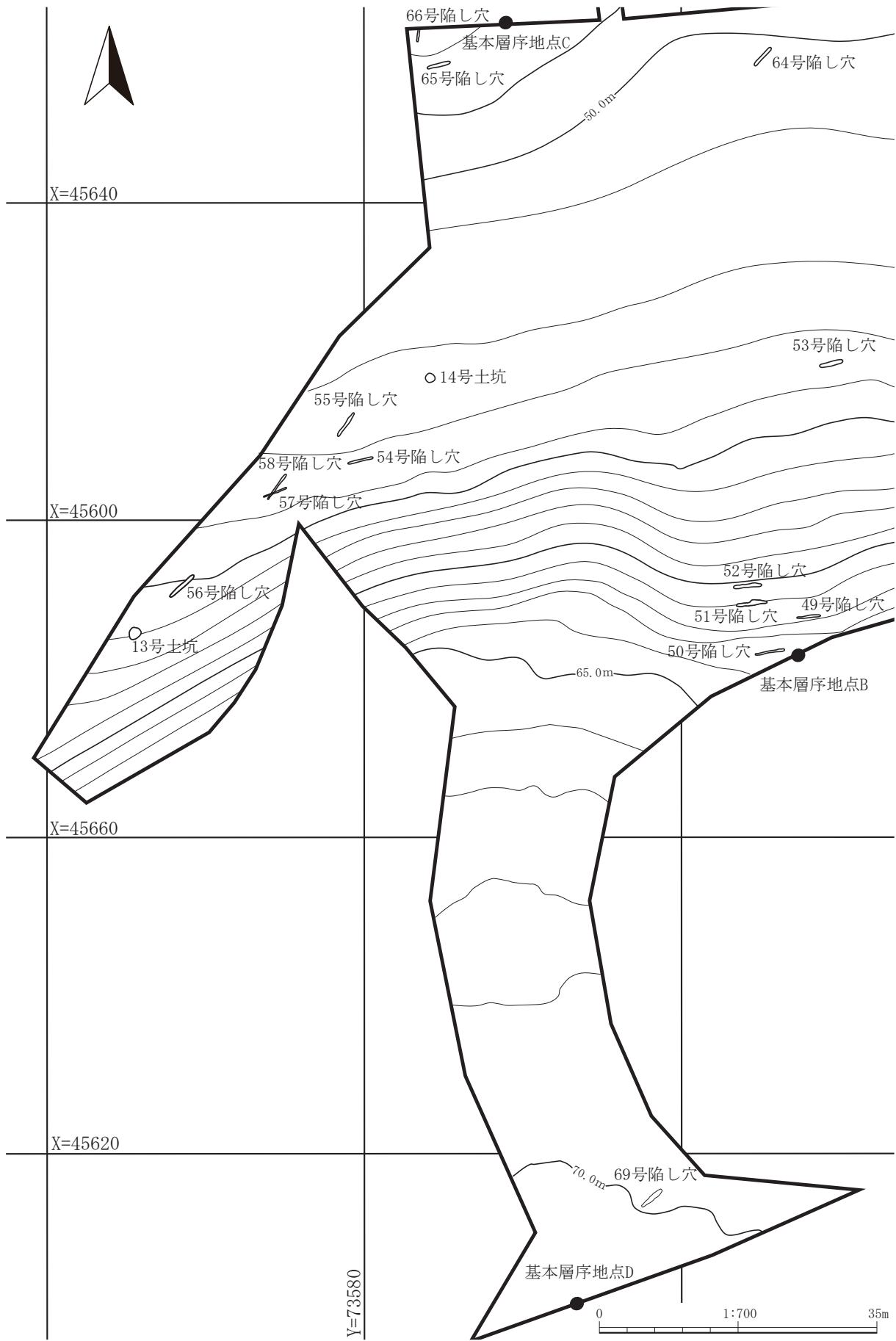
2 室内整理



第9図 遺構配置図拡大図 (2)



第10図 遺構配置図拡大図 (3)



第11図 遺構配置図拡大図 (4)

IV 検出された遺構

1 調査経過

平成28年度は9月15日から重機による表土掘削を行い、10月3日から作業員を増員して遺構検出作業を行った。11月2日から遺構精査を開始し、遺構精査は12月16日に完了し同日作業終了。12月12日に航空写真撮影を行った。

平成29年度は4月12日から重機による表土掘削を行った。調査区外に残土を搬出することができなかったことから、調査区北側を残土置き場とし、4月17日から調査可能な南側の検出を行った。9月1日の精査を終えた後、9月4日から、10月4日にかけて調査区北側に置いた残土を調査終了した南側調査区(調査完了区域)に移動させ、10月16日から調査を再開し11月29日に終了した。

平成30年度は4月5日から4月23日にかけて表土掘削を行い、その後検出を行った。調査区南端は工事ヤードとして使用されていたことから、調査を一旦中断し、8月20日から9月7日にかけて南端の表土掘削を行い、その後検出・精査を再開し、9月30日に終了した。

2 検出遺構(第12～39図、写真図版3～35)

調査で検出した遺構は、焼土遺構2基、炭窯2基、溝状陥し穴状遺構69基、土坑16基である。遺構は十和田南部浮石テフラ堆積層(基本層序AのV層・基本層序BのIV層・基本層序CのV層・基本層序DのIII層)上面で検出されている。調査区東側の基本層序AのIV～VI層上面で検出されたものは1・2号炭窯、1・2号焼土遺構、1～40・44・59～63・67号陥し穴状遺構、1～9・15～17号土坑、調査区南東側頂部の基本層序BのIV層上面で検出されたものは41～43・45～52号陥し穴状遺構、調査区南側の基本層序CのIII層上面で検出されたものは53～58・64～66・68号陥し穴状遺構、10・13・14号土坑、調査区南側の基本層序DのIII層上面で検出されたものは69号陥し穴状遺構である。

(1) 炭 窯

1号炭窯(第12図 写真図版3)

ⅢD3i・ⅢD3jグリッドに位置する。基本層序AのIV層で検出した。形状は楕円形で、規模は420×122cmである。深さは10cmである。時期は近代の遺構と考えられる。

2号炭窯(第12図 写真図版4)

ⅢD1h・ⅢD1iグリッドに位置する。基本層序AⅢ～IV層で検出した。形状は楕円形で、規模は180cm×102cmである。深さは28cmである。時期は近代の遺構と考えられる。

(2) 焼 土 遺 構

1号焼土遺構(第12図 写真図版5)

ⅡE1aグリッドに位置する。基本層序AのV層上面において、赤褐色土の不明瞭な円形のプランとして検出した。規模は35×27cm。厚さは10cmである。時期は検出面から縄文時代と考えられる。

2 検出遺構

2号焼土遺構(第12図 写真図版5)

ⅡD7j グリッドに位置する。基本層序AのⅥ層上面において、赤褐色土の不明瞭な円形のプランとして検出した。規模は84×43cmである。厚さは最大10cmである。焼土上面から遺物番号2～4が出土している。時期は遺物から縄文時代～弥生時代と考えられる。

(3) 陥し穴状遺構(第13～35図、写真図版6～24、第2表)

検出された溝状陥し穴状遺構の総数は69基である。検出面は、遺構プランが明瞭に把握できる十和田南部浮石堆積層上面である。遺構構築の時期は、66号陥し穴状遺構における調査区境界の断面観察でⅡ層から掘り込まれた痕跡を確認したことから(位置は調査区西側・基本層序C地点付近)、Ⅱ層が形成された時期より新しいと考えられるが、詳細な時期を特定することは出来なかった。溝状陥し穴状遺構の調査は、主に短軸方向断面で埋土の堆積状況を記録し、長軸はエレベーション断面を図示している。なお、45～47・52号陥し穴状遺構では、詳細な堆積状況を確認する目的で長軸方向での半裁を試みた。結果として、開口部の閉塞に関連した構造物、残置された杭・逆茂木等の痕跡は確認されなかった。半裁時の作業量が増大したため、長軸での半裁は上記の4基にとどめている。

(4) 土坑(第36～39図、写真図版27～35、第2表)

検出された土坑の総数は16基である。副穴を伴うもの11基と伴わないもの5基の2種に大別することが出来る。副穴を伴う土坑には埋土上部に十和田中掬テフラが認められるもの(5・6・9・13・14号土坑)がある。テフラの堆積状況から十和田南部浮石降下以降、十和田中掬テフラ降下以前に構築された遺構と考えられる。埋土に十和田中掬テフラが認められないが、副穴を伴う土坑についても同時期のものと判断している。性格は陥し穴として機能していたものと考えられる。

前記以外の土坑の時期・性格については不明である。時期は縄文時代の遺構と考えられる(15号土坑は、62号陥し穴状遺構に截られる)。

第2表 陥し穴機構・土坑観察表

遺構名		1号陥し穴状遺構	2号陥し穴状遺構	3号陥し穴状遺構
位置		ⅢD6j・7i	ⅢD9i・9J	ⅣE2b・2c
検出面		Ⅵ層	Ⅵ層	Ⅵ層
重複関係		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面形	V字形	V字形	U字形
規模	開口部径(m)	4.40×0.36	3.50×0.16	3.64×0.32
	深さ(m)	0.96	0.72	0.68
長軸方位		N-55°-E	N-62°-E	N-79°-W
埋土		7層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	7層に細分した。黒色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	8層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴		なし	なし	なし
底面		南西側傾斜	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図		13	13	13
写真図版		5	5	6
特記事項		両端オーバーハング	両端オーバーハング	

遺構名		4号陥し穴状遺構	5号陥し穴状遺構	6号陥し穴状遺構
位置		ⅣE3a・4a	ⅡE5h・6h	ⅡE6i
検出面		V~Ⅵ層	V層	V層
重複関係		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面形	Y字形	逆台形	Y字形
規模	開口部径(m)	短軸0.60	2.91×0.52	2.36×0.40
	深さ(m)	1.09	0.89	0.59
長軸方位		N-21°-E	N-66°-W	N-84°-W
埋土		8層に細分した。黒色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	3層に細分した。黒色土・褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	3層に細分した。黒褐色土・褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴		なし	なし	なし
底面		ほぼ平坦	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図		14	14	14
写真図版		6	6	6
特記事項		両端オーバーハング		

2 検出遺構

遺構名	7号陥し穴状遺構	8号陥し穴状遺構	9号陥し穴状遺構
位置	ⅡE7j・8j	ⅢE3g	ⅢG5a
検出面	V層	V層	V層
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	U字形	V字形
規模	開口部径(m)	2.81×0.96	3.66×0.40
	深さ(m)	1.16	1.20
長軸方位	N-84° -W	N-75° -W	N-68° -W
埋土	2層に細分した。暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒色土・壁面崩落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	3層に細分した。黒褐色土・暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	東側に傾斜	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図	15	15	15
写真図版	7	7	7
特記事項		両端オーバーハング	両端オーバーハング

遺構名	10号陥し穴状遺構	11号陥し穴状遺構	12号陥し穴状遺構
位置	ⅢF3e・3f	ⅣE3i・3j・4j	ⅢF3f・3g
検出面	V層	V層	V層
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	Y字形	Y字形
規模	開口部径(m)	3.69×0.86	2.90×0.43
	深さ(m)	1.58	0.63
長軸方位	N-82° -W	N-74° -W	N-84° -W
埋土	5層に細分した。暗褐色土・壁面崩落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	4層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	ほぼ平坦	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図	16	16	16
写真図版	7	8	8
特記事項	両端オーバーハング		両端オーバーハング

IV 検出された遺構

遺構名	13号陥し穴状遺構	14号陥し穴状遺構	15号陥し穴状遺構
位置	Ⅲ F 3 h・3 i	Ⅲ E 3 i	Ⅱ E 10 f
検出面	V層	VII層	V層
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	V字形	V字形
規模	開口部径 (m)	3.57×0.62	2.96×0.40
	深さ (m)	1.11	1.12
長軸方位	N-62° -W	N-77° -W	N-25° -W
埋土	3層に細分した。黒褐色土・暗褐色土で構成される。自然堆積と思われる。	7層に細分した。黒褐色土・壁面崩落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒褐色土・壁面崩落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	ほぼ平坦	ほぼ平坦	南東側に傾斜
図	17	17	17
写真図版	8	8	9
特記事項			両端オーバーハング

遺構名	16号陥し穴状遺構	17号陥し穴状遺構	18号陥し穴状遺構
位置	Ⅲ E 10 h・10 i	Ⅳ E 2 h	Ⅲ G 4 a・4 b
検出面	VI層	VI層	V層
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	V字形	Y字形
規模	開口部径 (m)	3.88×0.36	2.92×0.49
	深さ (m)	0.59	0.72
長軸方位	N-81° -E	N-86° -W	N-82° -W
埋土	7層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒色土・壁面崩落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒褐色土・壁面崩落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	ほぼ平坦	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図	18	18	18
写真図版	9	9	9
特記事項	両端オーバーハング		両端オーバーハング

2 検出遺構

遺構名		19号陥し穴状遺構	20号陥し穴状遺構	21号陥し穴状遺構
位置		Ⅲ F 6 g・6 h・7 h	Ⅲ F 2 a・2 b	Ⅲ F 3 a・3 b
検出面		V層	VII層	VII層
重複関係		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面形	V字形	Y字形	V字形
規模	開口部径(m)	3.82×0.42	3.32×0.68	3.36×0.52
	深さ(m)	1.18	1.44	1.28
長軸方位		N-53°-W	N-86°-E	N-85°-W
埋土		4層に細分した。黒褐色土・黒色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒褐色土・壁面崩落土で構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒褐色土・壁面崩落土で構成される。自然堆積と思われる。
副穴		なし	なし	なし
底面		ほぼ平坦	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図		19	19	19
写真図版		10	10	10
特記事項		両端オーバーハング	両端オーバーハング	両端オーバーハング

遺構名		22号陥し穴状遺構	23号陥し穴状遺構	24号陥し穴状遺構
位置		Ⅲ E 2 e・2 f	V F 3 i・4 i	IV E 10 j・VE 1 j
検出面		VII層	V層	V層
重複関係		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面形	U字形	U字形	Y字形
規模	開口部径(m)	2.20×0.36	2.80×0.42	3.26×0.58
	深さ(m)	0.48	0.82	1.00
長軸方位		N-82°-W	N-2°-W	N-60°-E
埋土		3層に細分した。にぶい橙色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	5層に細分した。黒色土・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒色土・暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴		なし	なし	なし
底面		凹凸	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図		20	20	20
写真図版		10	11	11
特記事項				

IV 検出された遺構

遺構名	25号陥し穴状遺構	26号陥し穴状遺構	27号陥し穴状遺構
位置	IV E 10 i・VE 1 i・1 j	V F 9 f・10 f	II F 10 d・10 e
検出面	V層	V層	V層
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	Y字形	V字形
規模	開口部径(m)	3.54×1.14	3.26×0.4
	深さ(m)	1.48	0.86
長軸方位	N-60°-W	N-50°-E	N-75°-W
埋土	9層に細分した。黒色土・暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	3層に細分した。黒色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	7層に細分した。褐色土・暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	北西側に傾斜	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図	21	21	21
写真図版	11	11	12
特記事項	両端オーバーハング	両端オーバーハング	

遺構名	28号陥し穴状遺構	29号陥し穴状遺構	30号陥し穴状遺構
位置	VE 7 j・VF 7 a	VI F 5 f・5 g	III F 8 e・8 f
検出面	V層	V層	V層
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	V字形	U字形
規模	開口部径(m)	3.58×0.78	3.26×0.38
	深さ(m)	1.24	0.71
長軸方位	N-80°-W	N-66°-E	N-61°-E
埋土	12層に細分した。褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒色土・褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	7層に細分した。黒色土・暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	両端傾斜	ほぼ平坦	両端傾斜
図	22	22	22
写真図版	12	12	12
特記事項	両端オーバーハング	両端オーバーハング	両端オーバーハング

2 検出遺構

遺構名	31号陥し穴状遺構	32号陥し穴状遺構	33号陥し穴状遺構
位置	IV F 6 b・7 b	V F 5 g・5 h	V F 2 c・3 c
検出面	V層	V層	V層
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	Y字形	Y字形
規模	開口部径 (m)	2.82×0.52	4.04×0.96
	深さ (m)	1.06	1.34
長軸方位	N-65° -E	N-77° -E	N-47° -W
埋土	5層に細分した。黒色土・壁面崩落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	9層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	9層に細分した。黒色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	ほぼ平坦	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図	23	23	23
写真図版	13	13	13
特記事項		両端オーバーハング	

遺構名	34号陥し穴状遺構	35号陥し穴状遺構	36号陥し穴状遺構
位置	III F 7 a・8 a	IV F 4 j	IV G 1 a・2 a
検出面	VI層	V層	V層
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	V字形	Y字形
規模	開口部径 (m)	3.68×0.48	3.22×0.49
	深さ (m)	1.20	1.53
長軸方位	N-16° -W	N-88° -W	N-78° -E
埋土	7層に細分した。黒色土・黒褐色土・壁面崩落土で構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒褐色土・壁面崩落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	4層に細分した。黒色土・黒褐色土・壁面崩落土で構成される。
副穴	なし	なし	なし
底面	ほぼ平坦	西側に傾斜	ほぼ平坦
図	24	24	24
写真図版	13	14	14
特記事項	両端オーバーハング	両端オーバーハング	

IV 検出された遺構

遺構名	37号陥し穴状遺構	38号陥し穴状遺構	39号陥し穴状遺構
位置	V F 3 b	IV F 6 a・7 a	IV E 5 i・5 j
検出面	V層	VI層	VI層
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	U字形	Y字形
規模	開口部径(m)	3.56×0.32	3.32×0.46
	深さ(m)	1.32	0.98
長軸方位	N-59°-W	N-29°-E	N-39°-W
埋土	3層に細分した。黒色土・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	ほぼ平坦	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図	25	25	25
写真図版	14	14	15
特記事項	両端オーバーハング		両端オーバーハング

遺構名	40号陥し穴状遺構	41号陥し穴状遺構	42号陥し穴状遺構
位置	IV C 1 j	VI F 6 e・6 f	VI F 8 c・8 d
検出面	V層	V層	V層
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	U字形	Y字形
規模	開口部径(m)	短軸0.39	3.54×0.94
	深さ(m)	0.37	1.34
長軸方位	N-30°-E	N-63°-E	N-84°-E
埋土	4層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒色土・黒褐色土・暗褐色土で構成される。自然堆積と思われる。	3層に細分した。黒色土で構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	ほぼ平坦	ほぼ平坦	両端傾斜
図	26	26	26
写真図版	15	15	15
特記事項		両端オーバーハング	両端オーバーハング

2 検出遺構

遺構名	43号陥し穴状遺構	44号陥し穴状遺構	45号陥し穴状遺構
位置	VI E 8 h・8 i	IV B 8 g	VII E 1 b・1 c
検出面	V層	V層	V層
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	V字形	V字形
規模	開口部径 (m)	3.14×0.58	短軸0.44
	深さ (m)	1.2	0.86
長軸方位	N-80° - E	N-87° - E	N-73° - E
埋土	4層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	7層に細分した。黒色土・壁面崩落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	ほぼ平坦	ほぼ平坦	凹凸
図	27	27	27
写真図版	16	16	17
特記事項	両端オーバーハング		

遺構名	46号陥し穴状遺構	47号陥し穴状遺構	48号陥し穴状遺構
位置	VI E 10 a	VI D 9 f・9 g・10 f・10 g	VI D 10 e・10 f・VII 1 e・1 f
検出面	V層	V層	V層
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	V字形	Y字形
規模	開口部径 (m)	2.97×0.82	3.47×0.78
	深さ (m)	1.52	1.49
長軸方位	N-83° - W	N-90° - E	N-90° - E
埋土	6層に細分した。黒色土・壁面崩落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	7層に細分した。黒色土・壁面崩落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	5層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	中央部が最深	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図	28	28	29
写真図版	18	19	16
特記事項	両端オーバーハング。埋土上部から縄文土器1片出土。	両端オーバーハング	

IV 検出された遺構

遺構名	49号陥し穴状遺構	50号陥し穴状遺構	51号陥し穴状遺構
位置	VII C 4 d・4 e	VII C 5 c・5 d	VII C 3 b・3 c
検出面	VII層	VII層	V層
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	U字形	Y字形
規模	開口部径 (m)	3.25×0.32	3.72×0.22
	深さ (m)	0.66	0.19
長軸方位	N-85° - E	N-81° - E	N-84° - E
埋土	2層に細分した。黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。	黒色土で構成される。自然堆積と思われる。	3層に細分した。黒色土・壁面崩落土で構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	ほぼ平坦	凹凸	ほぼ平坦
図	29	29	30
写真図版	16	20	20
特記事項	両端オーバーハング		

遺構名	52号陥し穴状遺構	53号陥し穴状遺構	54号陥し穴状遺構
位置	VII C 3 b・3 c	VII C 5 e・5 f・6 e・6 f	VIA 9 j・VIB 9 a
検出面	V層	V層	V層
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	V字形	Y字形
規模	開口部径 (m)	3.69×0.49	2.96×0.61
	深さ (m)	0.89	1.25
長軸方位	N-84° - E	N-77° - E	N-75° - E
埋土	4層に細分した。黒色土・壁面崩落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	4層に細分した。黒色土・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	ほぼ平坦	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図	30	30	31
写真図版	20	20	21
特記事項	両端オーバーハング	両端オーバーハング	両端オーバーハング

2 検出遺構

遺構名	55号陥し穴状遺構	56号陥し穴状遺構	57号陥し穴状遺構
位置	ⅥA 7j・8j	ⅦA 2e・3d・3e	ⅥA 10g・10h
検出面	V層	V層	Ⅶ層
重複関係	なし	なし	58号陥し穴状遺構を載る
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	Y字形	Y字形
規模	開口部径 (m)	3.57×0.21	4.05×0.41
	深さ (m)	1.12	1.40
長軸方位	N-35° - E	N-49° - E	N-70° - E
埋土	6層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	4層に細分した。黒色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	2層に細分した。暗褐色土・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	東側に傾斜	ほぼ平坦	東側に傾斜
図	31	32	32
写真図版	21	21	21
特記事項	両端オーバーハング	両端オーバーハング	両端オーバーハング

遺構名	58号陥し穴状遺構	59号陥し穴状遺構	60号陥し穴状遺構
位置	ⅥA 9h・10g・10h	ⅤG 10j・ⅤH 10a	ⅥG 1i・2i・1j・2j
検出面	V層	V層	V層
重複関係	57号陥し穴に截られる	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	V字形	U字形
規模	開口部径 (m)	4.04×0.21	3.62×0.50
	深さ (m)	0.92	0.76
長軸方位	N-36° - E	N-34° - E	N-48° - E
埋土	4層に細分した。暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	4層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	5層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴	なし	なし	なし
底面	東側に傾斜	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図	32	33	33
写真図版	22	22	22
特記事項	両端オーバーハング	両端オーバーハング	両端オーバーハング

IV 検出された遺構

遺構名	61号陥し穴状遺構		62号陥し穴状遺構		63号陥し穴状遺構	
位置	V G 10h		VI G 4e・4 f		V G 7h・7 i・8h・8 i	
検出面	V層		V層		V層	
重複関係	なし		なし		15号土坑を載る	
形状	平面形	溝状	溝状		溝状	
	断面形	Y字形	Y字形		Y字形	
規模	開口部径(m)	短軸0.46	3.10×0.43		3.21×0.49	
	深さ(m)	0.89	0.82		0.86	
長軸方位	N-85° - E		N-65° - E		N-76° - E	
埋土	4層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。		3層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。		3層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	
副穴	なし		なし		なし	
底面	ほぼ平坦		東側に傾斜		ほぼ平坦	
図	33		34		34	
写真図版	22		23		23	
特記事項	両端オーバーハング		両端オーバーハング		両端オーバーハング	

遺構名	64号陥し穴状遺構		65号陥し穴状遺構		66号陥し穴状遺構	
位置	V C 6c		V B 6c		V B 5b	
検出面	V層		VII層		VII層	
重複関係	なし		なし		なし	
形状	平面形	溝状	溝状		溝状	
	断面形	U字形	U字形		Y字形	
規模	開口部径(m)	3.06×0.21	2.96×0.48		短軸0.25	
	深さ(m)	0.58	0.55		0.67	
長軸方位	N-43° - E		N-75° - E		N-6° - E	
埋土	3層に細分した。黒色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。		4層に細分した。黒褐色土・暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。		2層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	
副穴	なし		なし		なし	
底面	ほぼ平坦		ほぼ平坦		ほぼ平坦	
図	34		35		35	
写真図版	23		23		24	
特記事項			両端オーバーハング			

2 検出遺構

遺構名		67号陥し穴状遺構	68号陥し穴状遺構	69号陥し穴状遺構
位置		V D 1 e	V C 5 j ・ V D 5 a	I X B 2 i ・ 2 j
検出面		V 層	V 層	V 層
重複関係		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面形	Y 字形	Y 字形	Y 字形
規模	開口部径 (m)	短軸0.44	2.95×0.48	3.25×0.63
	深さ (m)	0.75	0.62	1.11
長軸方位		N-83° -W	N-90° -E	N-50° -E
埋土		不明。	4層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	6層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴		なし	なし	なし
底面		ほぼ平坦	ほぼ平坦	北東側に傾斜
図		35	35	35
写真図版		24	24	24
特記事項			両端オーバーハング	両端オーバーハング

遺構名		1号土坑	2号土坑	3号土坑
位置		I I D 8 j	I V E 5 f ・ 6 f	V E 5 h ・ 6 h
検出面		V 層	V 層	V 層
重複関係		なし	なし	なし
形状	平面形	不整形	円形	不整形
	断面形	逆台形	逆台形	逆台形
規模	開口部径 (m)	1.36×1.28	1.58×1.36	1.42×1.20
	最深部 (m)	1.02	0.62	0.94
埋土		4層に細分した。黒褐色土・にぶい黄褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	12層に細分した。黒色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	5層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴		なし	なし	なし
底面		ほぼ平坦	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図		36	36	36
写真図版		25	25	25
特記事項				

遺構名	4号土坑		5号土坑(陥し穴状遺構)		6号土坑(陥し穴状遺構)	
位置	VF9d・10d		VI F 2a・3a・3b		VI E 1g・2g	
検出面	V層		V層		V層	
重複関係	なし		なし		なし	
形状	平面形	円形	楕円形		楕円形	
	断面形	逆台形	逆台形		逆台形	
規模	開口部径(m)	1.34×1.18	1.63×1.40		1.56×1.34	
	最深部(m)	0.84	1.08		0.99	
埋土	9層に細分した。黒色土・暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。		5層に細分した。To-cu・黒褐色土・暗褐色土で構成される。自然堆積と思われる。		3層に細分した。To-cu・黒褐色土・暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	
副穴	なし		22基		9基	
底面	ほぼ平坦		ほぼ平坦		ほぼ平坦	
図	36		37		37	
写真図版	25		27		28	
特記事項			陥し穴状遺構		陥し穴状遺構	

遺構名	7号土坑(陥し穴状遺構)		8号土坑(陥し穴状遺構)		9号土坑(陥し穴状遺構)	
位置	VI F 4a		VI E 3j		VI E 1c・1d	
検出面	V層		V層		V層	
重複関係	なし		なし		なし	
形状	平面形	不正形	円形		円形	
	断面形	逆台形	フラスコ状		逆台形	
規模	開口部径(m)	1.76×1.36	1.44×1.42		1.81×1.52	
	最深部(m)	1.07	0.68		1.09	
埋土	3層に細分した。黒色土で構成される。自然堆積と思われる。		3層に細分した。黒褐色土で主体に構成される。自然堆積と思われる。		4層に細分した。To-cu・黒褐色土・暗褐色土で構成される。自然堆積と思われる。	
副穴	6基		なし		10基	
底面	ほぼ平坦		ほぼ平坦		ほぼ平坦	
図	37		37		38	
写真図版	29		26		30	
特記事項	副穴の深さ20~43cm。埋土は黒褐色土である。To-Nbを含むものがある。陥し穴状遺構である。		副穴の深さ17~23cm。埋土は黒褐色土である。陥し穴状遺構である。		副穴の深さ6~24cm。埋土は黒褐色土である。To-Nbを含むものがある。陥し穴状遺構である。	

2 検出遺構

遺構名		10号土坑（陥し穴状遺構）	11号土坑 欠	12号土坑 欠
位置		VI C 5 h	—	—
検出面		V層	—	—
重複関係		なし	—	—
形状	平面形	小判形	—	—
	断面形	筒形	—	—
規模	開口部径 (m)	1.16×0.78	—	—
	最深部 (m)	0.92	—	—
埋土		3層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	—	—
副穴		7基	—	—
底面		ほぼ平坦	—	—
図		38	—	—
写真図版		31	—	—
特記事項		副穴の深さ6～8cm。埋土は暗褐色土または黒褐色土である。To-Nbを含むものがある。陥し穴状遺構である。		

遺構名		13号土坑（陥し穴状遺構）	14号土坑（陥し穴状遺構）	15号土坑
位置		VII A 4 c	VI B 6 b・6 c	VI G 4 e・4 f
検出面		V層	V層	V層
重複関係		なし	なし	62号陥し穴に截られる
形状	平面形	楕円形	円形	円形？
	断面形	逆台形	逆台形	筒形
規模	開口部径 (m)	1.80×1.40	1.38×1.15	径1.08
	最深部 (m)	1.15	0.95	0.82
埋土		5層に細分した。To-cu・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。	3層に細分した。To-cu・黒褐色土・黒色土で構成される。自然堆積と思われる。	2層に細分した。黒色土・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。
副穴		8基	1基	なし
底面		段を有す	凹凸	ほぼ平坦
図		38	38	39
写真図版		32	33	26
特記事項		副穴の深さ16～26cm。埋土は暗褐色土To-Nbは含まれない。陥し穴状遺構である。	副穴の深さ10cm。陥し穴状遺構である。	

遺構名		16号土坑（陥し穴状遺構）	17号土坑（陥し穴状遺構）	18号土坑（陥し穴状遺構）
位置		V D 7 h・7 i	V D 5 g	V E 7 b・7 c
検出面		V層	V層	V層
重複関係		なし	なし	なし
形状	平面形	円形	不整円形	円形
	断面形	逆台形	逆台形	逆台形
規模	開口部径 (m)	1.32×1.23	1.48×1.22	1.69×1.56
	最深部 (m)	0.86	0.94	0.89
埋土		4層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	7層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。	5層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。
副穴		2基	1基	1基
底面		ほぼ平坦	ほぼ平坦	ほぼ平坦
図		39	39	39
写真図版		34	35	26
特記事項		副穴の深さ24cm。陥し穴状遺構である。	副穴の深さ26cm。陥し穴状遺構である。	副穴の深さ9cm。陥し穴状遺構である。

第3表 土坑副穴観察表

P	径 (cm)	深さ (cm)	埋土
4	3	33	暗褐色土To-Nb含む
5	7	43	褐色土To-Nb含む
6	4	34	黒褐色土To-Nb含む
7	11	4	黒褐色土To-Nb含む
8	4	11	黒褐色土To-Nb含む
9	4	26	黒褐色土To-Nb含む
10	6	38	黒褐色土To-Nb含む
11	4	41	黒色土To-Nb含む
18	4	31	黒褐色土To-Nb含む
19	4	24	黒褐色土
20	4	38	暗褐色土
21	4	33	黒褐色土

P	径 (cm)	深さ (cm)	埋土
2	12	18	—
5	7	23	黒褐色土
6	6	10	黒褐色土
7	8	32	黒色土To-Nb含む
9	4	37	暗褐色土

P	径 (cm)	深さ (cm)	埋土
1	10	19	黄褐色土
2	6	24	黒色土
3	5	27	黒褐色土
4	6	26	黒褐色土To-Nb含む
5	4	24	黒褐色土
6	5	41	黒褐色土

P	径 (cm)	深さ (cm)	埋土
1	6	4	黒褐色土
2	6	6	暗褐色土
3	6	23	暗褐色土
4	6	14	黒褐色土To-Nb含む
6	6	23	黒褐色土To-Nb含む
7	3	17	黒褐色土To-Nb含む
8	3	4	黒褐色土To-Nb含む

P	径 (cm)	深さ (cm)	埋土
1	6	9	暗褐色土To-Nb含む
2	5	17	暗褐色土To-Nb含む
3	4	19	黄褐色土
4	6	5	暗褐色土

P	径 (cm)	深さ (cm)	埋土
1	3	19	暗褐色土
2	4	24	暗褐色土
3	5	21	暗褐色土
4	4	20	暗褐色土
5	8	22	暗褐色土
6	6	14	暗褐色土
7	6	22	暗褐色土
8	13	17	暗褐色土

P	径 (cm)	深さ (cm)	埋土
1	34×20	12	—

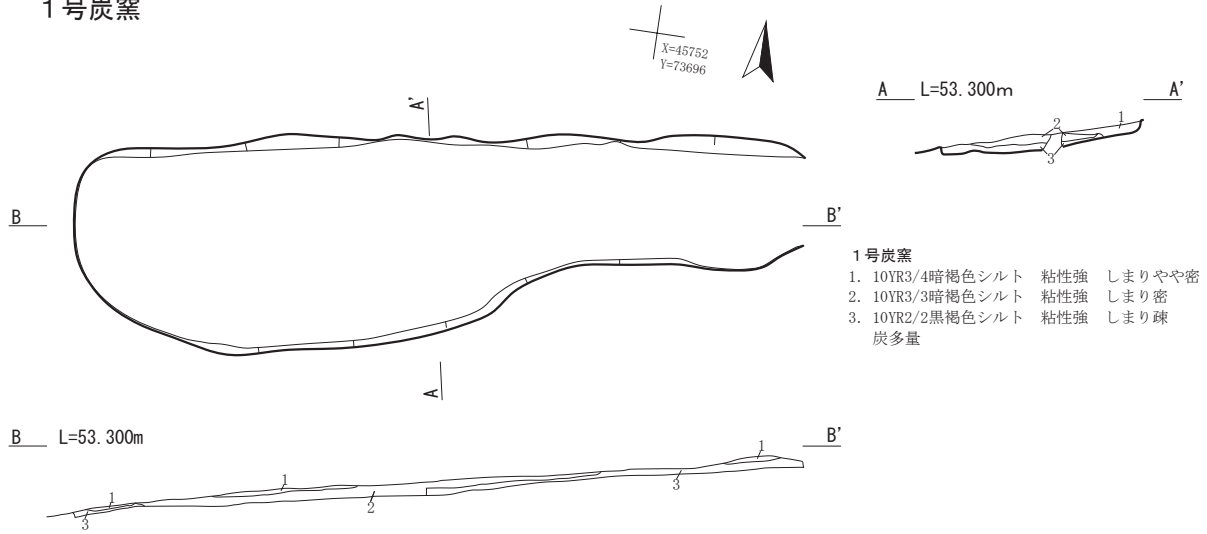
P	径 (cm)	深さ (cm)	埋土
1	20×14	14	—
2	10×8	14	—

P	径 (cm)	深さ (cm)	埋土
1	16×11	28	—

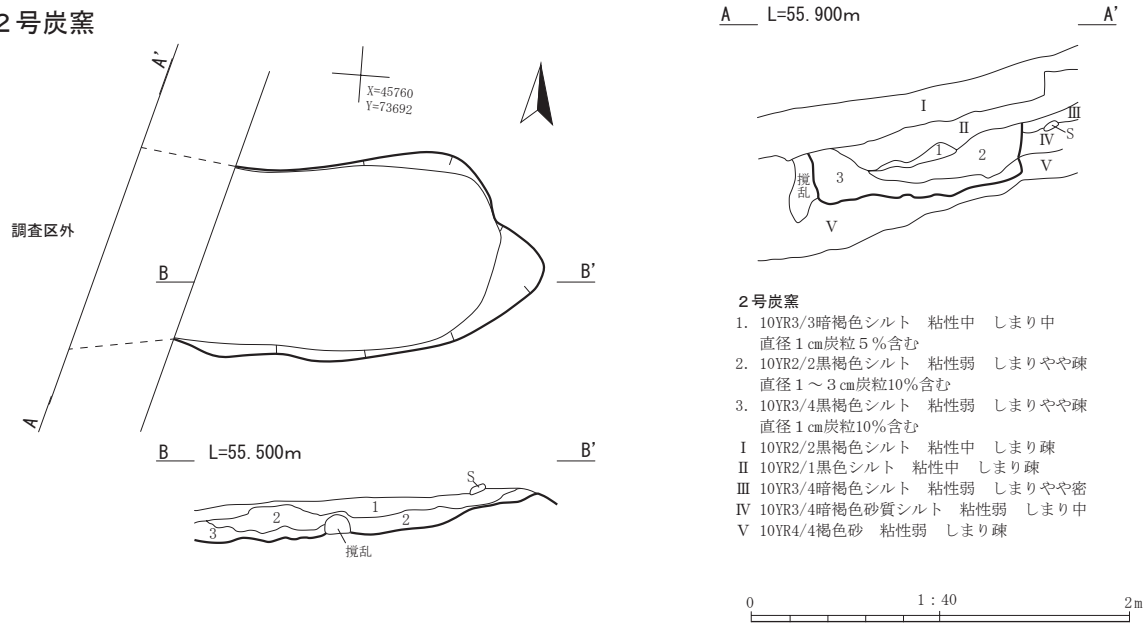
P	径 (cm)	深さ (cm)	埋土
1	16×9	10	—

2 検出遺構

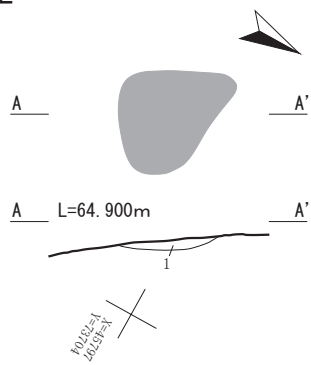
1号炭窯



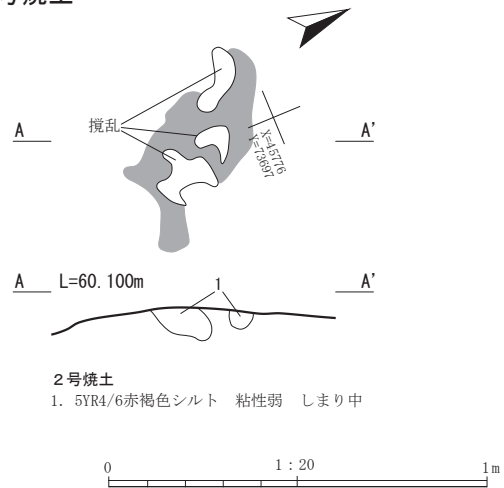
2号炭窯



1号焼土

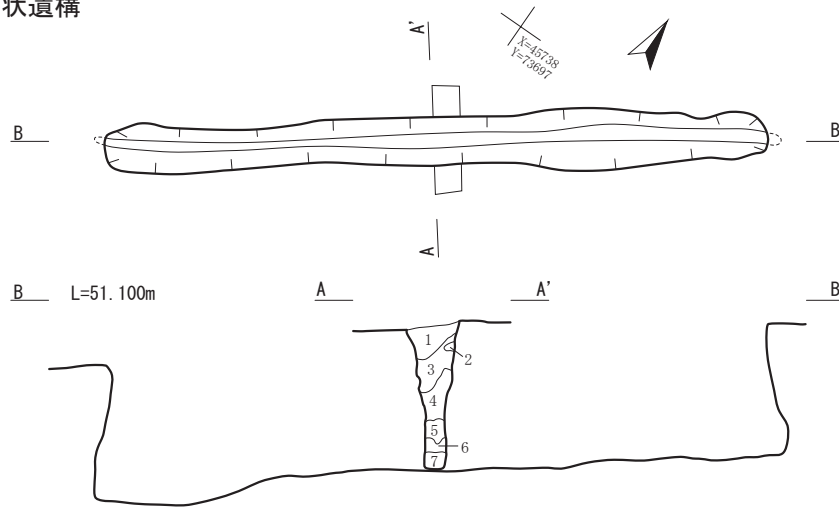


2号焼土



第12図 1・2号炭窯 1・2号焼土遺構

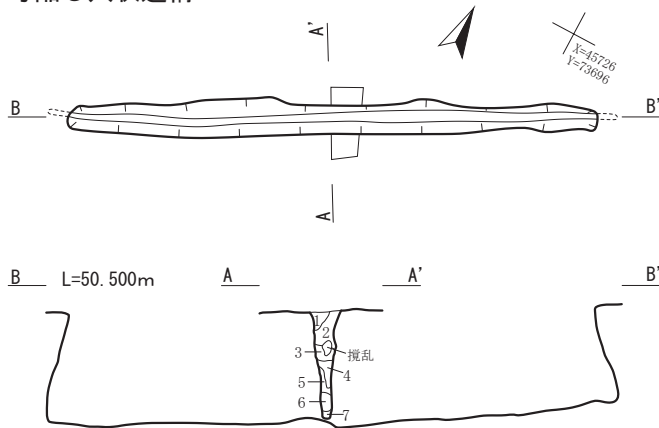
1号陥し穴状遺構



1号陥し穴状遺構

1. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまり中 黒色シルト30%斑状 To-Nb2%
2. 10YR4/6褐色シルト 粘性やや強 しまり密 VI層崩落土
3. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまり中 黒色シルト10%斑状 VI層土粒10% To-Nb2%
4. 10YR4/6褐色シルト 粘性中 しまりやや疎 黒褐色シルト30%斑状 軽石(径1~5mm) 3%
5. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密 軽石(径1~3mm) 1%
6. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや密 軽石(径1~3mm) 40%
7. 10YR1.85/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密 軽石(径1~3mm) 2%

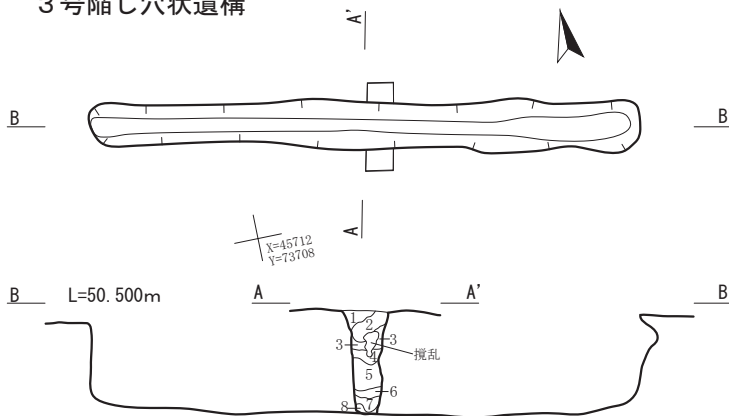
2号陥し穴状遺構



2号陥し穴状遺構

1. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや強 しまり中 To-Nb3%
2. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性やや強 しまり中 To-Nb3%
3. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや強 しまりやや疎 To-Nb2%
4. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや疎
5. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや疎 暗褐色シルト20%斑状 軽石(径1~7mm) 3%
6. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性強 しまり中 軽石(径1~7mm) 7%
7. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性やや強 しまり中 VII層崩落土10%・褐色シルト40%レンズ状

3号陥し穴状遺構



3号陥し穴状遺構

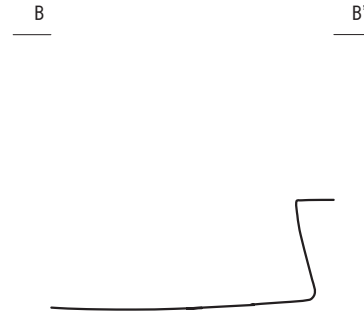
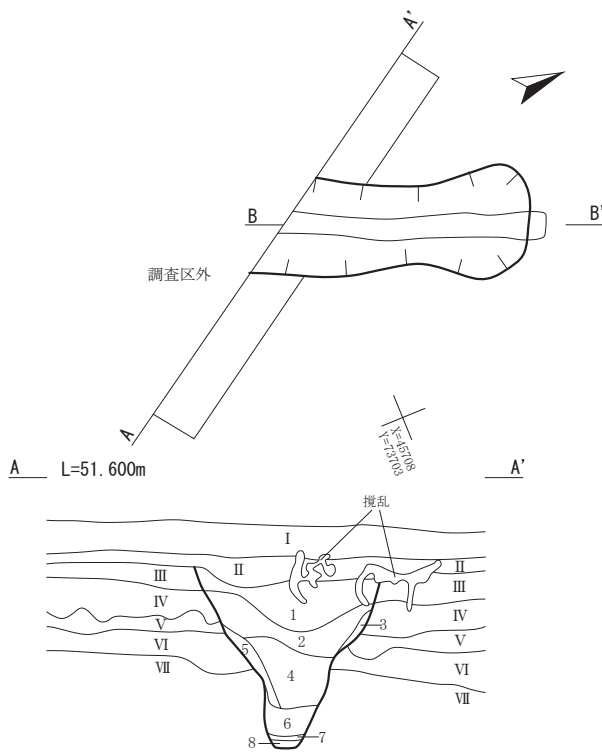
1. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性中 しまり中 暗褐色シルト30% To-Nb2%
2. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり中
3. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや強 しまりやや疎 VI層崩落土
4. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性強 しまりやや密 To-Nb2%
5. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや疎 VI層崩落ブロック5%含む
6. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性強 しまりやや疎 黒色シルト40%含む
7. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性強 しまりやや疎 VII層崩落ブロック5%含む
8. 10YR7/6明黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまりやや密 VII層崩落土



第13図 1~3号陥し穴状遺構

2 検出遺構

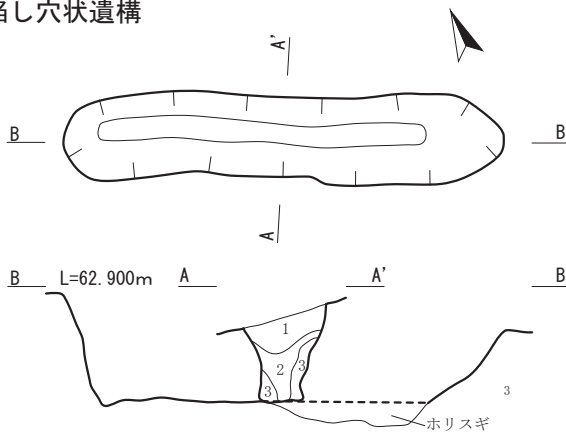
4号陥し穴状遺構



4号陥し穴状遺構

1. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまりやや密
白色粒子（粒径1mm以下の火山砕屑物）散在 To-Nb1%
2. 10YR1.85/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密
白色粒子散在（密度は2層の半分以下） To-Nb2%
3. 10YR2/1黒色シルト 粘性中 しまりやや密 To-Nb5%
4. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり中
最も粘性が強い層。軽石（径1~5mm）7%
5. 10YR3.5/4暗褐色~褐色シルト 粘性やや強 しまり密
V層崩落土 To-Nb40%
6. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密
VI層崩落土50%レンズ状 軽石（径1~3mm）10%
7. 2.5YR7/6明黄褐色砂質シルト 粘性やや弱 しまり密
VII層崩落土
8. 10YR2.5/2黒褐色シルト 粘性強 しまりやや密
軽石（径1~3mm）10%

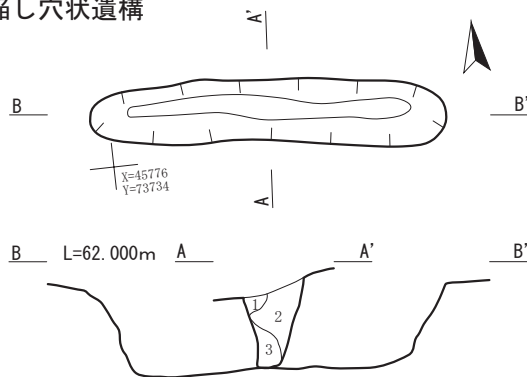
5号陥し穴状遺構



5号陥し穴状遺構

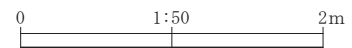
1. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎
木根による攪乱が著しい 黄褐色土粒微量を含む
2. 10YR4/4褐色シルト粘性強 しまりやや密
黄褐色土ブロック微量を含む
3. 10YR5/6黄褐色シルト 粘性やや弱 しまり密
黄褐色土（VI層）に類似 崩落土か？

6号陥し穴状遺構



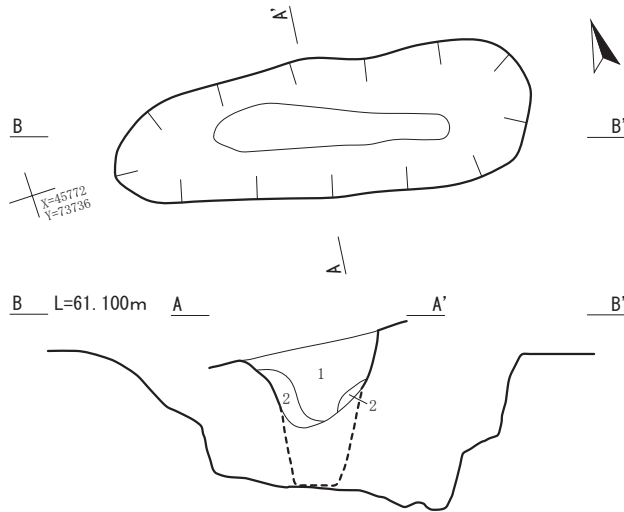
6号陥し穴状遺構

1. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性弱 しまり疎
黄褐色土粒微量を含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎
木根による攪乱が著しい 黄褐色土粒微量を含む
3. 10YR4/6褐色シルト 粘性やや強 しまりやや密
黄褐色土（VI層）に類似 崩落土か？



第14図 4~6号陥し穴状遺構

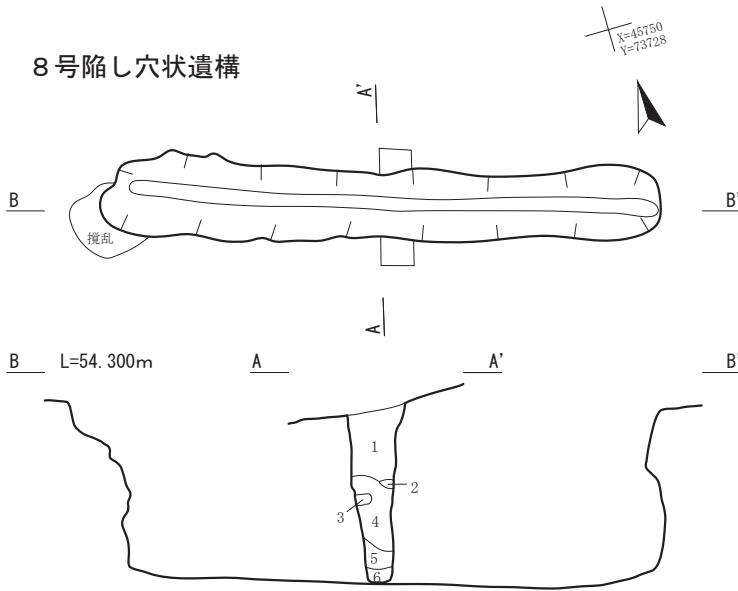
7号陥し穴状遺構



7号陥し穴状遺構

1. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性弱 しまり疎
木根による攪乱が著しい 黄褐色土粒微量に含む
2. 10YR4/6褐色シルト 粘性やや強 しまり疎
黄褐色土粒微量

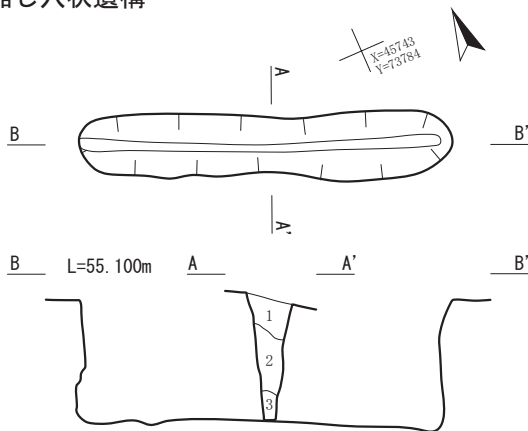
8号陥し穴状遺構



8号陥し穴状遺構

1. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまり中
暗褐色シルト30%斑状 軽石 (径1~5mm) 5%
2. 7.5YR6/4にぶい橙色粘土質シルト 粘性強
しまりやや密 粘土質火山灰層崩落土
3. 10YR7/6明黄褐色砂質シルト 粘性弱
しまりやや疎 VII層崩落土
4. 10YR4/4褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや疎
黒褐色シルト30%斑状
VII層・7層崩落ブロック30%
5. 7.5YR6/4にぶい橙色粘土質シルト 粘性強
しまり中 粘土質火山灰層崩落土
6. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまりやや密
軽石 (径1~3mm) 30%均一に混入

9号陥し穴状遺構



9号陥し穴状遺構

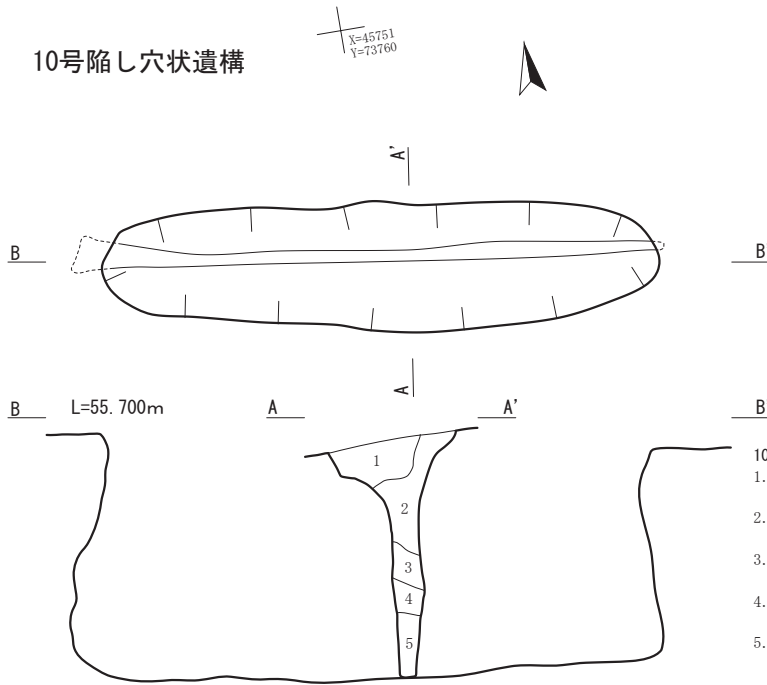
1. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性やや弱 しまり疎
木根による攪乱が著しい 黄褐色土粒微量
2. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 しまり疎
黄褐色土粒少量
3. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘性強 しまりやや密
黄褐色土 (VI層) ブロック微量 崩落土か?



第15図 7~9号陥し穴状遺構

2 検出遺構

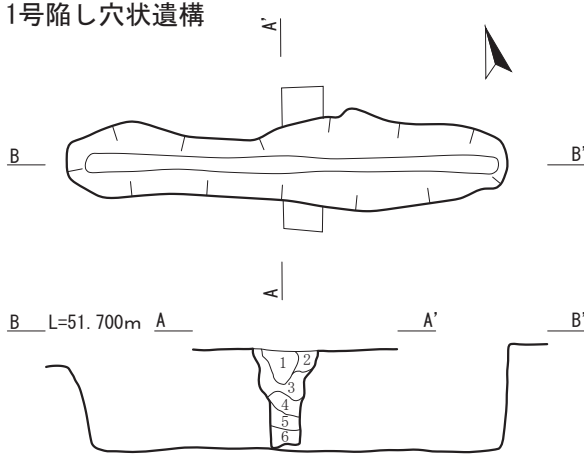
10号陥し穴状遺構



10号陥し穴状遺構

1. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性弱 しまり疎
木根による攪乱が著しい 黄褐色土粒微量
2. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性弱 しまりやや密
黄褐色土少量～中量含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎 根攪乱が著しい
黄褐色土粒微量に含む
4. 10YR4/6褐色シルト 粘性やや強 しまりやや密
粘土質黄褐色土ブロック (VI層) が微量 崩落土
5. 10YR5/6黄褐色シルト 粘性強 しまり密
暗褐色土ブロック微量に含む

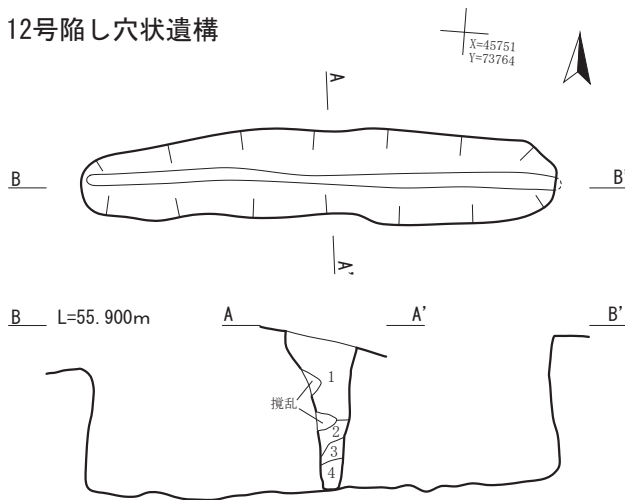
11号陥し穴状遺構



11号陥し穴状遺構

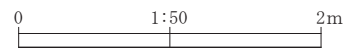
1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり中 To-Nb1%
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまり中 To-Nb1%
3. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまり中
黒色シルト10%・暗褐色シルト 5%斑状 軽石 (径1~5mm) 3%
4. 10YR4/6褐色シルト 粘性中 しまり中
VI層崩落土 黒褐色シルト10%斑状 軽石 (径1~5mm) 7%
5. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまり中
軽石 (径1~5mm) 7%
6. 10YR2/1.5黒~黒褐色シルト 粘性強 しまりやや密
軽石 (径1~5mm) 7%

12号陥し穴状遺構



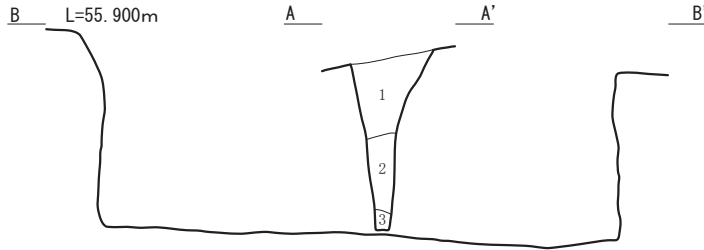
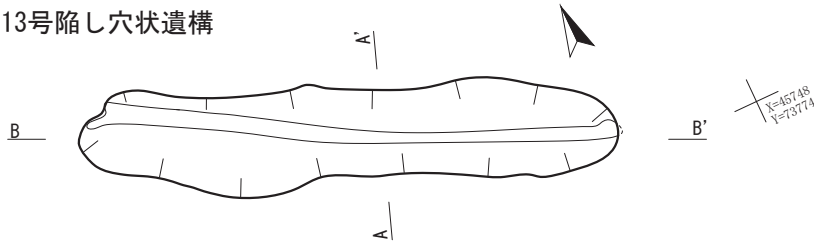
12号陥し穴状遺構

1. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性やや弱 しまり疎
木根による攪乱が著しい 黄褐色土粒微量
2. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性やや強 しまり疎
黄褐色土粒少量
3. 10YR4/4褐色シルト 粘性弱 しまり疎
黄褐色土粒少量
4. 10YR4/3(にぶい)黄褐色シルト 粘性強 しまり密
黄褐色土 (VI層) がブロック状に少量混入 崩落土か?



第16図 10~12号陥し穴状遺構

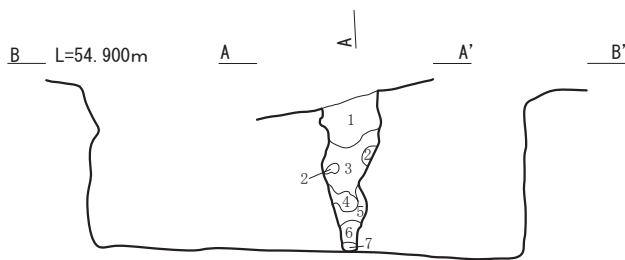
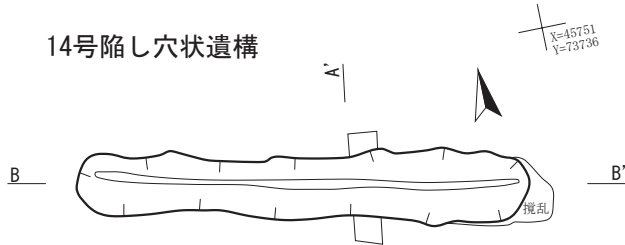
13号陥し穴状遺構



13号陥し穴状遺構

1. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎
黄褐色土粒微量
2. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 しまり疎
黄褐色土がブロック状に少量含む
3. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性やや弱 しまり疎
木根による攪乱が著しい
2層と類似黄褐色土ブロック少量含む

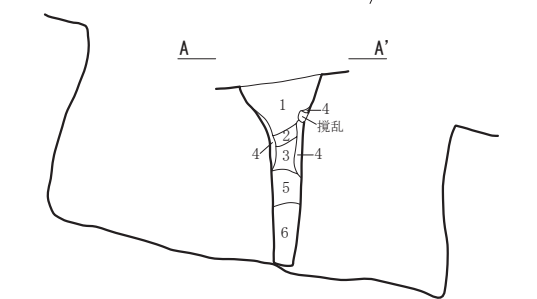
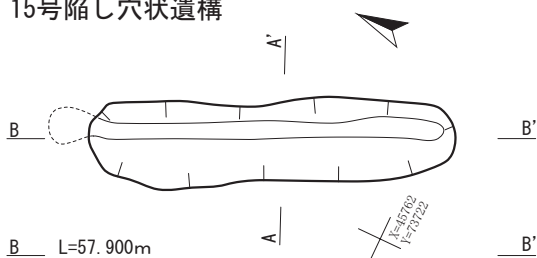
14号陥し穴状遺構



14号陥し穴状遺構

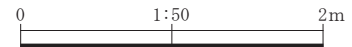
1. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性中 しまり中
黒褐色シルト30%斑状 軽石(径1~5mm) 3%
2. 10YR7/6明黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまりやや疎
VII層崩落土
3. 10YR4/4褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや疎
黒褐色シルト30%斑状 VII層崩落ブロック10%
軽石(径1~7mm) 20%
4. 7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり中
粘土質火山灰層崩落土
5. 7.5YR6/4にぶい橙色粘土質シルト 粘性強 しまり中
粘土質火山灰層崩落土
6. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト 粘性中 しまりやや疎
黒褐色土粒30%均一に混入
7. 7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや密
黒褐色土粒30%均一に混入

15号陥し穴状遺構



15号陥し穴状遺構

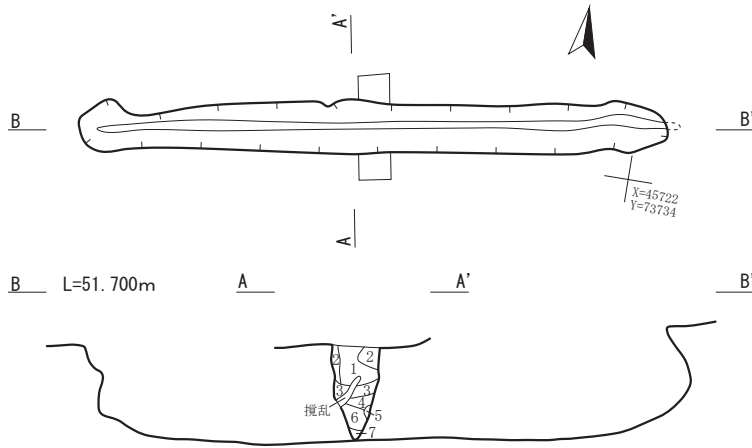
1. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや密
木根による攪乱が著しい 黄褐色土粒微量
2. 10YR5/6黄褐色シルト 粘性やや弱 しまり疎 根攪乱多い
1層土がブロック状に微量
3. 10YR4/6褐色シルト 粘性やや強 しまりやや疎
木根による攪乱が著しい 黒褐色土粒微量入る
4. 10YR6/8明黄褐色シルト 粘性強 しまりやや疎
木根による攪乱が著しい VI層土に類似 壁崩落土
5. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性弱 しまりやや疎
V層土がブロック状に少量 崩落土
6. 10YR5/6黄褐色シルト 粘性強 しまり密
木根による攪乱が著しい VI層土がブロック状に混入 崩落土



第17図 13~15号陥し穴状遺構

2 検出遺構

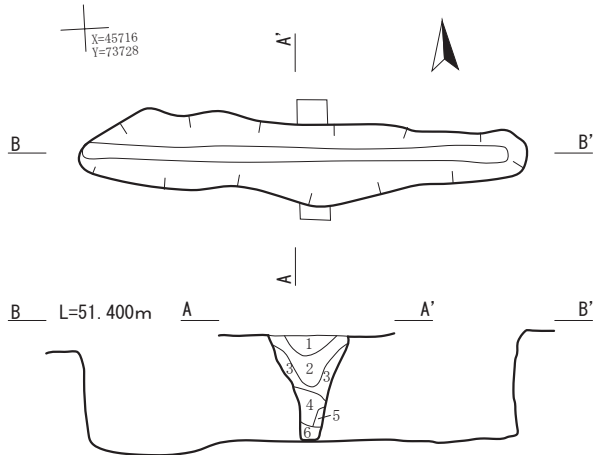
16号陥し穴状遺構



16号陥し穴状遺構

1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密 To-Nb1%
2. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密 VI層崩落土20%斑状 軽石(径1~2mm)1%
3. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性中 しまり中
4. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや疎
5. 10YR5/6黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまりやや疎 VII層崩落ブロック
6. 10YR3/1.5黒褐色シルト 粘性中やや強 しまり中 軽石(径1~3mm)10%均一に混入
7. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘性強 しまり密

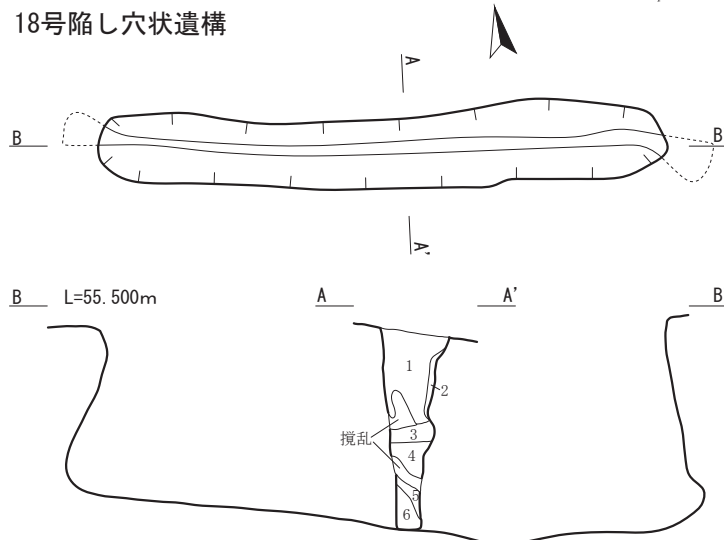
17号陥し穴状遺構



17号陥し穴状遺構

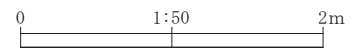
1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまり中 黒色シルト30%・暗褐色シルト10%斑状 To-Nb1%
3. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性中 しまりやや密 VI層崩落土
4. 10YR5/6黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまりやや疎 VII層崩落土
5. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまりやや疎 軽石(径1~3mm)10%
6. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密 軽石(径1~3mm)3%

18号陥し穴状遺構



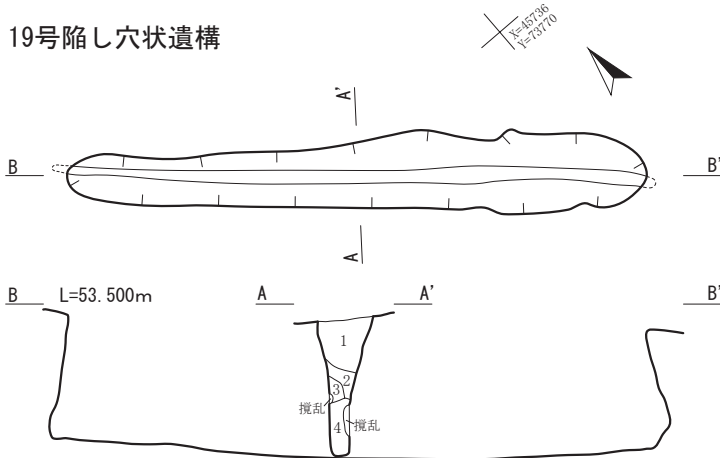
18号陥し穴状遺構

1. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎 黄褐色土粒微量
2. 10YR5/6黄褐色シルト 粘性弱 しまり疎 V層に類似 崩落土
3. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎 木根による攪乱が著しい IV層土粒が微量
4. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性弱 しまり疎 木根による攪乱が著しい VI層土がブロック状に混入
5. 10YR6/6明黄褐色シルト 粘性弱 しまりやや疎 全体的にブロック状
6. 7.5YR5/6明褐色シルト 粘性強 しまり密 VII層土に類似 崩落土



第18図 16~18号陥し穴状遺構

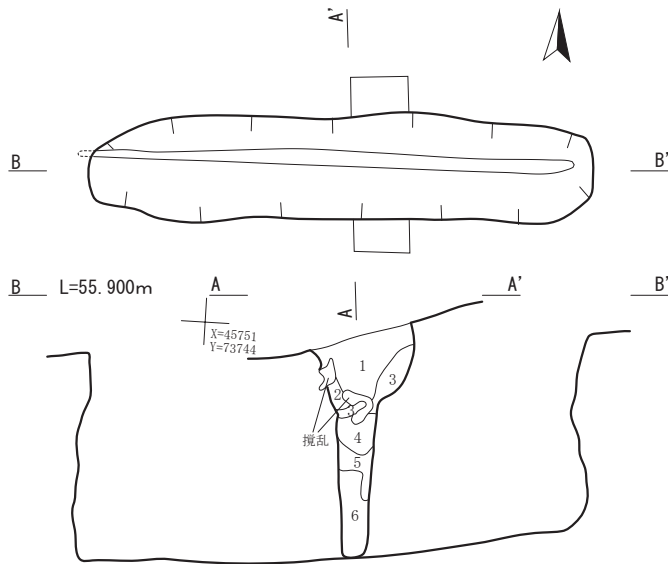
19号陥し穴状遺構



19号陥し穴状遺構

1. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや強 しまりやや密
木根による攪乱が著しい V層土がブロック状に微量混入
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまり疎
V層土がブロック状に少量混入
3. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性強 しまり密
木根による攪乱が著しい 黄褐色土粒微量
4. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 しまり疎
木根による攪乱が著しい VI層土ブロック微量

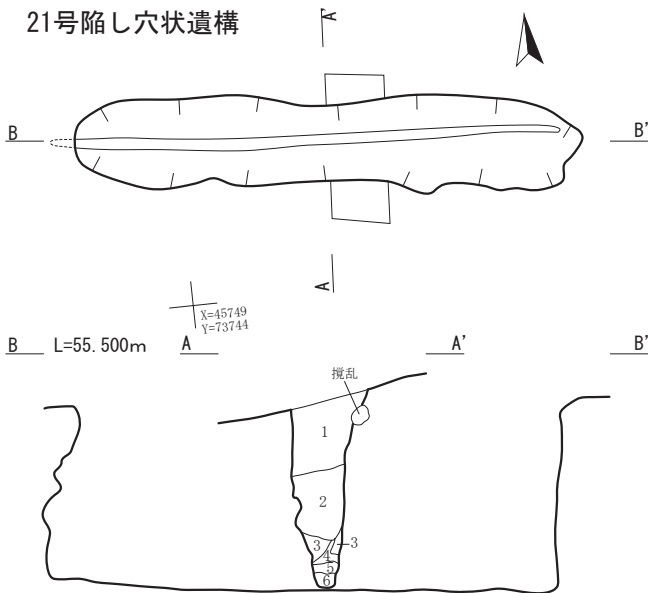
20号陥し穴状遺構



20号陥し穴状遺構

1. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性中 しまり中
黒褐色シルト30%斑状 軽石 (径1~5mm) 3%
2. 10YR7/6明黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまりやや密
VII層崩落ブロック
3. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト 粘性中 しまりやや密
VII層・粘土質火山灰層崩落土
4. 7.5YR6/4にぶい橙色粘土質シルト 粘性強 しまり中
粘土質火山灰層崩落土 VII層崩落ブロック20%含む
5. 7.5YR6/4にぶい橙色粘土質シルト 粘性強 しまりやや疎
粘土層崩落ブロック
6. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト 粘性中 しまりやや疎
黒褐色土粒30%均一に混入

21号陥し穴状遺構



21号陥し穴状遺構

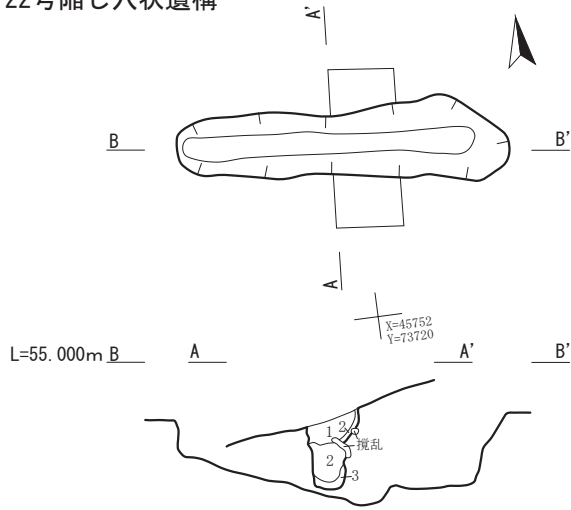
1. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性中 しまり中
黒褐色シルト30%斑状 軽石 (径1~5mm) 3%
2. 10YR4/4褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや疎
黒褐色シルト30%斑状 VII層・粘土質火山灰層崩落ブロック30%
軽石 (径1~7mm) 5%
3. 7.5YR6/4にぶい橙色粘土質シルト 粘性強 しまり中
粘土質火山灰層崩落ブロック
4. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト 粘性中 しまりやや疎
黒褐色土粒30%均一に混入
5. 10YR6/6明黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり密
VII層崩落ブロック
6. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト 粘性中 しまりやや疎
黒褐色土粒30%均一に混入



第19図 19~21号陥し穴状遺構

2 検出遺構

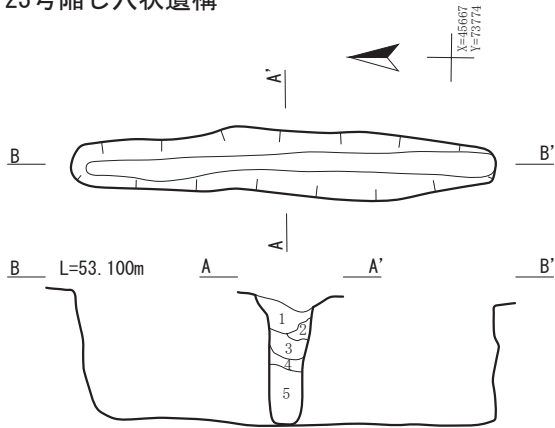
22号陥し穴状遺構



22号陥し穴状遺構

1. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性中 しまり中
黒褐色シルト30%斑状 軽石(径1~5mm) 3%
2. 7.5YR6/4こぶい橙色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや密
黒褐色シルト10%斑状
3. 7.5YR6/4こぶい橙色シルト 粘性弱 しまり中
礫(1cm~4cm) 多く含む

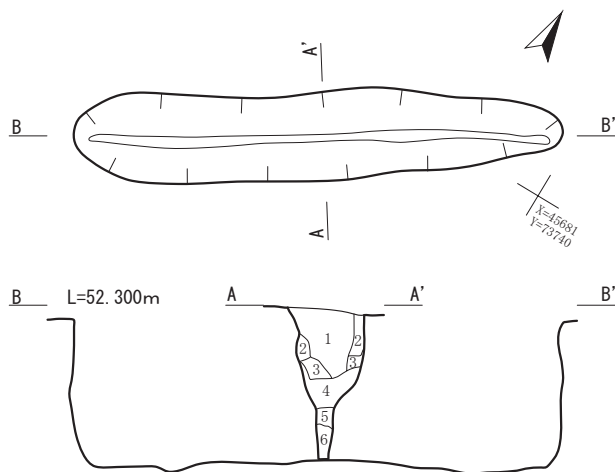
23号陥し穴状遺構



23号陥し穴状遺構

1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密 直径2mm褐色土粒10%含む
2. 10YR3/2暗褐色シルト 粘性強 しまり中 直径2mm褐色土粒10%含む
3. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり中 直径2mm褐色土粒10%含む
4. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密 直径2mm褐色土粒3%含む
5. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまりやや密 直径2mm褐色土粒3%含む

24号陥し穴状遺構



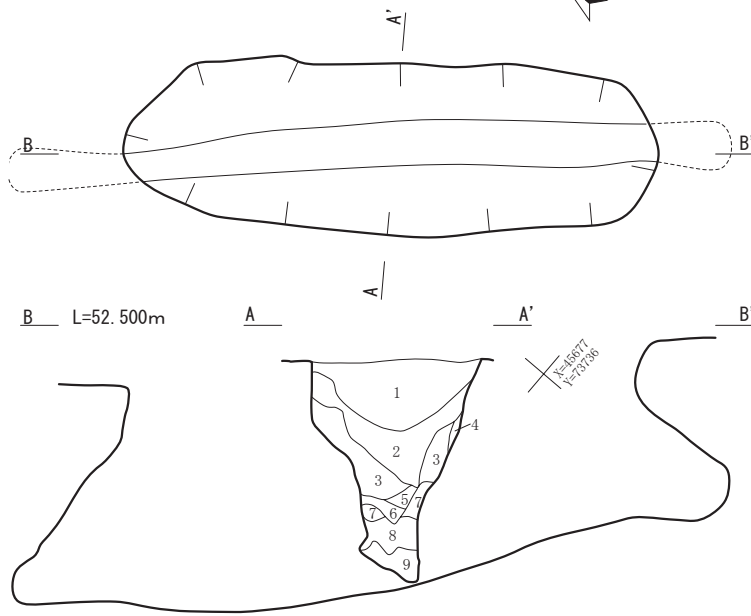
24号陥し穴状遺構

1. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまり密 直径2mm褐色土粒10%含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり密 直径2mm褐色土粒10%含む
3. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまり密 直径2mm褐色土粒10%含む
4. 10YR4/4褐色シルト 粘性強 しまり密 直径3mm褐色土粒10%含む
5. 10YR5/8黄褐色シルト 粘性弱 しまり疎 八戸火山灰再堆積層
6. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性中 しまり疎
直径2~3mm褐色土ブロック 5%含む



第20図 22~24号陥し穴状遺構

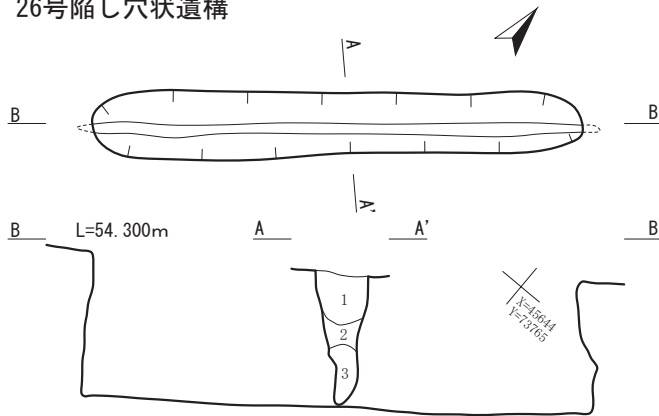
25号陥し穴状遺構



25号陥し穴状遺構

1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり密
直径1~3mm褐色土粒10%含む
2. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまり密
直径2~3mm褐色土粒20%含む
3. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性強 しまり密
直径2~3mm褐色土粒20%含む
4. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり密
直径2~3mm褐色土粒20%含む
5. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまり密
直径2~3mm褐色土粒20%含む
直径5cmの褐色土ブロック斑状に含む
6. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり密
直径2mm褐色土粒5%含む
直径3cm褐色土ブロック斑状に含む
7. 10YR6/8明黄褐色シルト 粘性弱 しまり密
八戸火山灰再堆積層
8. 10YR2/1黒色シルト 粘性弱 しまり疎
直径3cm褐色土ブロック30%斑状に含む
9. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまり疎
直径5cmの褐色土ブロック30%斑状に含む

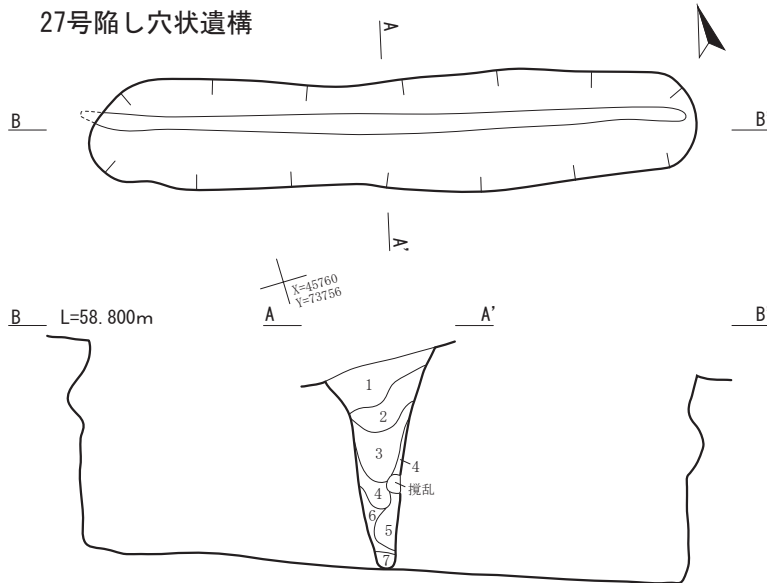
26号陥し穴状遺構



26号陥し穴状遺構

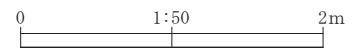
1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密
直径2mm褐色土粒10%含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり中
直径2mm褐色土粒5%含む
3. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまり疎
褐色土粒含む

27号陥し穴状遺構



27号陥し穴状遺構

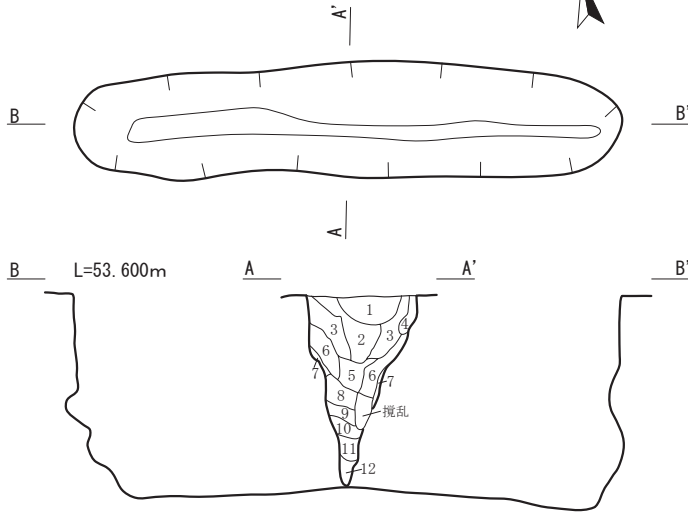
1. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性弱 しまり疎
炭化物粒微量に含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性弱 しまりやや密
黄褐色土 (V層) がブロック状に微量
3. 10YR4/6褐色シルト 粘性弱 しまり疎
2層土がブロック状に少量
4. 7.5YR5/6明褐色シルト 粘性弱 しまり疎
砂礫 (径2~5mm) 少量
5. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性弱 しまりやや密
木根による攪乱が著しい 炭化物粒微量に含む
6. 10YR4/6褐色シルト 粘性弱 しまりやや疎
VI層土に類似全体的にブロック状 崩落土か?
7. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性やや強 しまりやや密
VI層土がブロック状に微量混入



第21図 25~27号陥し穴状遺構

2 検出遺構

28号陥し穴状遺構

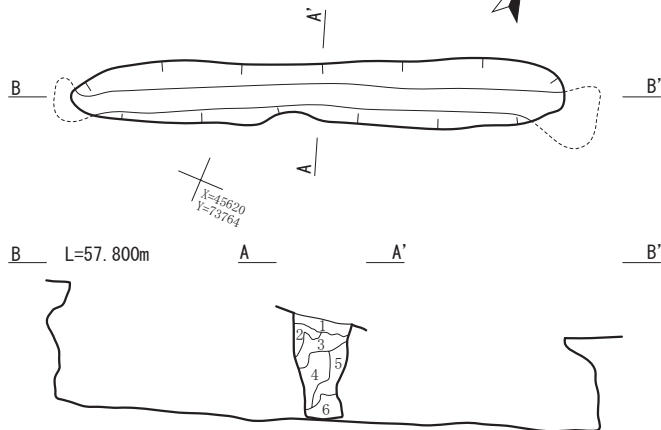


X=45654
Y=73744

28号陥し穴状遺構

1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり密
直径2mm褐色土粒5%含む
2. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまり密
直径2mm褐色土粒10%含む
3. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性強 しまり密
直径2mm褐色土粒20%含む
4. 10YR4/4褐色シルト 粘性強 しまり密
直径2mm褐色土粒20%含む
5. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまりやや疎
直径2mm褐色土粒20%含む 褐色土ブロック斑状
6. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性強 しまり密
直径2mm褐色土粒20%含む
7. 10YR6/8明黄褐色シルト 粘性弱 しまり疎
8. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎
10YR6/8明黄褐色土ブロック斑状
9. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎
直径2mm褐色土粒10%含む
10. 10YR6/6明黄褐色シルト 粘性弱 しまり疎
10YR2/2黒褐色シルト斑状
11. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎
直径2~3cm 10YR6/8明黄褐色シルトブロック斑状
12. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性中 しまり疎
直径2mm褐色土粒10%含む

29号陥し穴状遺構

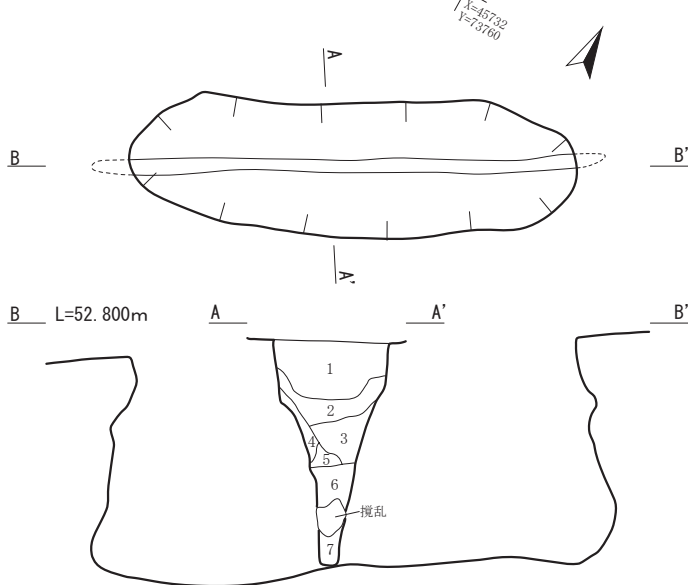


X=45620
Y=73764

29号陥し穴状遺構

1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密
直径2~3mm褐色土粒20%含む
2. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性強 しまりやや密
直径2~3mm褐色土粒20%含む
3. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密
直径2mm褐色土粒5%含む
4. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密
直径2mm褐色土粒25%含む
5. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性強 しまりやや密
直径2mm褐色土粒20%含む
6. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり疎
直径2mm褐色土粒5%含む

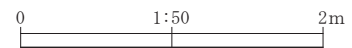
30号陥し穴状遺構



X=45732
Y=73760

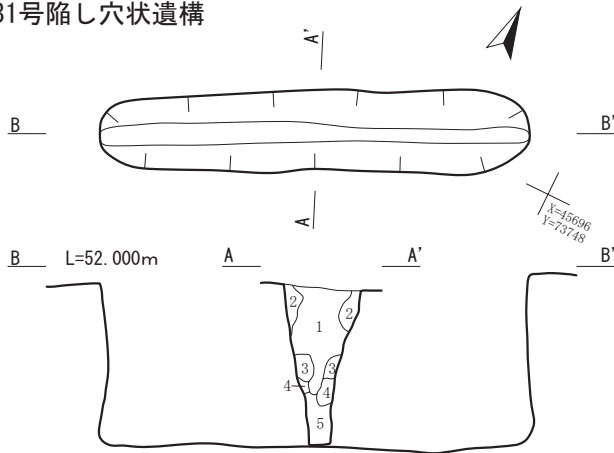
30号陥し穴状遺構

1. 10YR2/1黒色シルト 粘性弱 しまり疎
黄褐色土粒 微量に含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性やや弱 しまり疎
木根による攪乱が著しい 1層土ブロック微量に含む
3. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや強 しまりやや疎
木根による攪乱が著しい
4. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや疎
VI層土をブロック状に少量含む
5. 10YR5/6黄褐色シルト 粘性弱 しまり疎
VI層土がブロック状に堆積
6. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや弱 しまり疎
VI層土ブロック微量に混入
7. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまり密
木根による攪乱が著しい VI層土ブロック微量に含む



第22図 28~30号陥し穴状遺構

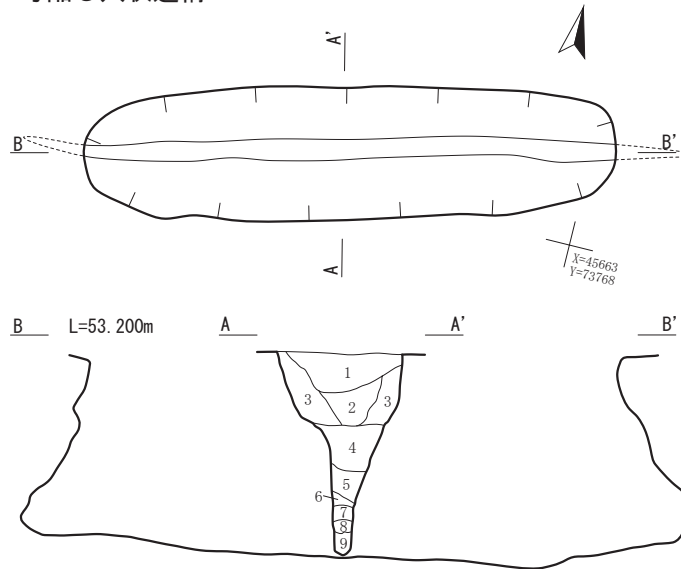
31号陥し穴状遺構



31号陥し穴状遺構

1. 10YR1.7/1黒褐色シルト 粘性強 しまり密
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり密
直径2~3mm褐色土粒5%含む
3. 10YR4/4褐色シルト 粘性強 しまり密
直径3mm褐色土粒10%含む
4. 10YR5/8黄褐色シルト 粘性弱 しまり疎
八戸火山灰再堆積層
5. 10YR4/4褐色シルト 粘性弱 しまり疎
八戸火山灰混入層

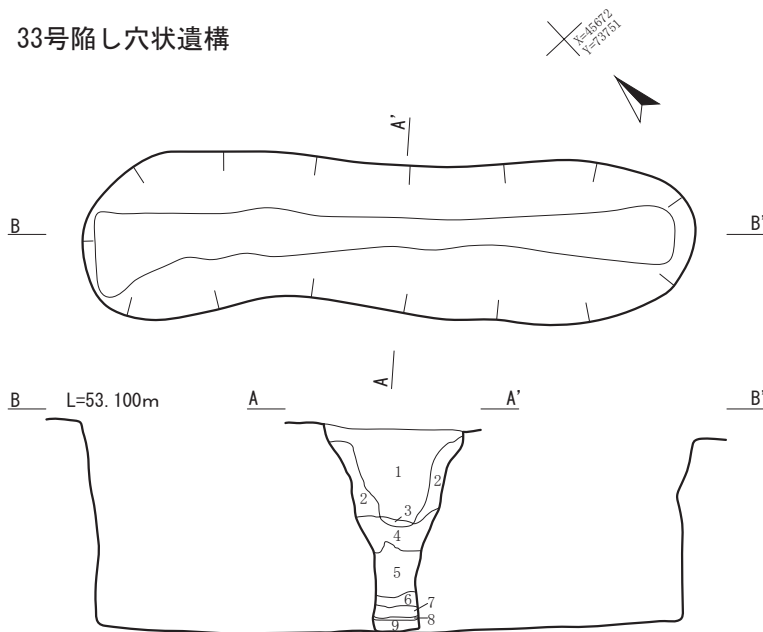
32号陥し穴状遺構



32号陥し穴状遺構

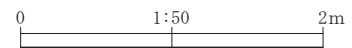
1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり密
直径2mm褐色土粒5%含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり密
直径2mm褐色土粒15%含む
3. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性強 しまりやや密
直径2mm褐色土粒15%含む
4. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまりやや密
直径2mm褐色土粒20%含む
5. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり中
直径2mm褐色土粒20%含む
6. 10YR5/8黄褐色シルト 粘性弱 しまり疎
7. 10YR6/8褐色シルト 粘性弱 しまり疎
八戸火山灰再堆積層
8. 10YR4/6褐色シルト 粘性弱 しまり疎
10YR3/4暗褐色シルト含む
9. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり疎

33号陥し穴状遺構



33号陥し穴状遺構

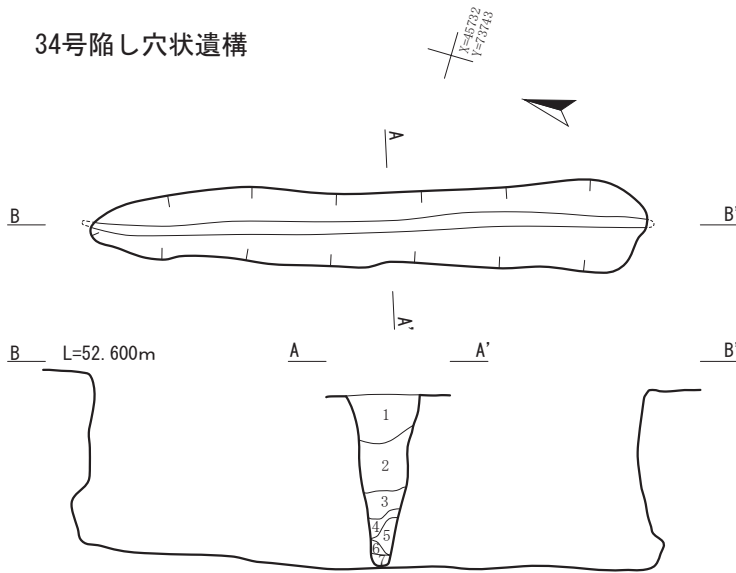
1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり密
直径2mm褐色土粒10%含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり密
直径2mm褐色土粒10%含む
3. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性強 しまり密
直径2mm褐色土粒3%含む
4. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまり密
直径2mm褐色土粒10%含む
5. 10YR4/4褐色シルト 粘性中 しまりやや疎
直径2mm褐色土粒10%含む
6. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまり疎
7. 10YR6/6明黄褐色シルト 粘性弱 しまり疎
8. 10YR2/1黒色シルト 粘性中 しまり疎
9. 10YR6/6明黄褐色シルト 粘性弱 しまり疎



第23図 31~33号陥し穴状遺構

2 検出遺構

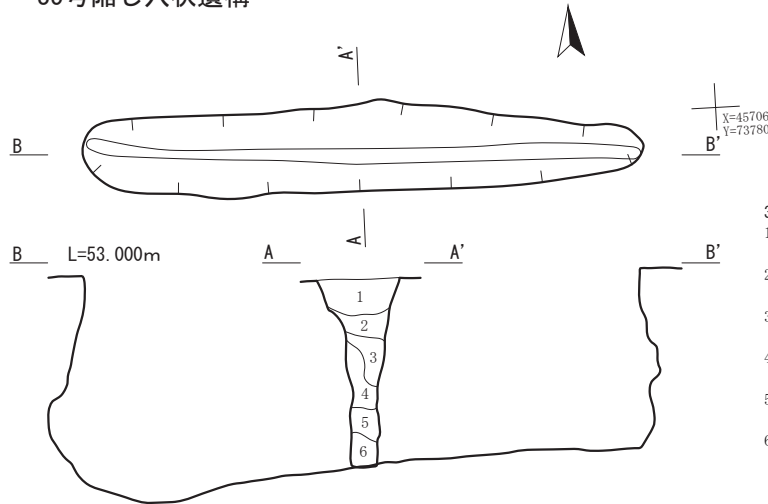
34号陥し穴状遺構



34号陥し穴状遺構

1. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや強 しまり中
黒褐色シルト20%斑状 軽石（径1~5mm）7%
2. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性中 しまりやや疎
黒色シルト10%・暗褐色シルト10%斑状
VII層崩落ブロック5% 軽石（径1~5mm）7%
3. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性中 しまり中
褐色シルト40%含む 軽石（径1~3mm）10%
4. 10YR6/6明黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり疎
VII層崩落ブロック
5. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまりやや疎
6. 7.5YR6/4にぶい橙色粘土質シルト 粘性強 しまりやや密
粘土質火山灰層崩落ブロック
7. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密

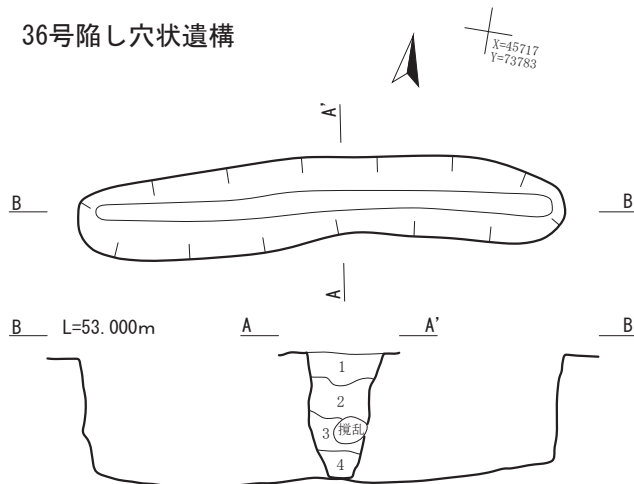
35号陥し穴状遺構



35号陥し穴状遺構

1. 10YR2/1黒色シルト 粘性弱 しまり疎
木根による攪乱が著しい 炭化物粒微量
2. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性弱 しまりやや疎
黄褐色土粒微量に含む
3. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまりやや疎
木根による攪乱が著しい 黄褐色土粒（V層）少量
4. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性弱 しまり疎
黄褐色土ブロック（VI層）微量 崩落土
5. 10YR6/6明黄褐色土砂質シルト 粘性弱 しまり疎
全体的にブロック状 崩落土
6. 10YR2/1黒色シルト 粘性弱 しまりやや疎
黄褐色土粒（VI層）少量

36号陥し穴状遺構



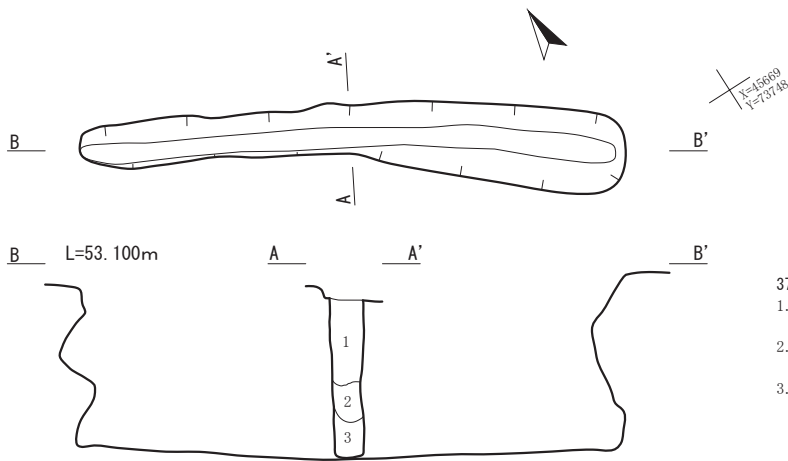
36号陥し穴状遺構

1. 10YR2/1黒色シルト 粘性弱 しまり疎
木根による攪乱が著しい 黄褐色土粒（VI層）微量
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎
木根による攪乱が著しい 黄褐色土ブロック（VI層）微量
3. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性弱 しまり疎
木根による攪乱が著しい 全体的にブロック状 崩落土
4. 10YR4/4褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや疎
VI層土ブロック状微量に含む



第24図 34~36号陥し穴状遺構

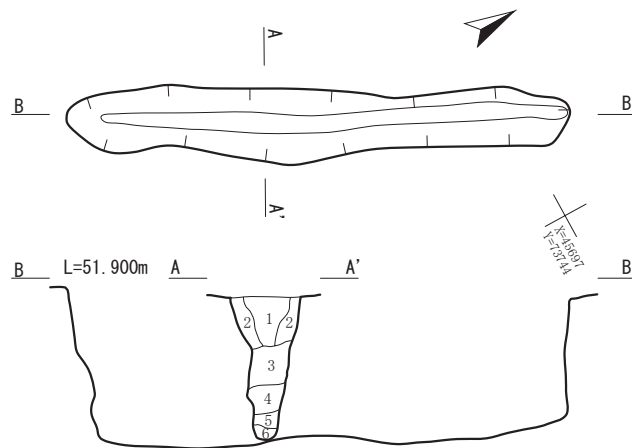
37号陥し穴状遺構



37号陥し穴状遺構

1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり密
直径2~3mm褐色土粒20%含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性強 しまり密
直径2~3mm褐色土粒20%含む
3. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまりやや疎
直径2mm褐色土粒10%含む・部分的に八戸火山灰層
ブロック状に含み斑状をなす

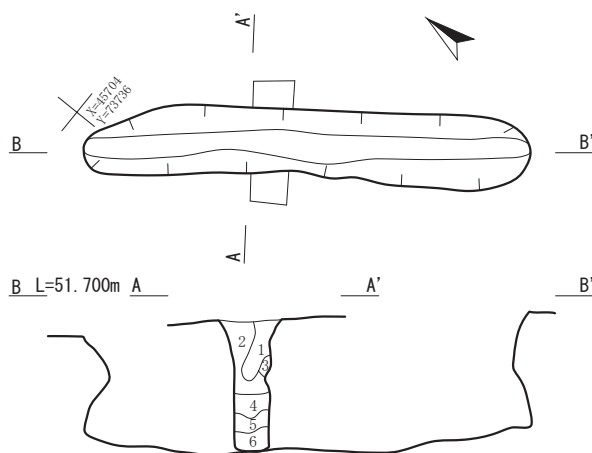
38号陥し穴状遺構



38号陥し穴状遺構

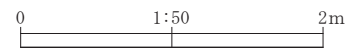
1. 10YR2/1黒色シルト 粘性中 しまり中
黒褐色シルト20%斑状 軽石(径1~3mm)5%
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまり中
軽石(径1~3mm)5%
3. 10YR4/6褐色シルト 粘性中 しまりやや疎
黒褐色シルト40%斑状 軽石(径1~3mm)7%
4. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまりやや疎
軽石(径1~3mm)3%
5. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり中
6. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性やや強 しまり中
軽石(径1~5mm)30%均一に混入

39号陥し穴状遺構



39号陥し穴状遺構

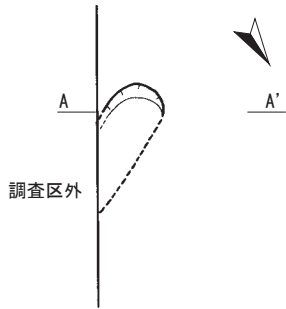
1. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまり中
暗褐色シルト20%斑状
2. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや強 しまり中
軽石(径1~3mm)1%
3. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや強 しまりやや密
軽石(径1~3mm)3%
4. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまりやや疎
軽石(径1~3mm)5%
5. 10YR4/4褐色シルト 粘性やや強 しまりやや疎
VII層崩落土・黒色シルト50%レンズ状
6. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性やや強 しまりやや疎
粘土質火山灰層・黒色シルトブロック状



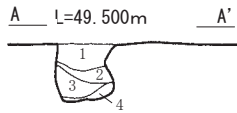
第25図 37~39号陥し穴状遺構

2 検出遺構

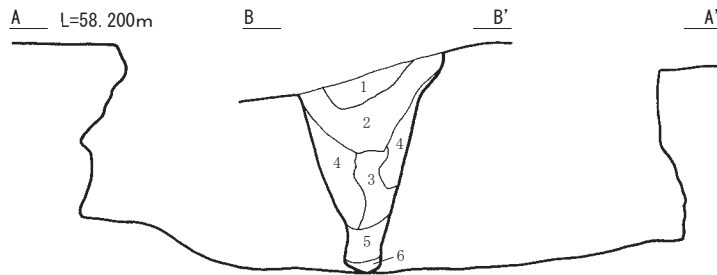
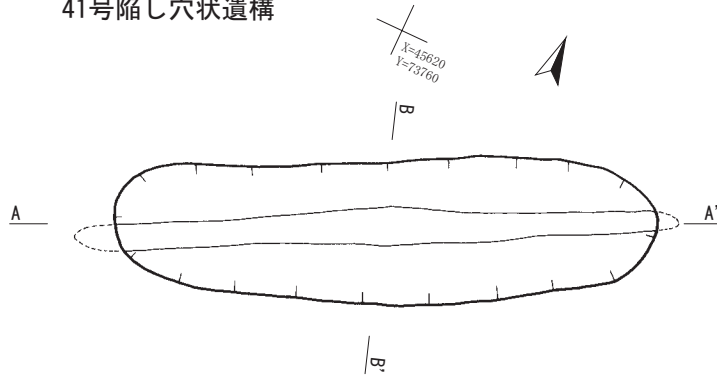
40号陥し穴状遺構



X=45620
Y=73760



41号陥し穴状遺構



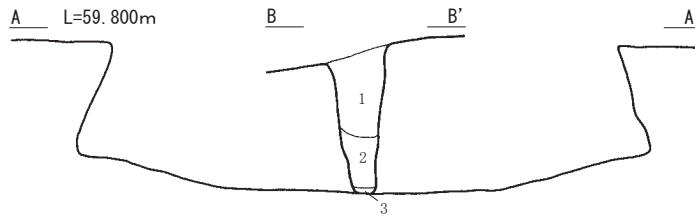
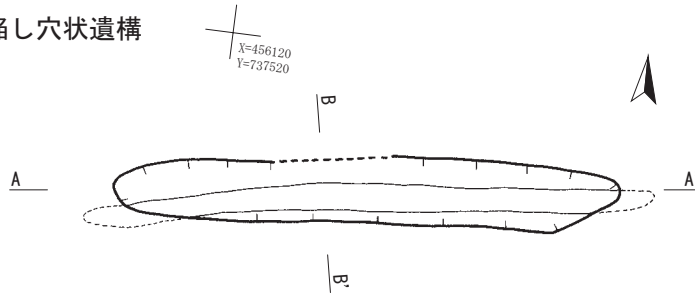
40号陥し穴状遺構

1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり (To-Nb3%含む)
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまりやや疎 (To-Nb50%含む)
3. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密
4. 10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや密 (VI層崩落土)

41号陥し穴状遺構

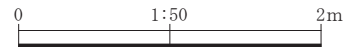
1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性やや強 しまりやや疎
2. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや弱 しまりやや密 (白色粒子5%含む)
3. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや密 (白色粒子5%含む)
4. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 しまり疎 (白色粒子5%含む)
5. 10YR4/3こぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり疎 (黒褐色土ブロック10%含む)
6. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり疎

42号陥し穴状遺構



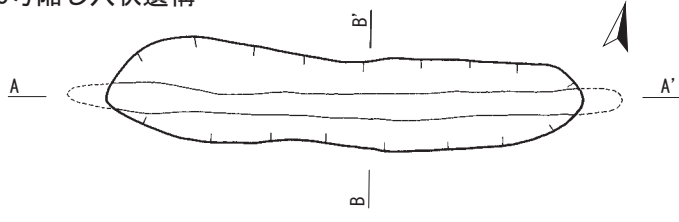
42号陥し穴状遺構

1. 10YR2/1黒色シルト 粘性中 しまり密 (白色粒子10%含む)
2. 10YR2/1黒色シルト 粘性中 しまりやや疎 (白色粒子10%含む)
3. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性やや強 しまり疎

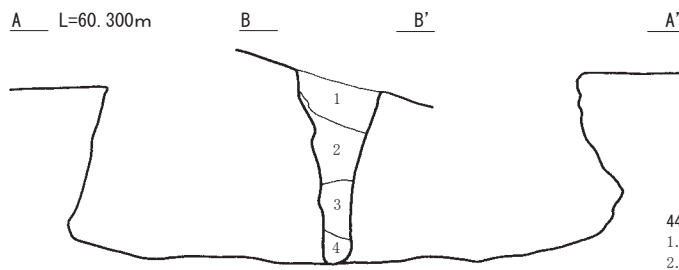


第26図 40~42号陥し穴状遺構

43号陥し穴状遺構



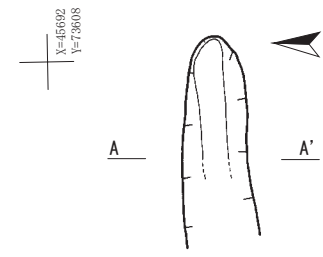
X=45608
Y=73732



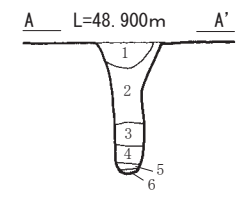
43号陥し穴状遺構

1. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性中 しまりやや疎 (To-Nb30%含む)
2. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまりやや疎 (地山粒10%、To-Nb3%含む)
3. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや強 しまり疎 (To-Nb3%含む)
4. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや強 しまり疎 (地山粒5%含む)

44号陥し穴状遺構



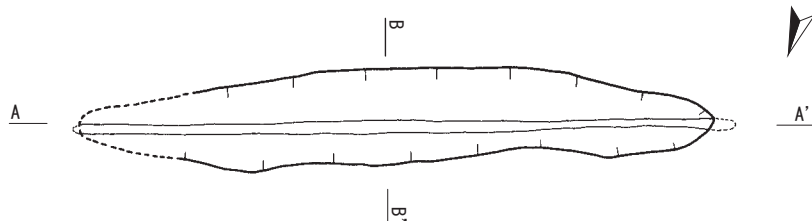
X=45692
Y=73608



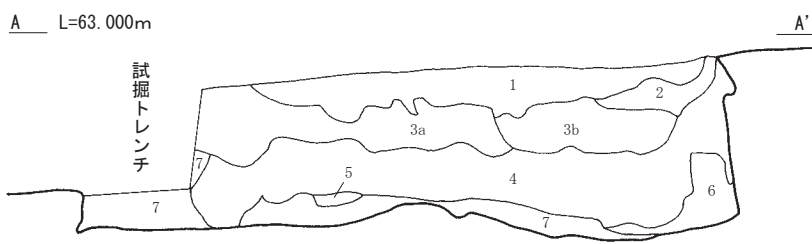
44号陥し穴状遺構

1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性やや強 しまり中 (壁面崩落土含む)
2. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや強 しまり中
3. 10YR6/6明黄褐色シルト 粘性強 しまりやや疎 (壁面崩落土含む)
4. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり中
5. 10YR8/2灰白色粘土 粘性強 しまり中 (壁面崩落土含む)
6. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり中

45号陥し穴状遺構

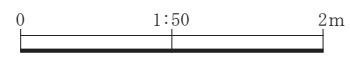
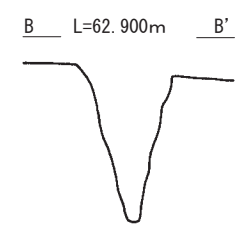


X=45600
Y=73708



45号陥し穴状遺構

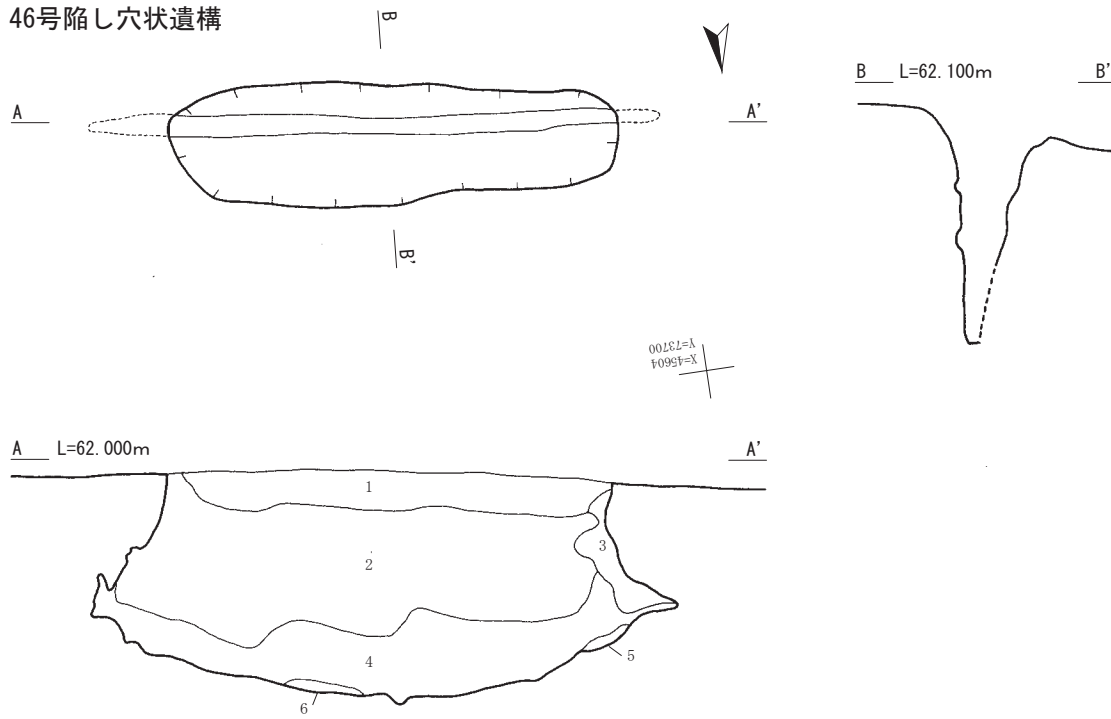
1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性中 しまりやや疎 (褐色土ブロック20%、To-Nbごく少量含む)
2. 10YR1.7/1黒色シルト粘性中 しまりやや疎 (褐色土・壁面崩落土を50%、To-Nbごく少量含む)
- 3a. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや強 しまりやや疎 (To-Nbを含む)
- 3b. 壁面崩落土
4. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまりやや疎 (壁面崩落土をブロック状に30%含む)
5. 10YR4/2にぶい黄褐色土 (壁面崩落土)
6. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや強 しまり疎 (To-Nbごく少量含む)
7. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまり疎 (壁面崩落土50%含む)



第27図 43~45号陥し穴状遺構

2 検出遺構

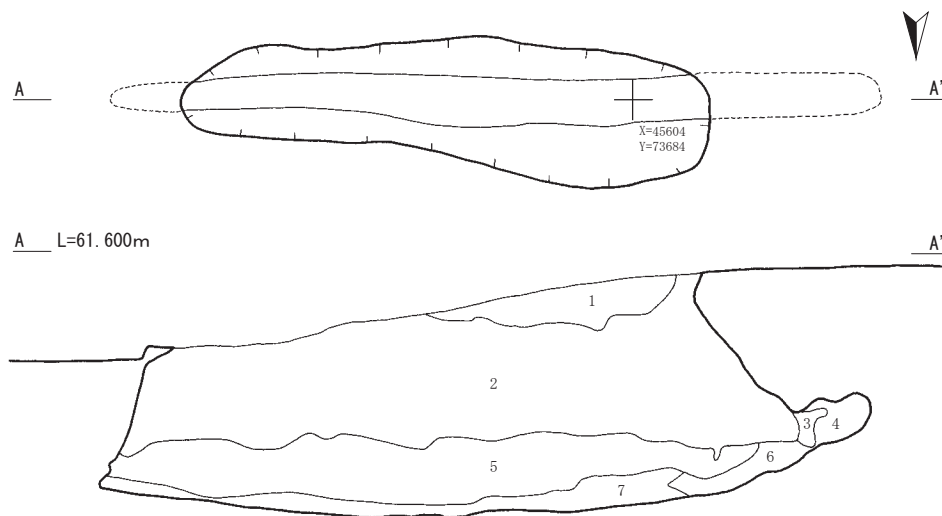
46号陥し穴状遺構



46号陥し穴状遺構

1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性やや弱 しまり中 (To-Nbごく少量含む)
2. 10YR2/1黒色シルト 粘性中 しまりやや疎 (To-Nb・壁崩落土を含む)
3. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまり疎 (地山ブロック多量に含む)
4. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまり中 (To-Nb・壁崩落土を含む)
5. 10YR4/4褐色砂質シルト 粘性弱 しまり疎
6. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性中 しまり疎 (地山粒多量に含む)

47号陥し穴状遺構



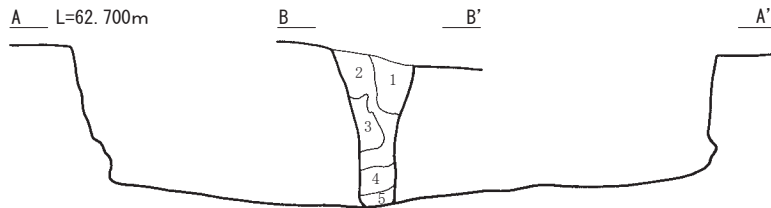
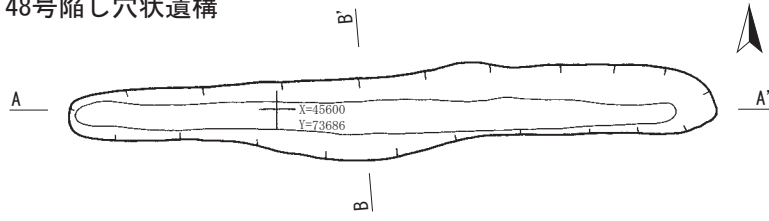
47号陥し穴状遺構

1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性やや強 しまり中 (To-Nbごく少量含む)
2. 10YR2/1黒色シルト 粘性弱 しまり中 (To-Nb多量に含む)
3. 10YR4/6褐色粘土質シルト 粘性強 しまり密 (壁面崩落土)
4. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性中 しまり疎 (地山粒含む)
5. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまり疎 (壁面崩落土多量に含む)
6. 10YR4/4褐色粘土質シルト 粘性強 しまり疎 (壁面崩落土)
7. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性やや強 しまり疎 (壁面崩落土多量に含む)



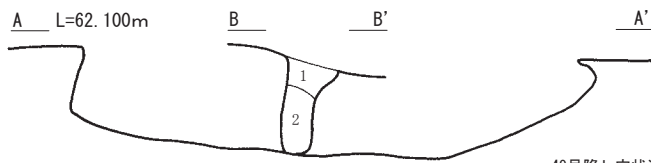
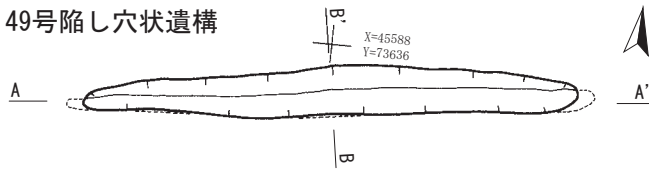
第28図 46・47号陥し穴状遺構集成図

48号陥し穴状遺構



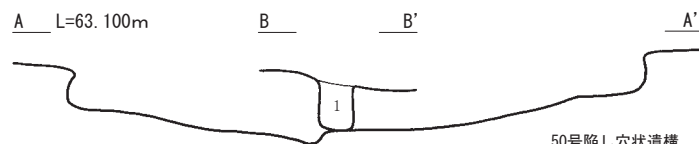
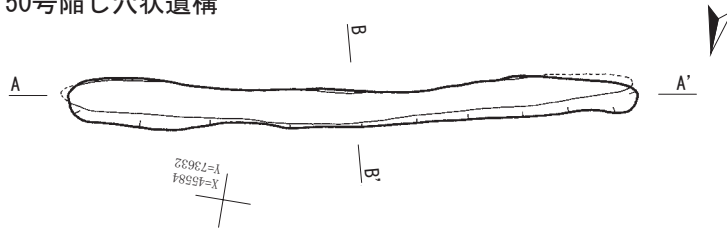
- 48号陥し穴状遺構
1. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性弱 しまりやや密 (To-Nb3%含む)
 2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性弱 しまりやや密 (To-Nb10%、地山ブロック5%含む)
 3. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや疎 (地山ブロック50%含む)
 4. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや強 しまりやや疎 (地山ブロック50%含む)
 5. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性やや強 しまり疎

49号陥し穴状遺構



- 49号陥し穴状遺構
1. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 (To-Nbごく少量含む)
 2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎 (To-Nbごく少量含む)

50号陥し穴状遺構



- 50号陥し穴状遺構
1. 10YR2/1黒色シルト 粘性中 しまり疎 (To-Nbごく少量含む)

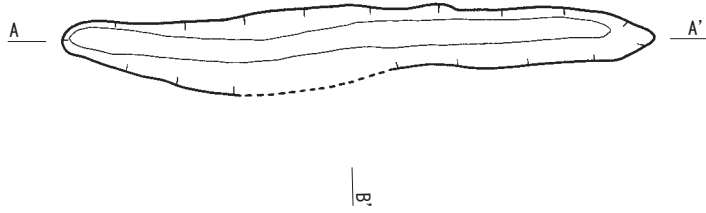


第29図 48~50号陥し穴状遺構

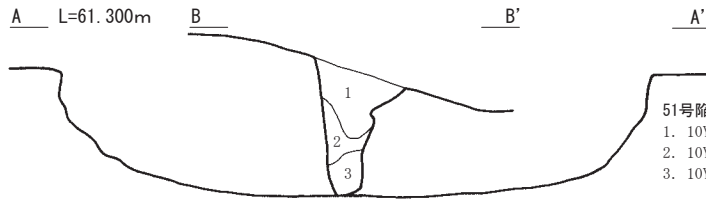
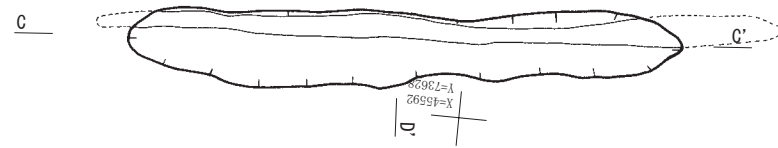
2 検出遺構

51号・52号陥し穴状遺構

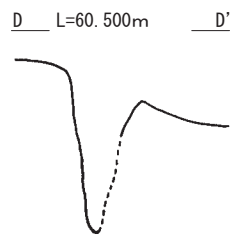
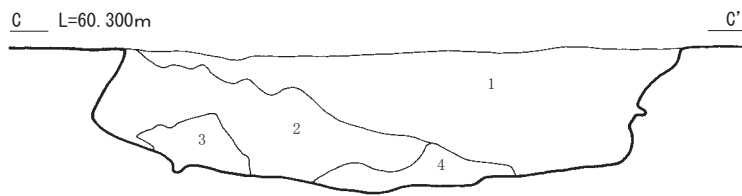
51号陥し穴状遺構



52号陥し穴状遺構

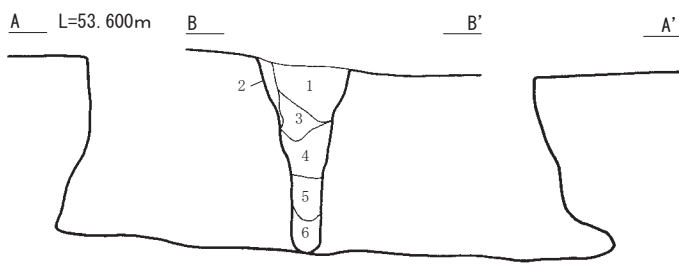
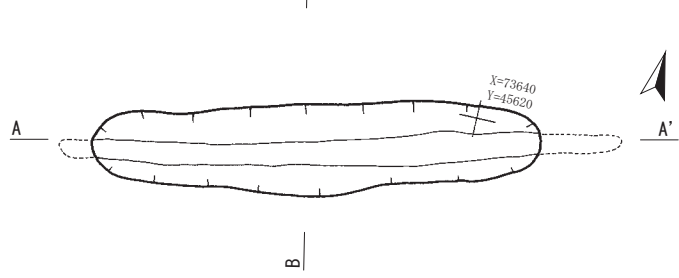


- 51号陥し穴状遺構
1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性やや弱 しまり中 (To-Nb含む)
 2. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘性強 しまりやや疎 (壁面崩落土)
 3. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまり疎 (To-Nbごく少量含む)

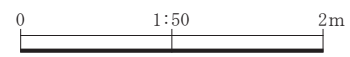


- 52号陥し穴状遺構
1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性中 しまりやや疎 (To-Nb、壁面崩落土含む)
 2. 10YR2/1黒色シルト 粘性中 しまり疎 (To-Nb、壁面崩落土多量に含む)
 3. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性やや強 しまり疎 (壁面崩落土含む)
 4. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性強 しまりやや疎 (壁面崩落土含む)

53号陥し穴状遺構

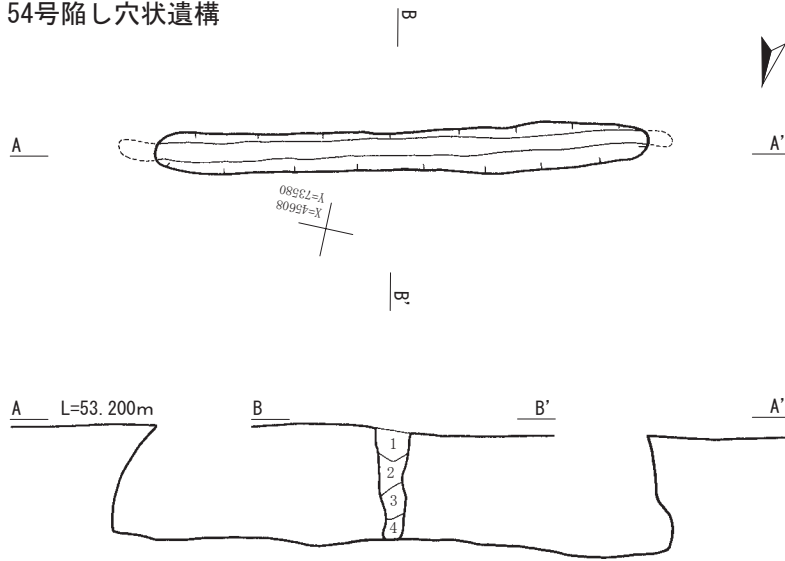


- 53号陥し穴状遺構
1. 7.5YR2/1黒色シルト 粘性弱 しまり疎 (To-Nb10%含む)
 2. 7.5YR3/1黒褐色シルト 粘性弱 しまり密
 3. 7.5YR3/2暗赤褐色シルト 粘性弱 しまり中 (To-Nb20%含む)
 4. 7.5YR2/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり密 (壁面崩落土含む)
 5. 7.5YR2/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎 (To-Nb10%含む)
 6. 7.5YR3/3暗褐色シルト 粘性弱 しまり疎 (To-Nb5%含む)



第30図 51～53号陥し穴状遺構

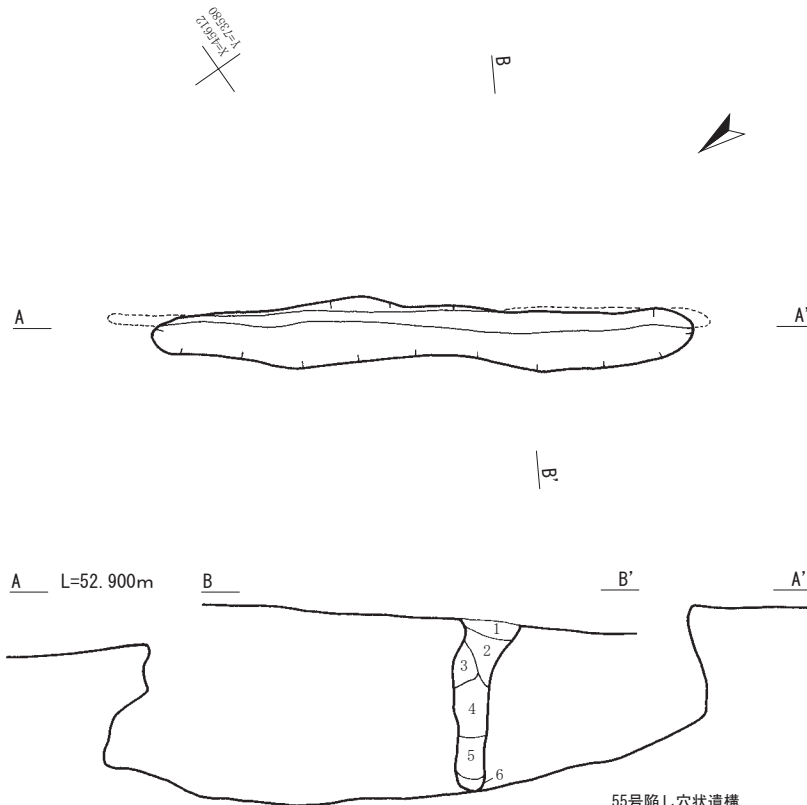
54号陥し穴状遺構



54号陥し穴状遺構

1. 7.5YR2/1黒色シルト 粘性弱 しまり中 (To-Nb1%含む)
2. 7.5YR2/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎 (To-Nb1%含む)
3. 7.5YR3/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎 (To-Nb5%含む)
4. 7.5YR1.7/1黒色シルト 粘性弱 しまり疎 (地山粒・To-Nb含む)

55号陥し穴状遺構



55号陥し穴状遺構

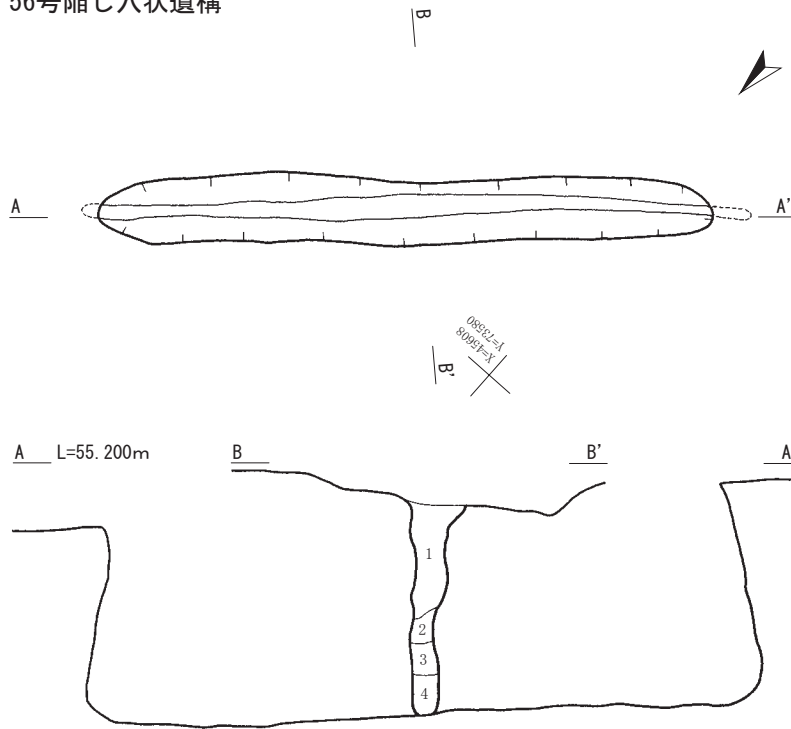
1. 7.5YR3/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり密 (To-Nb1%含む)
2. 7.5YR2/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 (To-Nb3%含む)
3. 7.5YR3/1黒褐色シルト 粘性弱 しまり密 (To-Nb15%含む)
4. 7.5YR2/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎 (To-Nb30%含む)
5. 7.5YR3/3暗褐色シルト 粘性やや強 しまり中
6. 7.5YR3/1黒褐色シルト 粘性やや強 しまり中 (To-Nb1%含む)



第31図 54・55号陥し穴状遺構

2 検出遺構

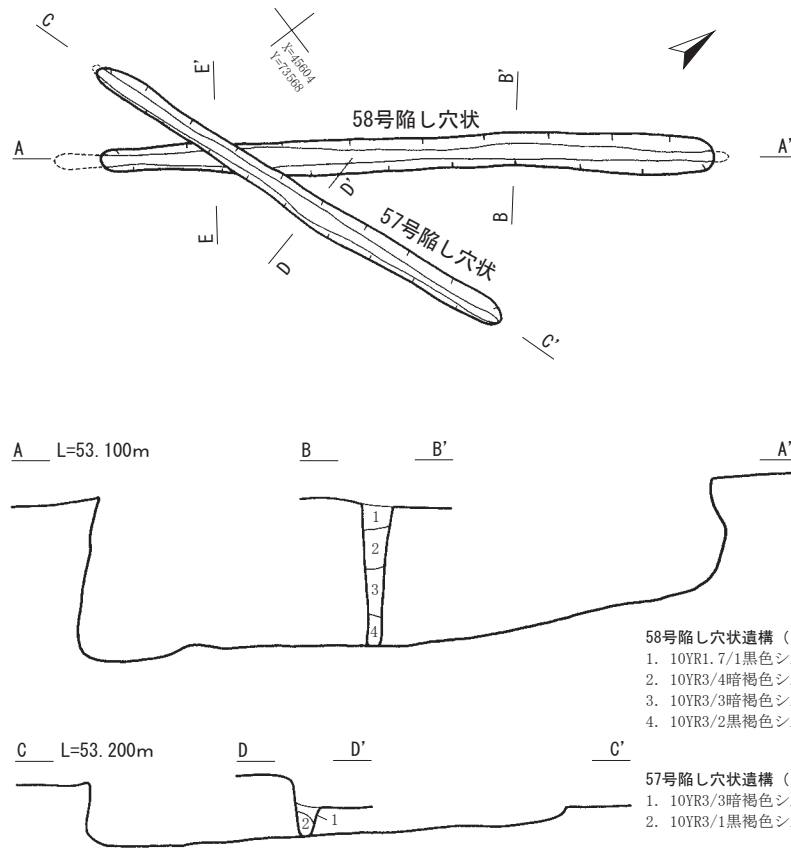
56号陥し穴状遺構



56号陥し穴状遺構

1. 7.5YR1.7/1黒色シルト 粘性中 しまりやや疎 (To-Nb1%含む)
2. 7.5YR3/3暗褐色シルト 粘性中 しまり密 (To-Nb5%含む)
3. 7.5YR2/1黒色シルト 粘性弱 しまりやや密 (To-Nb1%含む)
4. 7.5YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまり疎 (壁面崩落土含む)

57・58号陥し穴状遺構



57・58号陥し穴状遺構 (E-E' 断面)

1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性やや強 しまり密 (To-Nbごく少量含む)
2. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまり疎 (壁面崩落土・To-Nbごく少量含む。57号陥し穴状遺構埋土)
3. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎 (To-Nbごく少量含む。57号陥し穴状遺構埋土)
4. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎 (To-Nb含む。57号陥し穴状遺構埋土)
5. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性やや強 しまり疎 (To-Nb含む)
6. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性弱 しまり疎 (To-Nb含む)
7. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまり疎 (壁面崩落土含む)

58号陥し穴状遺構 (B-B' 断面)

1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性やや強 しまり中 (To-Nb少量含む)
2. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性強 しまり疎 (To-Nb・壁崩落土少量含む)
3. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや強 しまり疎 (To-Nb含む)
4. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性強 しまり疎 (壁崩落土多量に含む)

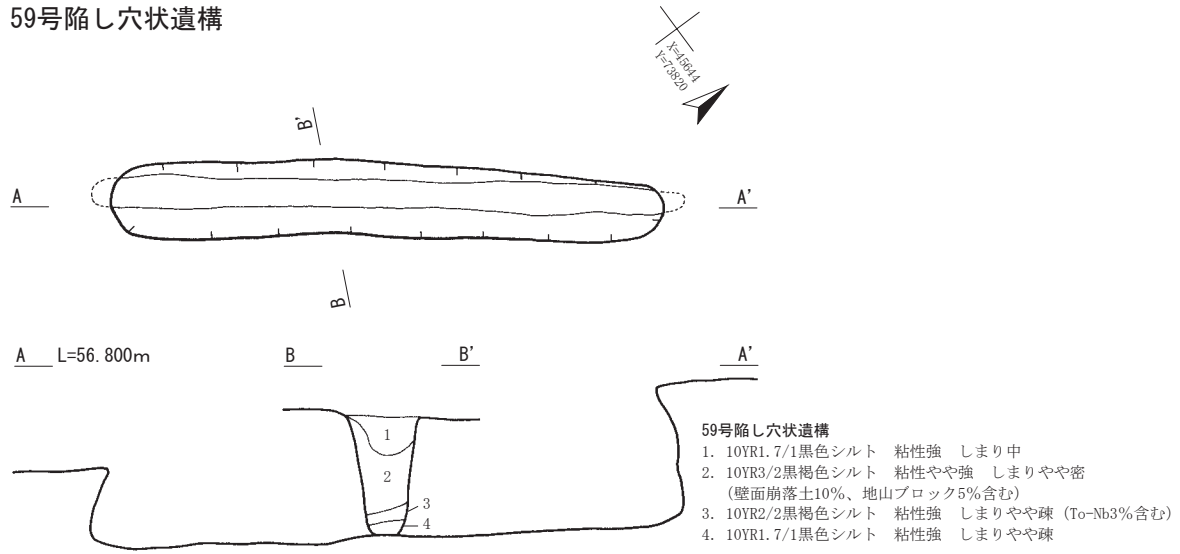
57号陥し穴状遺構 (D-D' 断面)

1. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまり密 (壁面崩落土・To-Nb含む)
2. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性強 しまり疎 (To-Nb含む)

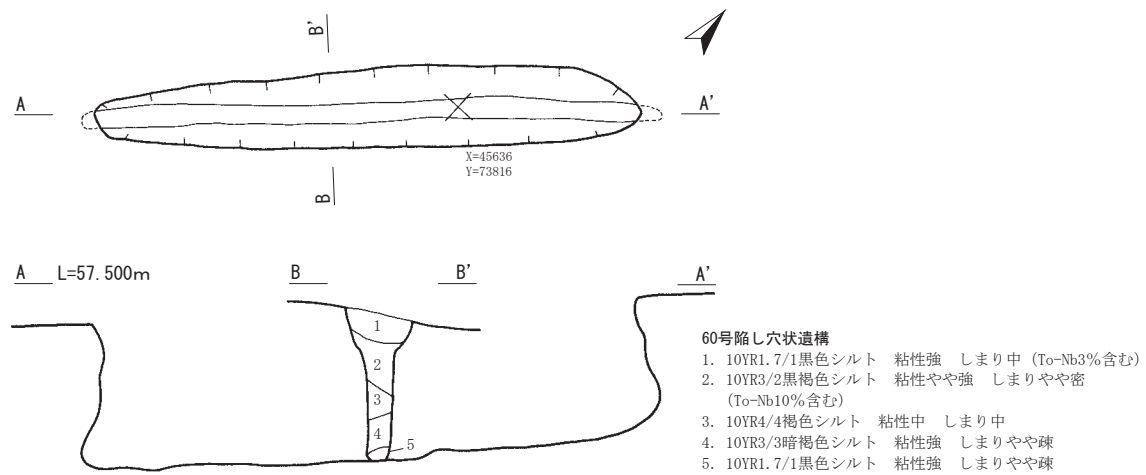


第32図 56~58号陥し穴状遺構

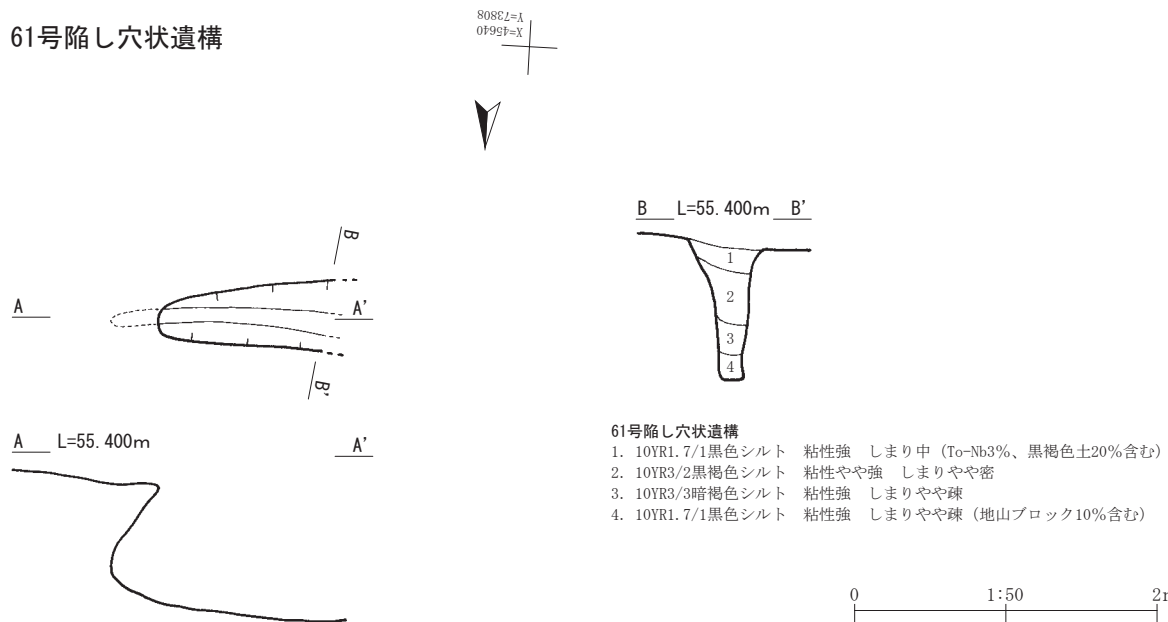
59号陥し穴状遺構



60号陥し穴状遺構



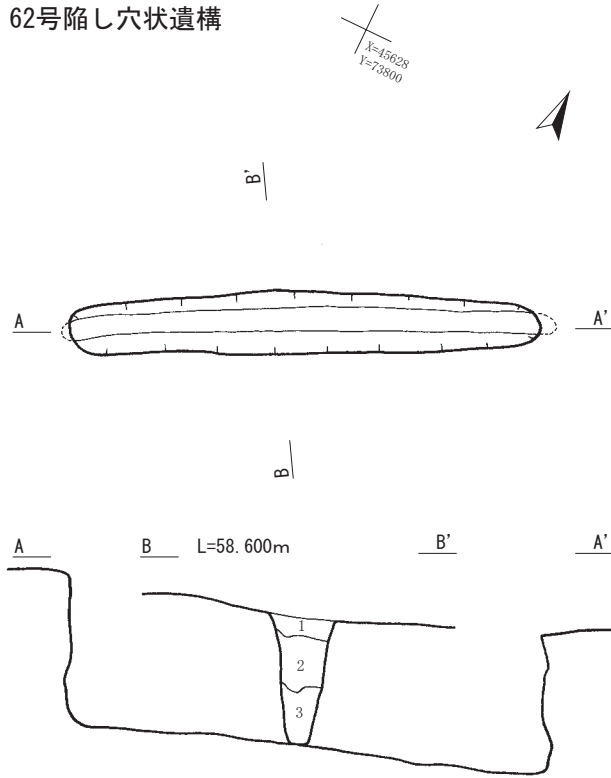
61号陥し穴状遺構



第33図 59~61号陥し穴状遺構

2 検出遺構

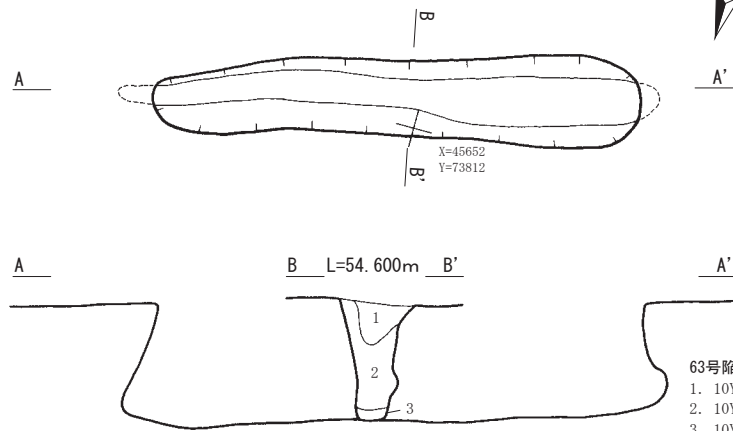
62号陥し穴状遺構



62号陥し穴状遺構

1. 10VR1.7/1黒色シルト 粘性やや強 しまりやや密 (壁面崩落土含む)
2. 10VR2/1黒色シルト 粘性やや強 しまり疎 (To-Nbごく少量含む)
3. 10VR2/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまり疎 (To-Nb多量に含む)

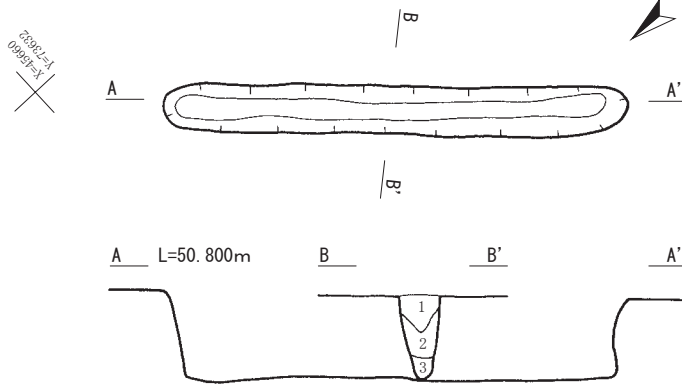
63号陥し穴状遺構



63号陥し穴状遺構

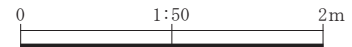
1. 10VR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり中 (To-Nb1%含む)
2. 10VR3/1黒褐色シルト 粘性やや強 しまり中 (To-Nb10%含む)
3. 10VR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり疎 (To-Nb5%ほど含む)

64号陥し穴状遺構



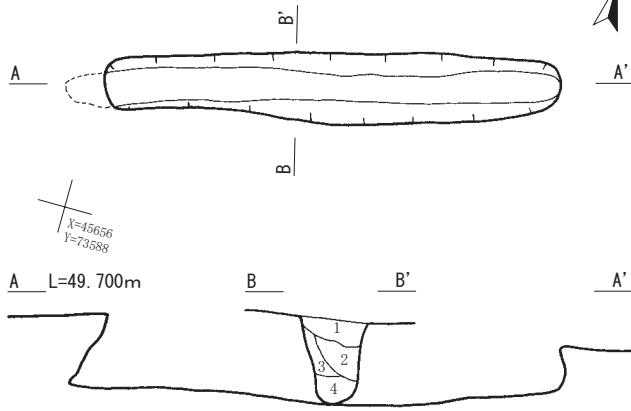
64号陥し穴状遺構

1. 10VR1.7/1黒色シルト 粘性中 しまり密 (II層由来の土層)
2. 10VR2/1黒色シルト 粘性やや強 しまり密 (To-Nbごく少量含む)
3. 10VR3/1黒褐色シルト 粘性やや強 しまり中 (To-Nbごく少量含む)



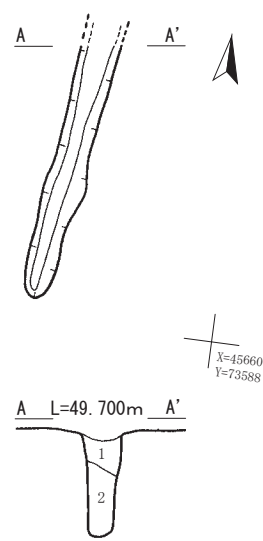
第34図 62~64号陥し穴状遺構

65号陥し穴状遺構



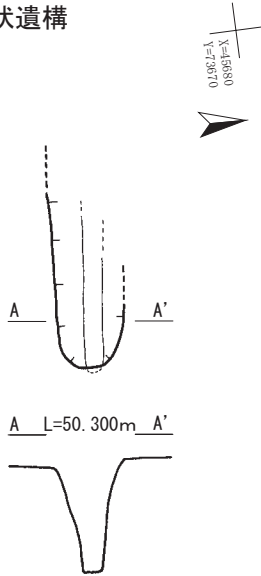
- 65号陥し穴状遺構
1. 7.5YR3/2黒褐色シルト 粘性中 しまり中
 2. 7.5YR3/3暗褐色シルト 粘性中 しまり中
 3. 7.5YR2/3極暗褐色シルト 粘性中 しまり中
 4. 7.5YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまり密

66号陥し穴状遺構

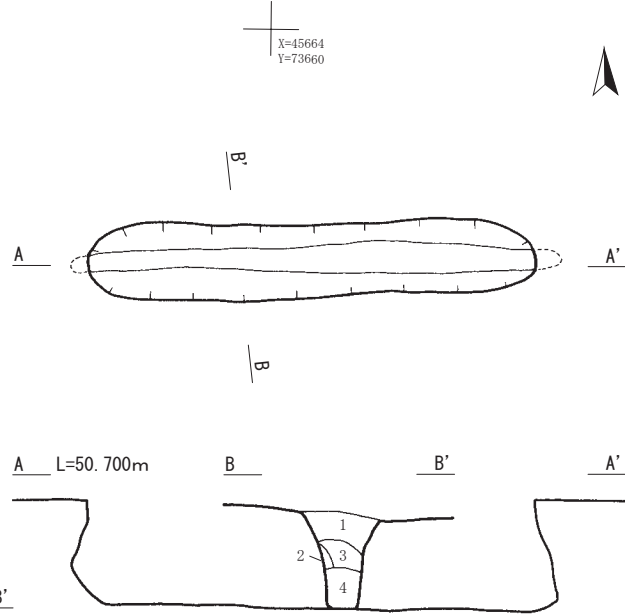


- 66号陥し穴状遺構
1. 7.5YR2/1黒色シルト 粘性中 しまりやや疎
 2. 7.5YR3/1黒褐色シルト 粘性中 しまり中

67号陥し穴状遺構

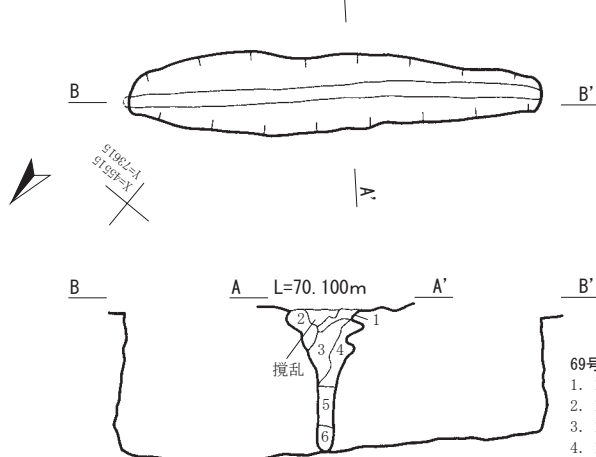


68号陥し穴状遺構



- 68号陥し穴状遺構
1. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまり密 (To-Nbごく少量含む)
 2. 10YR4/4褐色シルト 粘性強 しまり密 (To-Nb・壁面崩落土をごく少量含む)
 3. 7.5YR3/2黒褐色シルト 粘性強 しまりやや密 (To-Nbごく少量含む)
 4. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや強 しまり密 (To-Nbごく少量含む)

69号陥し穴状遺構



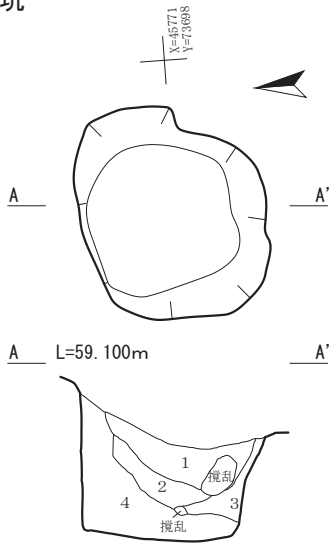
- 69号陥し穴状遺構
1. 10YR2/1黒色シルト 粘性中 しまりやや疎 (To-Nb5%含む。II層由来)
 2. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性中 しまりやや疎 (To-Nb5%含む。IV層壁面崩落土含む)
 3. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまりやや疎 (To-Nb10%含む)
 4. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性中 しまり中 (To-Nb10%・To-H3%含む)
 5. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性中 しまり疎 (To-H粒・ブロック50%含む)
 6. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘性やや強 しまり疎 (To-H、高館テフラ50%含む)



第35図 65～69号陥し穴状遺構

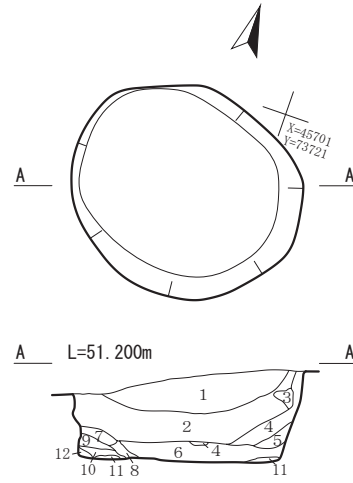
2 検出遺構

1号土坑



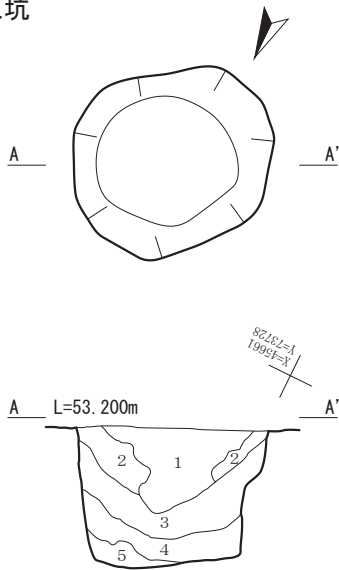
- 1号土坑**
- 10YR3/2黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎
木根による攪乱が著しい 黄褐色土粒少量
 - 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや疎
黄褐色土がブロック状に微量
 - 10YR5/8黄褐色シルト 粘性やや強 しまり疎
黄褐色土 (VI層) 少量 崩落土?
 - 10YR5/4にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり疎
暗褐色土がブロック状に少量混入 黄褐色土粒が微量混入

2号土坑



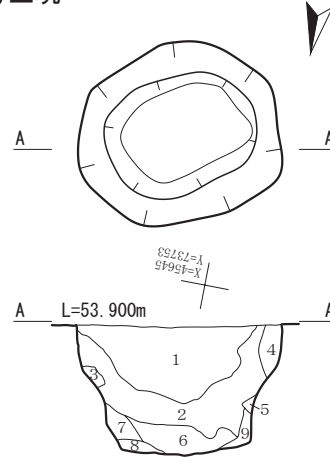
- 2号土坑**
- 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密 直径2mm褐色土粒5%含む
 - 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密 直径2mm褐色土粒10%含む
 - 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまりやや密 直径2mm褐色土粒10%含む
 - 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまりやや密 直径2mm褐色土粒3%含む
 - 10YR4/4褐色シルト 粘性強 しまりやや密 直径2mm褐色土粒20%含む
 - 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密 直径2mm褐色土粒5%含む
 - 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまりやや密 直径2mm褐色土粒20%含む
 - 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまりやや密 直径2mm褐色土粒10%含む
 - 10YR4/4褐色シルト 粘性強 しまりやや密 直径2mm褐色土粒5%含む
 - 10YR4/6褐色シルト 粘性強 しまりやや密 直径2mm褐色土粒5%含む
 - 10YR4/4褐色シルト 粘性強 しまりやや密
 - 10YR6/8明黄褐色シルト 粘性弱 しまり疎

3号土坑



- 3号土坑**
- 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまり密 直径2mm褐色土粒20%含む
 - 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり密 直径2mm褐色土粒20%含む
 - 10YR2/3黒褐色シルト 粘性強 しまり密 直径2mm褐色土粒20%含む
 - 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまり疎 VII層ブロック状に含む
 - 10YR4/6褐色シルト 粘性中 しまり密 VII層ブロック状に含む

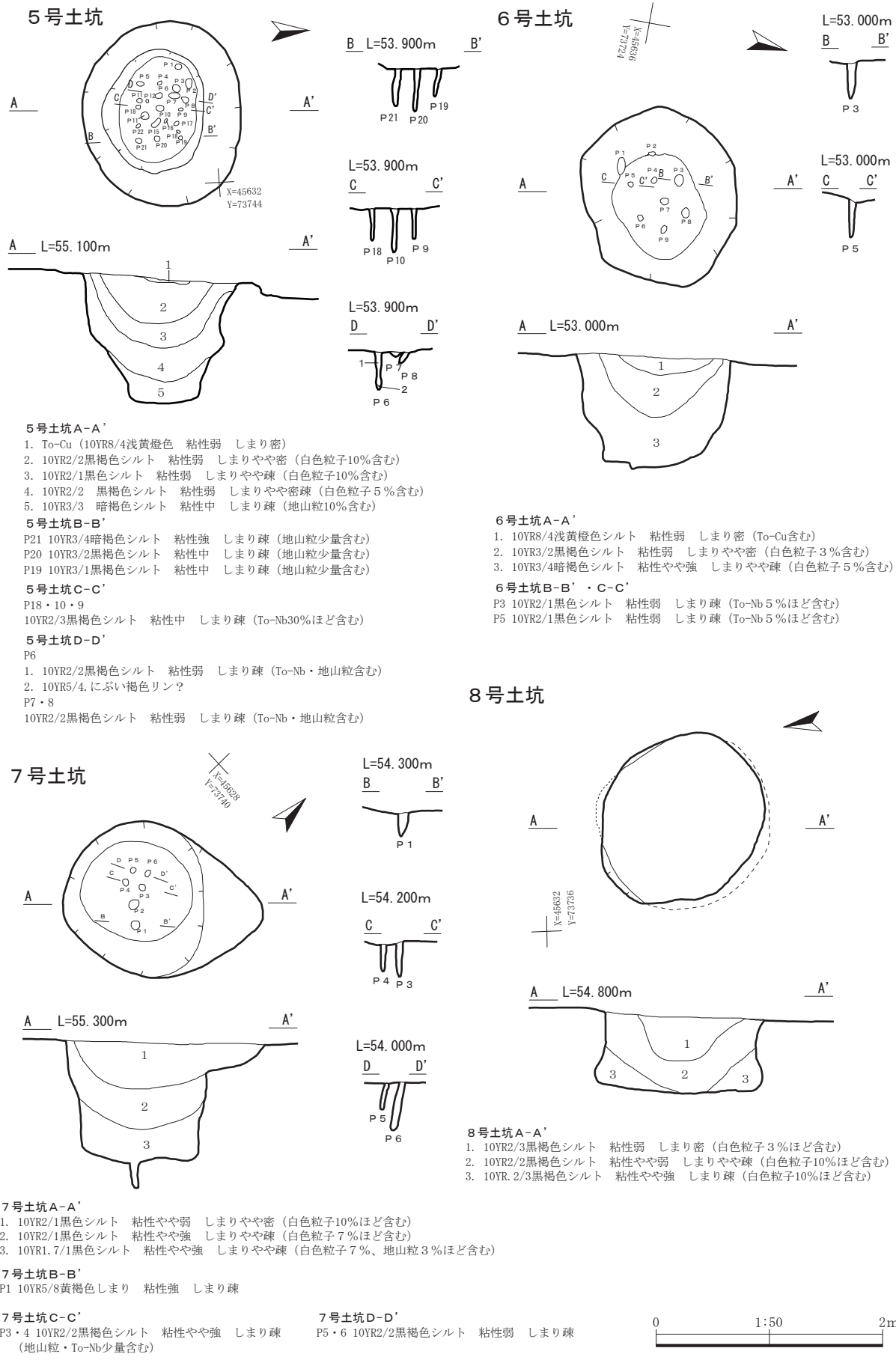
4号土坑



- 4号土坑**
- 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまり密 直径2mm褐色土粒20%含む
 - 10YR3/4暗褐色シルト 粘性強 しまり密 直径2mm褐色土粒20%含む
 - 10YR4/4褐色シルト 粘性強 しまり密 直径2mm褐色土粒20%含む
 - 10YR2/3黒褐色シルト 粘性強 しまり密 直径2mm褐色土粒20%含む
 - 10YR6/8明黄褐色シルト 粘性中 しまり密
 - 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまり疎
直径2mm褐色土粒20%・VII層ブロック状に含む
 - 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり密 直径2mm褐色土粒20%含む
 - 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまり密
直径2mm褐色土粒20%含む・VII層ブロック状に含む
 - 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまり密 VII層ブロック状に含み斑状をなす



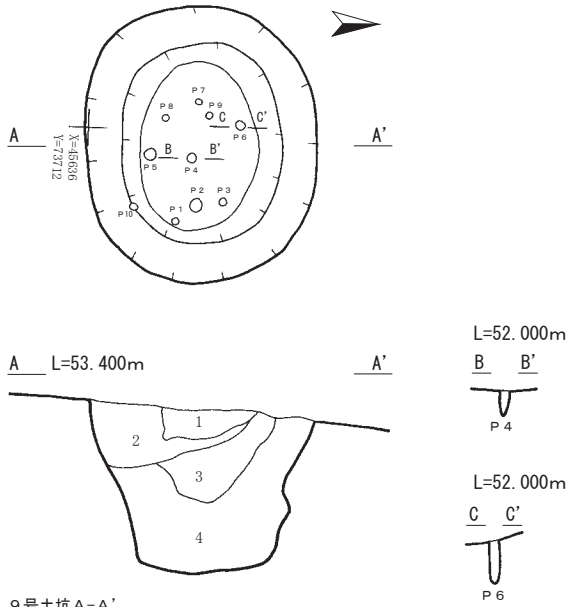
第36図 1～4号土坑



第37図 5～8号土坑

2 検出遺構

9号土坑



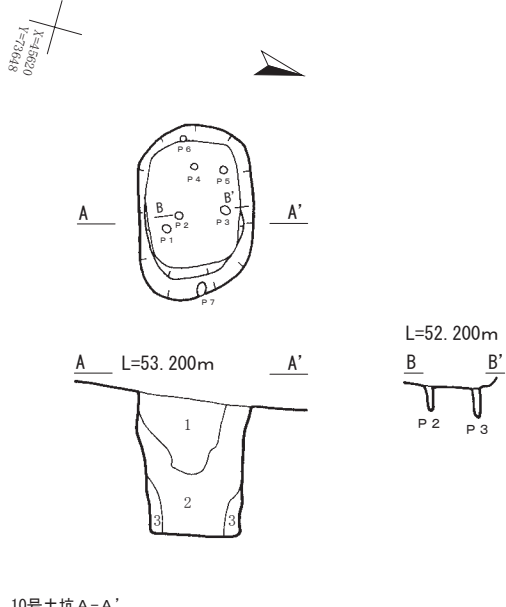
9号土坑 A-A'

1. To-Cu (10YR8/4浅黄橙色 粘性弱 しまり強)
2. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性弱 しまりやや強 (To-Nbブロックを含む)
3. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまりやや疎 (白色粒子を10%ほど含む)
4. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまり弱 (地山ブロックを含む)

9号土坑 B-B' ・ C-C'

- P4 10YR3/2黒褐色シルト 粘性中 しまり疎 (To-Nb含む)
 P6 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり疎

10号土坑



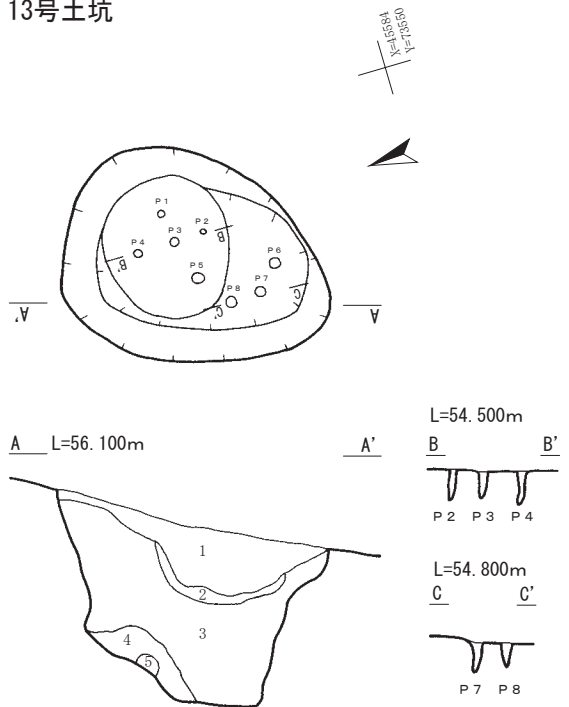
10号土坑 A-A'

1. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性中 しまり中 (To-Nbごく少量含む)
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまりやや密 (To-Nb含む)
3. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性中 しまり中 (To-Nb含む)

10号土坑 B-B'

- P2 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや強 しまり中 (To-Nb少量含む)
 P3 10YR5/8黄褐色粘性質シルト 粘性強 しまり疎 (暗褐色土粒少量含む)

13号土坑



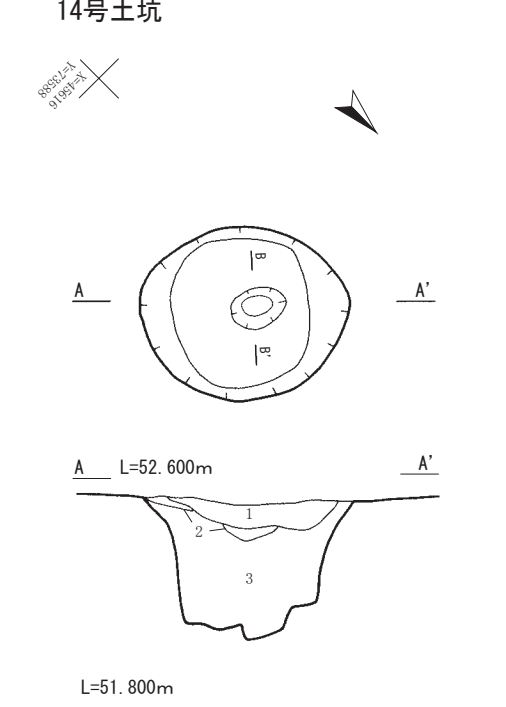
13号土坑 A-A'

1. To-Cu (黒褐色土粒含む)
2. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまり疎 (To-Cu少量含む)
3. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性強 しまりやや疎 (To-Nb含む)
4. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性強 しまりやや疎 (To-Hブロック少量含む)
5. 10YR8/4浅黄橙色シルト 粘性弱 シルト密 (To-H含む)

13号土坑 B-B' ・ C-C'

- P2~P4・P7・P8 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまり疎

14号土坑



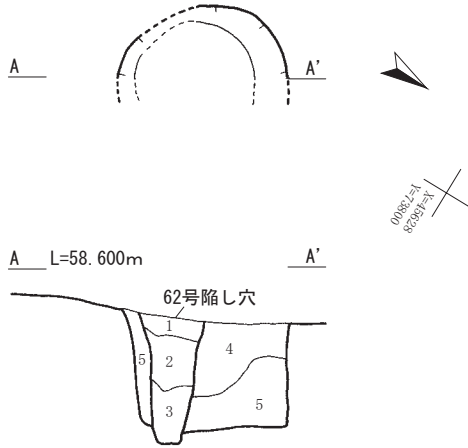
14号土坑 A-A'

1. To-Cu (黒褐色土含む)
2. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性弱 しまり密 (To-Cu少量含む)
3. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性中 しまり密 (To-Cu少量含む)



第38図 9~14号土坑

15号土坑



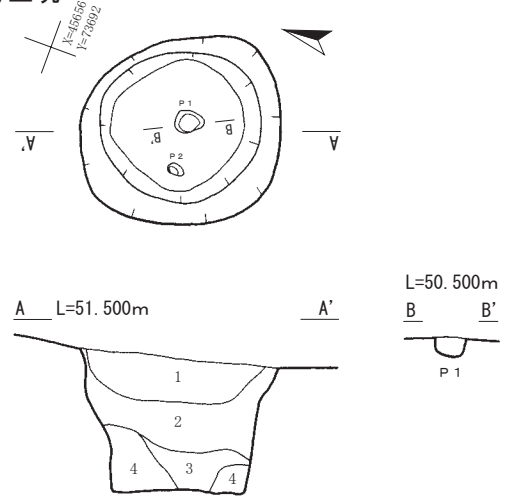
15号土坑

- 4. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまりやや疎 (To-Cu少量含む)
- 5. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまり疎 (To-Cu多量に含む)

62号陥し穴遺構

- 1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性やや強 しまりやや密 (壁面崩落土含む)
- 2. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや強 しまり疎 (To-Nbごく少量含む)
- 3. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまり疎 (To-Nb多量に含む)

16号土坑



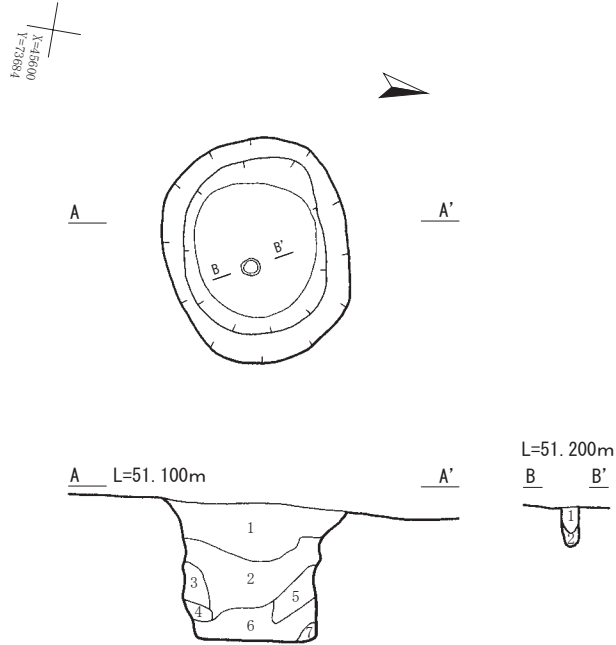
16号土坑A-A'

- 1. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性やや強 しまり密 (To-Nbごく少量含む)
- 2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり密 (To-Nb多量に含む)
- 3. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性強 しまり中 (To-Nb少量含む)
- 4. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまり疎 (壁崩落土)

16号土坑B-B'

- P1. 10YR4/2灰黄褐色シルト 粘性強 しまり疎 (To-Hブロック多量に含む)

17号土坑



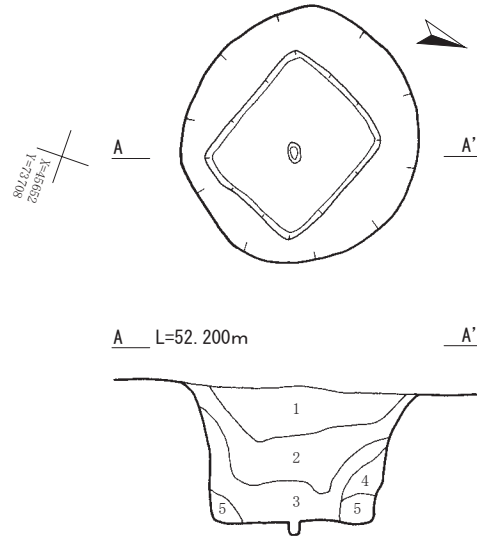
17号土坑A-A'

- 1. 7.5YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり密 (To-Nbを含む)
- 2. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性強 しまり密 (To-Nb多量に含む)
- 3. 10YR2/1黒色シルト 粘性強 しまりやや密
- 4. 10YR3/1黒褐色シルト 粘性強 しまり密 (To-Nb含む)
- 5. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性強 しまり密 (To-Nb含む)
- 6. 7.5YR2/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまり密 (To-Nb含む)
- 7. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや強 しまりやや密 (To-Nb含む)

17号土坑B-B'

- 1. 7.5YR3/1黒褐色シルト 粘性中 しまり密 (To-Nbごく少量含む)
- 2. 7.5YR3/3暗褐色シルト 粘性中 しまり密 (壁面崩落土含む)

18号土坑



18号土坑A-A'

- 1. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまり密 (To-Nb少量含む)
- 2. 10YR4/4褐色シルト 粘性強 しまり密 (壁面崩落土・To-Nbごく少量含む)
- 3. 7.5YR3/2黒褐色シルト 粘性強 しまりやや密 (To-Nbごく少量含む)
- 4. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや強 しまり密 (To-Nbごく少量含む)
- 5. 10YR1.7/1黒色シルト 粘性やや強 しまり密 (To-Nb含む)



第39図 15~18号土坑

V 出土遺物

出土した遺物の総量は、土器が中コンテナ(42×32×20cm) 1箱、石器類が中コンテナ(42×32×20cm) 2箱である。

1 遺構に伴う遺物(第41図1～4、写真図版38)

遺構に伴う遺物は1～4の土器がある。1は46号陥し穴状遺構埋土上位から出土した。胎土に繊維は含まれず、単節LR縄文が施される。2～4は2号焼土遺構上面から出土したものである。2は壺の口縁部、3は鉢もしくは高坏の頸部で、赤色顔料が塗布される。4は単節縄文が施される口縁部片である。縄文時代晩期～弥生時代の遺物と思われる。

2 遺構外出土遺物(第41～48図、写真図版38～42)

(1) 土器

ここでは、文様・繊維の有無等により土器型式に当てはめ、以下のように分類した。

I群 縄文時代早期中葉の土器(第41図5、写真図版38)

刺突・条痕が施される白浜式相当の土器である。

II群 縄文時代前期の土器(第41図6～13、写真図版38)

胎土に繊維を含む縄文時代前期前半の土器である。

III群 縄文時代中期の土器(第41図14a～c・15・16、写真図版38)

14a～cは縄文圧痕・単節縄文が施される円筒上層a式の土器である。15・16は沈線と単節縄文が施される中期末の可能性が高い土器である。

IV群 縄文時代後期の土器(第41図17、写真図版38)

縄文施文後、沈線文が施される後期前葉の土器である。

V群 縄文時代晩期の土器(第41図18、写真図版38)

口唇部に刻目・胴部に単節縄文が施される縄文時代晩期大洞C2式の土器である。

VI群 縄文時代晩期後半～弥生時代中期の土器(第41図19～25、写真図版38)

小破片のため、詳細な時期を特定することは出来ないが、20～23の沈線文は変形工字文が施される晩期後半あるいは変形工字文が退化する弥生時代中期頃に比定されると考えられる。

VII群 弥生時代後期天王山式相当の土器(第41図26～28写真図版38)

26・27は無節の縄文、隆帯に刻目(交互刺突文)が施される。

VIII群 粗製の土器(第42図29～42、写真図版38)

口縁部が折り返しのもの(29)、隆帯が施されるもの(30)、小波状のもの(31・32)、平坦なもの(33・34)、無文のもの(35・36)がある。

(2) 陶磁器 (第42図43・44、写真図版38)

43は、瀬戸・美濃産灰釉陶器の片口である(17世紀)。44は肥前産(波佐見窯)のいわゆる「くらわんか」と呼ばれる染付碗である。18世紀前葉～中葉の大橋編年IV期に属す(大橋 1989)。

(3) 石器・石製品 (第43～48図、写真図版39～42)

56点を掲載・記載した。いわゆる定型石器と呼ばれるもの、使用痕跡が明瞭であるもの、破損品でも全体形状が推定できるものを掲載した。全体の内訳は石鏃1点、石匙2点、石錐1点、石篋状石器1点、搔・削器1点、磨製石斧3点、凹石2点、敲石2点、打製石斧42点、独鈷石1点である。以下、器種別に記載する。

石鏃(第43図45、写真図版39)

基部がいわゆる凹基の石鏃である。

石匙(第43図46・47、写真図版39)

つまみ部が作出されるいわゆる縦型石匙である。

石錐(第43図48、写真図版39)

鋭い先頭部を有すが、剥離調整段階でつまみ部を欠損した未製品の可能性が考えられる。

石篋状石器(第43図49、写真図版39)

片面・側縁部に細部加工剥離調整が施される。

搔・削器(第43図50、写真図版39)

側縁部2辺に刃部をもつ。

凹石(第43図51・52図、写真図版39)

礫の平坦面に凹みが認められるものを凹石とした。凹部は複数箇所にあり、両面にあるもの(51)と片面にあるもの(52)がある。

敲石(第43図53・第44図54、写真図版39)

片面・端部に敲打痕が認められるもの(53)、両端部に敲打痕が認められるもの(54)がある。

磨製石斧(第44図55～57、写真図版39)

57は擦切技法によって成形されたものである。側縁に擦切による切断痕跡が認められる。56・57共にペッキングの痕跡が認められる。石質は55がデイサイト製、56・57は北海道産のアオトラ石を石材に使用している。

打製石斧(第44～48図58～99、写真図版40～42)

片面のほぼ全面に自然面を残し、平面形は直接打撃によって楕円形・長方形に整形され、周縁に角度の大きい刃部が形成されるものを打製石斧として扱った。形状・剥離調整に着目して、以下の通りに分類した。

A群：基部から刃部にかけて開く形状のもの。

- a類 自然面の剥離が認められないもの(58～61)。
- b類 自然面の側縁部に剥離があるもの(62～73)。
- c類 自然面の側縁部・基部に剥離があるもの(74～76)。
- d類 自然面の側縁部・刃部に剥離があるもの(77)。
- e類 自然面の基部・刃部に剥離があるもの(78)。
- f類 自然面の刃部に剥離があるもの(79)

2 遺構外出土遺物

g類 自然面の側縁部・基部・刃部に剥離があるもの(80)。

石材は不掲載遺物を含め細粒花崗閃緑岩製10点、砂岩製5点、ヒン岩製3点、デイサイト製3点、凝灰質砂岩製2点、細粒閃緑岩製1点、はんれい岩製1点である。

B群：全体の形状が楕円形のもの(81)。

石材は砂岩製である。

C群：全体の形状が屈曲するもの(82・83)。自然面の括れ部分に剥離がある。石材は両者とも細粒花崗閃緑岩製である。

D群：全体の形状が方形を呈するもの(長さが幅の倍未満)。

a類 自然面の剥離が顕著に認められないもの(84)。

b類 自然面の側縁部に剥離があるもの(85)。

c類 自然面の基部・刃部に剥離があるもの(86・87)。

d類 自然面の側縁部・基部・刃部に剥離があるもの(88)。

石材は細粒花崗閃緑岩製2点、凝灰質砂岩製1点、砂岩製1点、ホルンフェルス製1点である。

E群：全体の形状が短冊形を呈するもの(長さが幅の倍以上)。

a類 自然面の剥離が顕著に認められないもの(89・90)。

b類 自然面の側縁部に剥離があるもの(91~93)。

c類 自然面の基部・側縁部に剥離があるもの(94・95)。

d類 自然面の刃部・側縁部に剥離があるもの(96)。

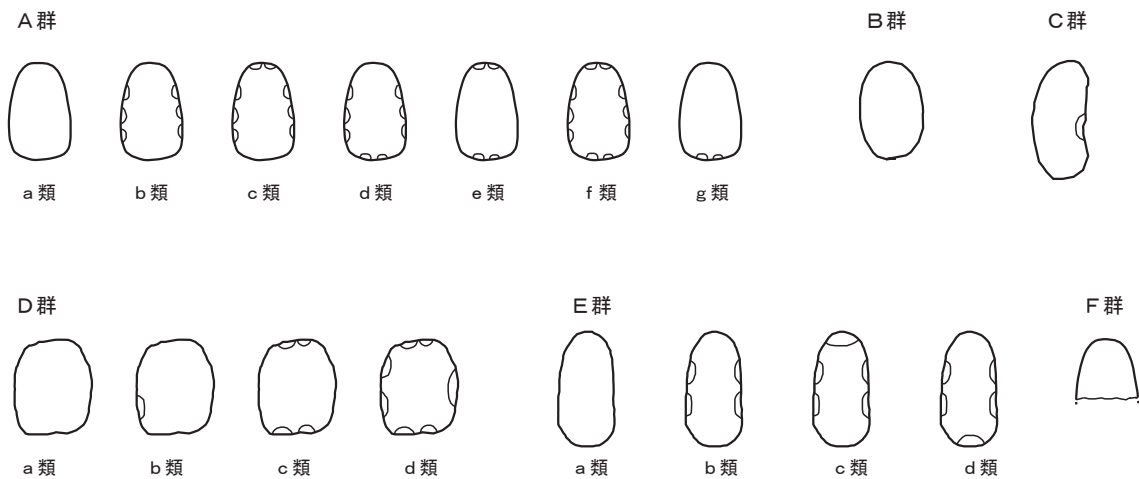
石材は細粒花崗閃緑岩製5点、砂岩製2点、デイサイト製1点である。

F群：欠損などにより全体の形状を特定できないもの(97~99)。

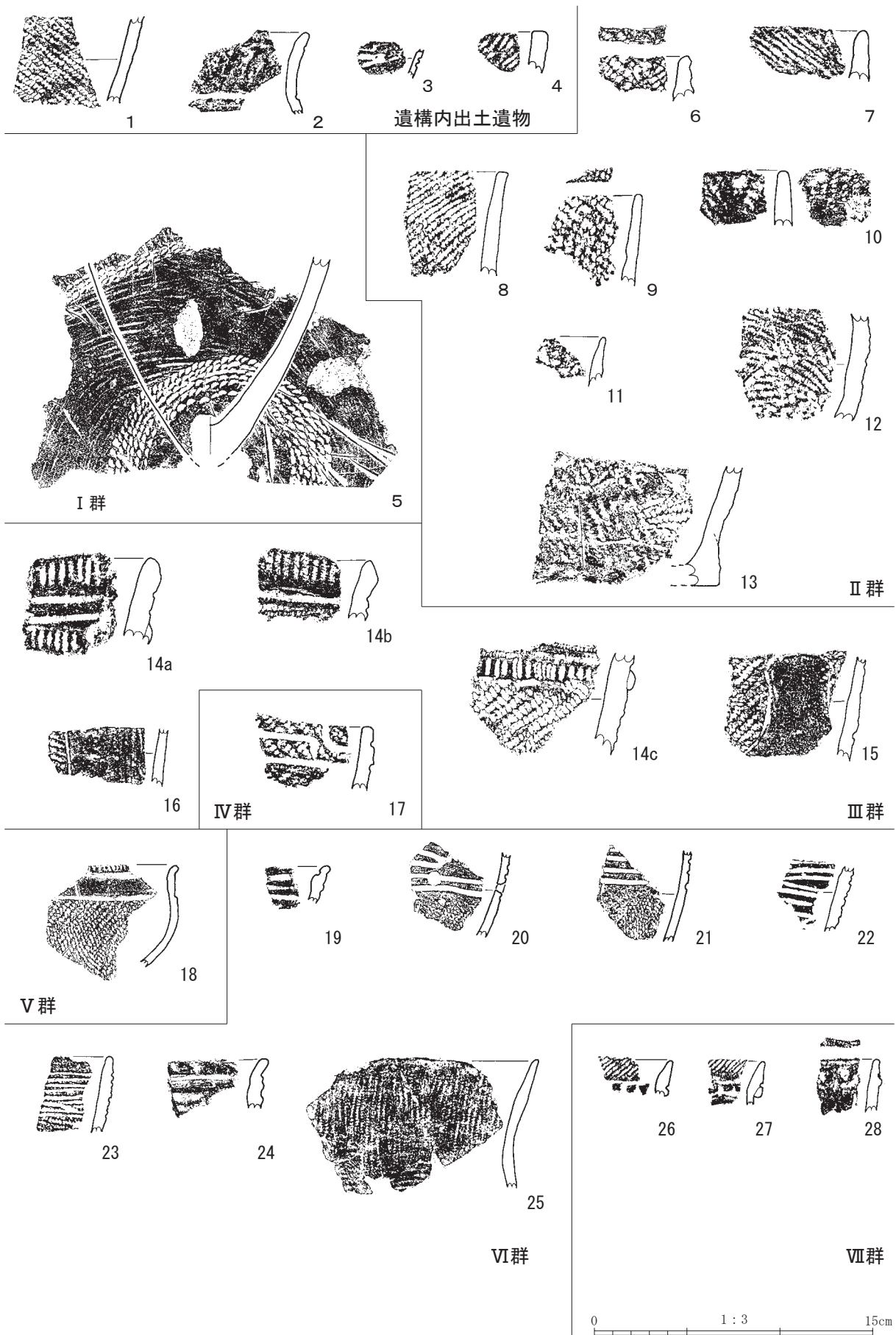
欠損の位置は器面中央部付近に認められるものが多い。石質は不掲載遺物を含めると細粒花崗閃緑岩製23点、砂岩製10点、ヒン岩製9点、細粒閃緑岩製4点、石英斑岩製2点、玄武岩製2点、凝灰質砂岩製2点、はんれい岩製2点、デイサイト製2点、安山岩製1点である。

独鈷石(第48図100、写真図版42)

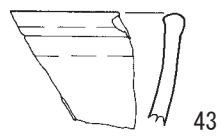
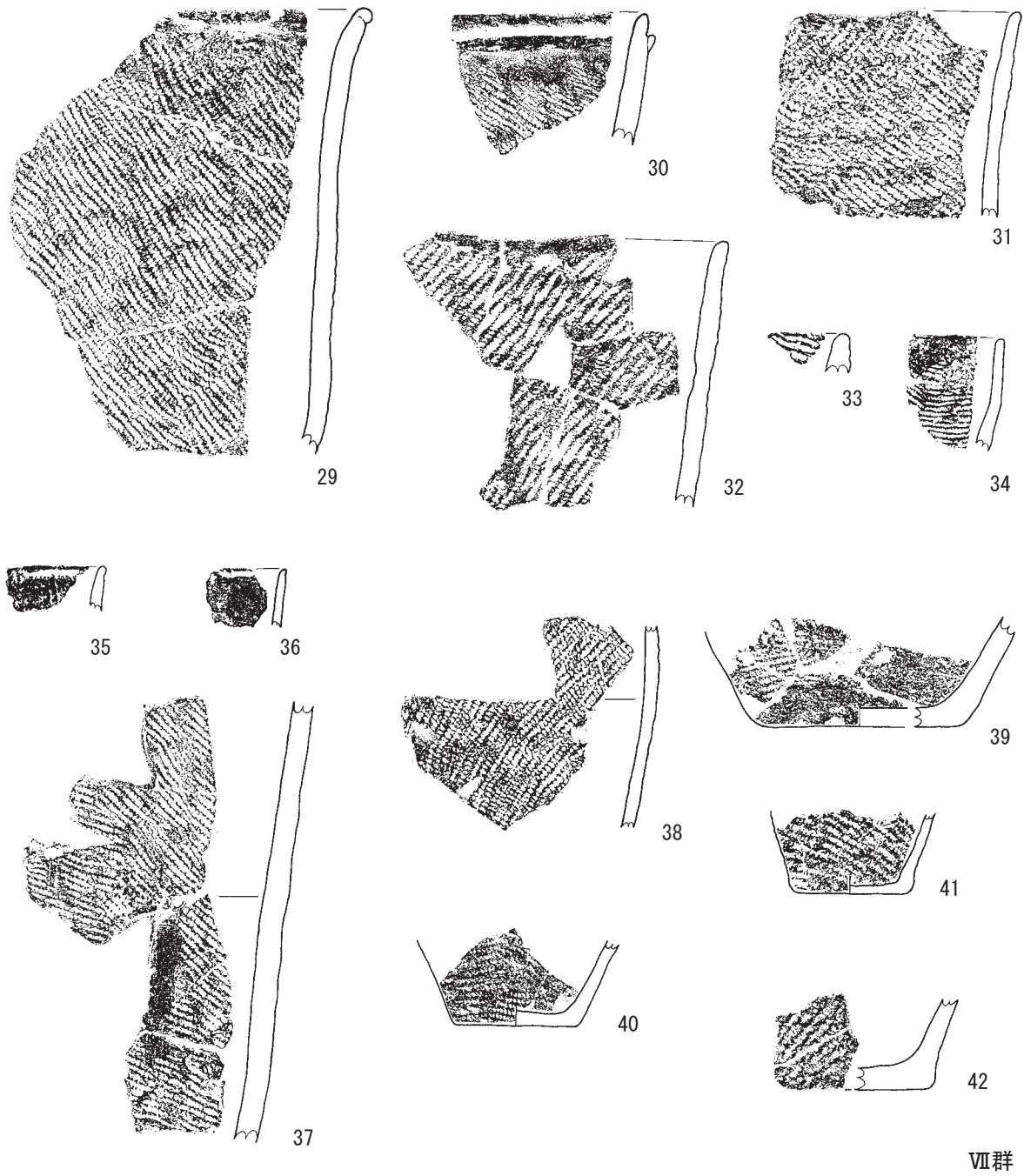
1点のみの出土である。ホルンフェルス製の石材を敲打後研磨して、抉り部と二つの隆帯を作り出している。



第40図 打製石斧分類模式図



第41図 出土遺物(1)



43



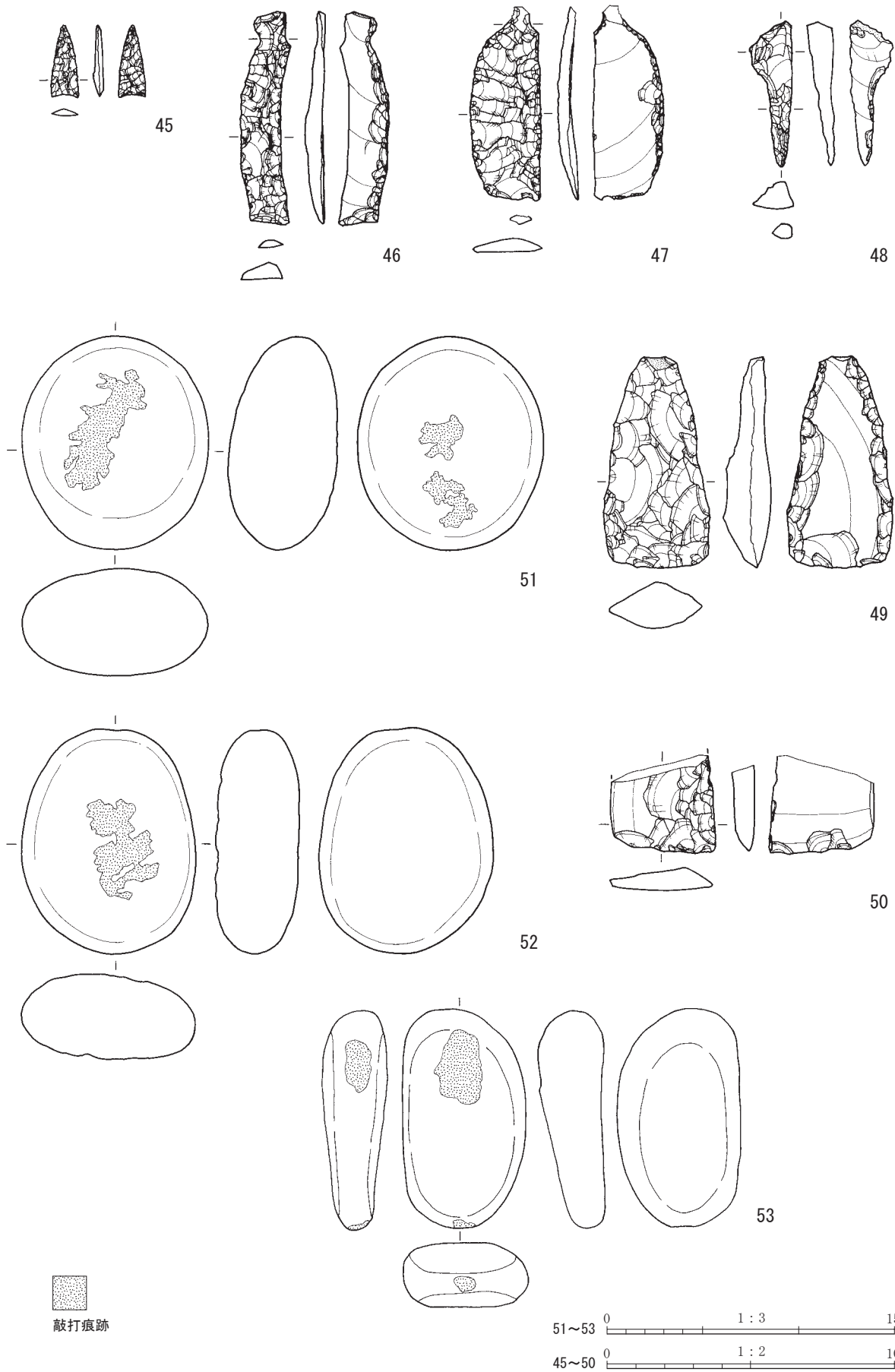
44

瀬戸・美濃産陶器 (17c)

備前産磁器 (18c)

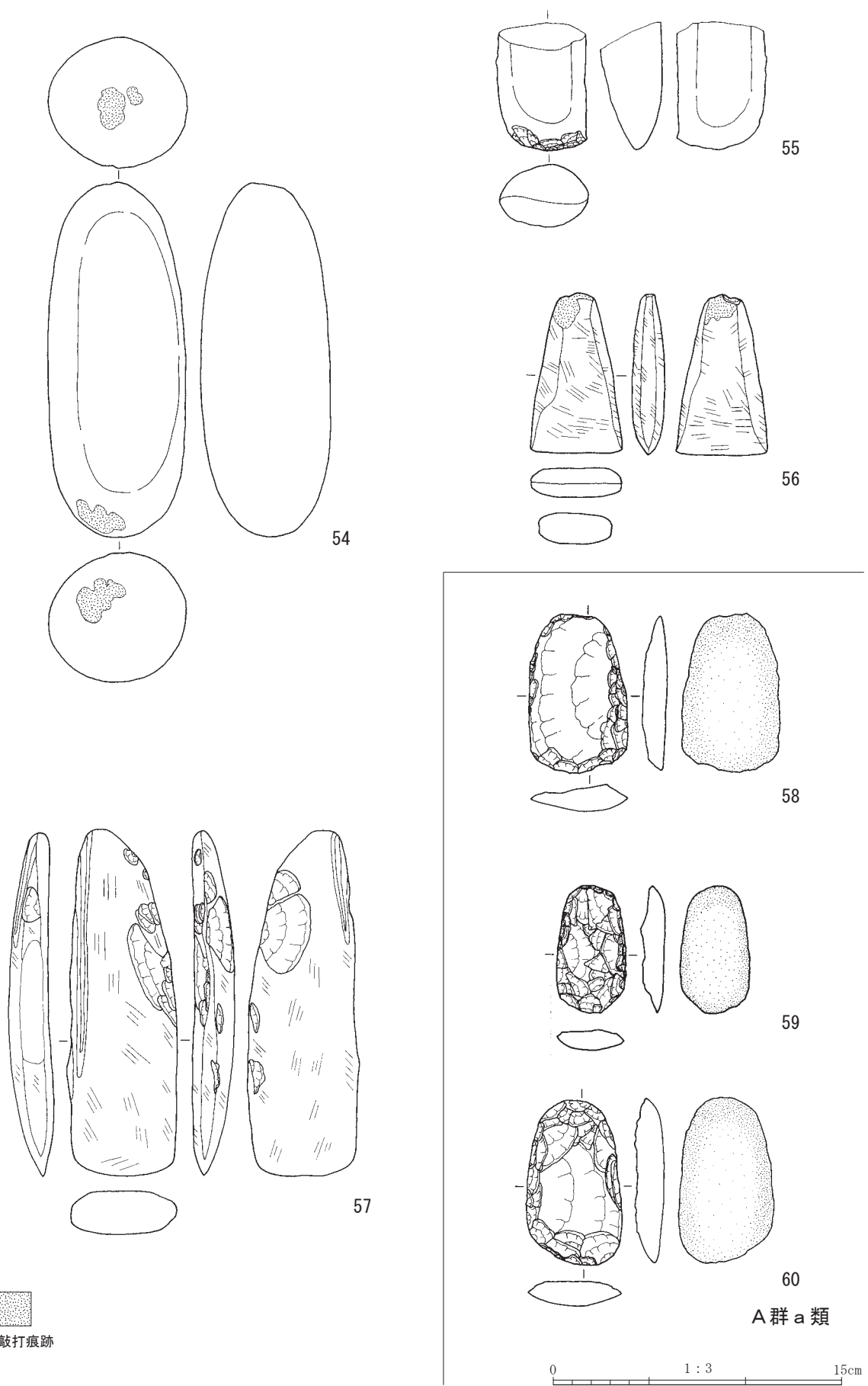
0 1:3 15cm

第42図 出土遺物 (2)

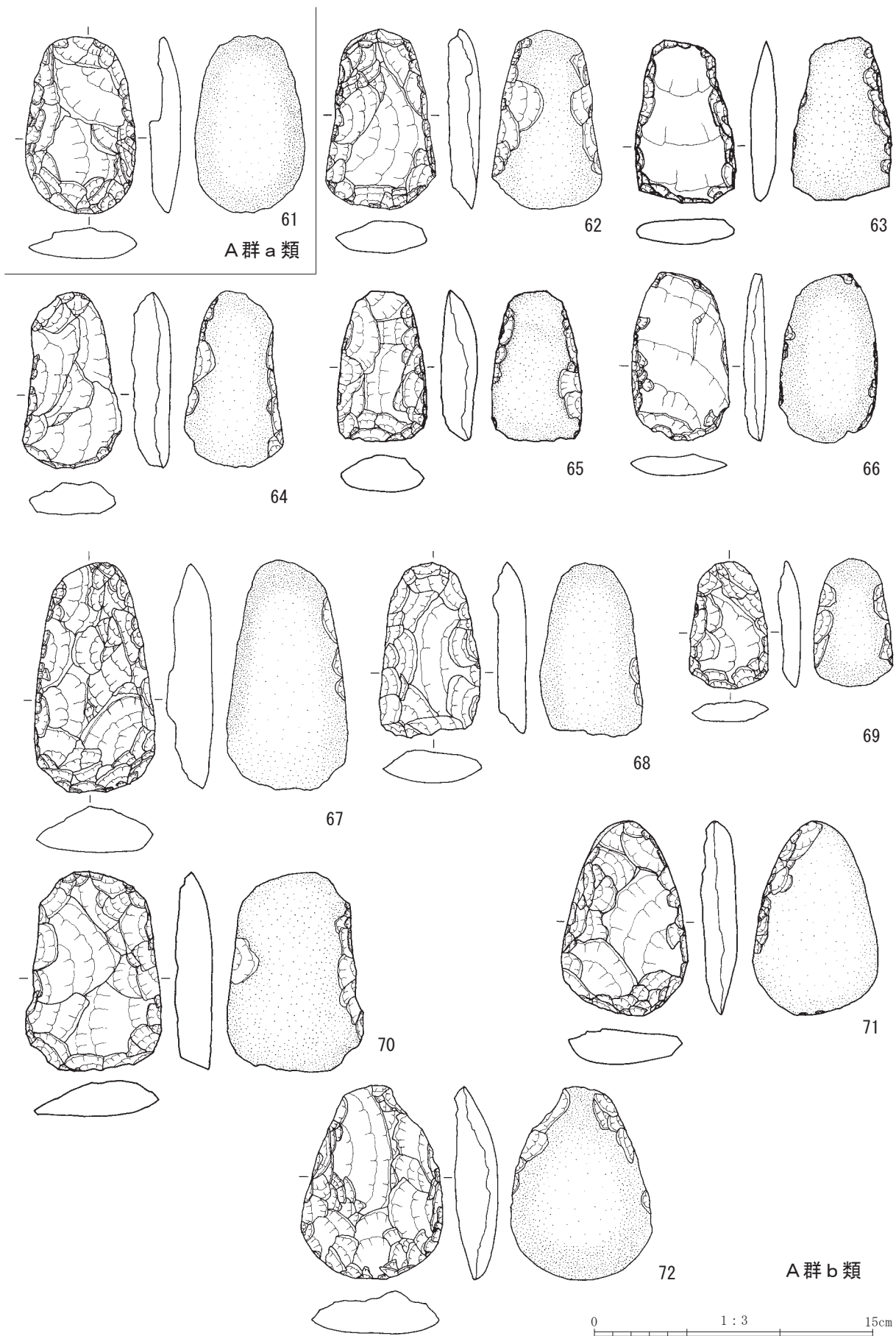


第43圖 出土遺物 (3)

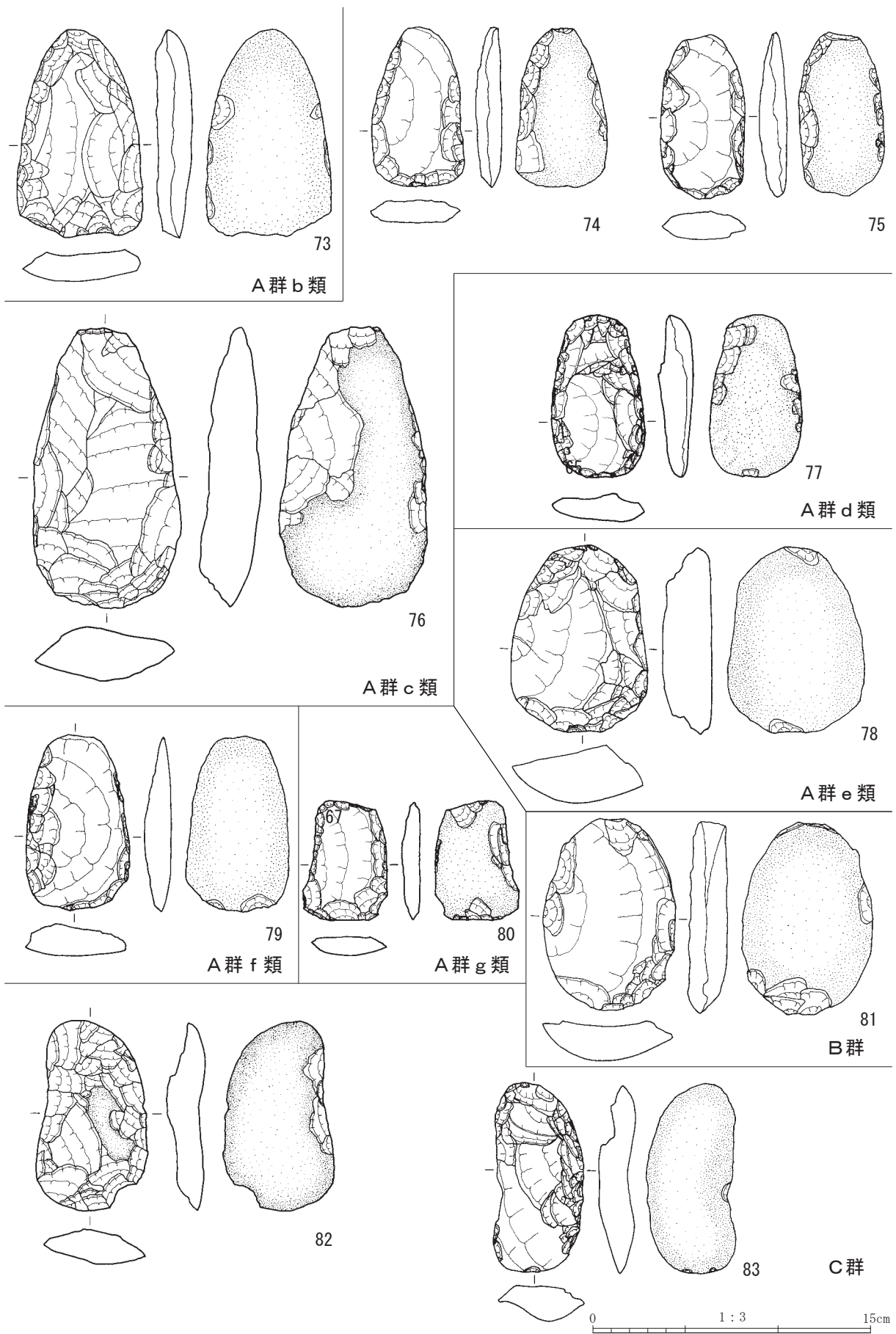
2 遺構外出土遺物



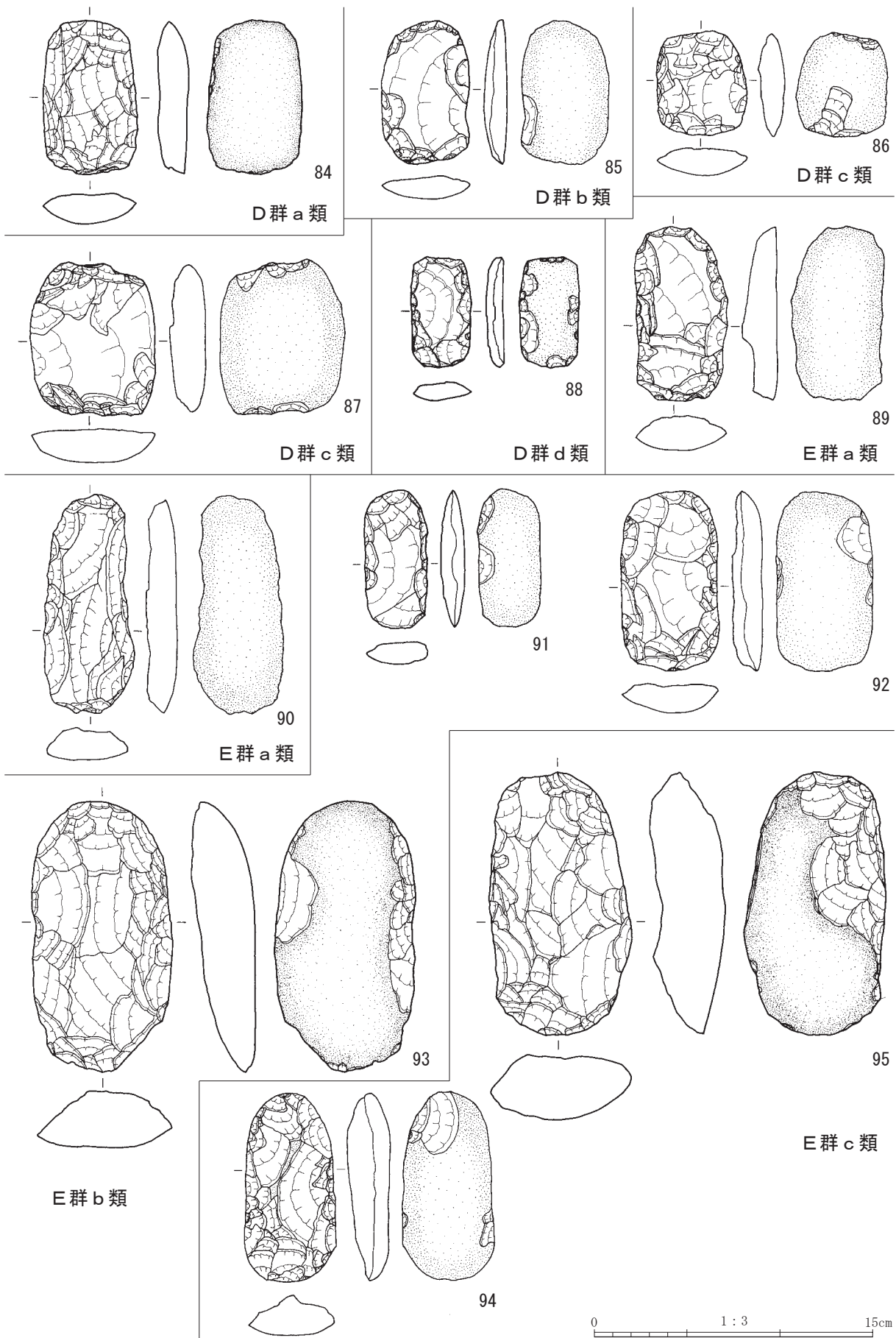
第44図 出土遺物(4)



第45図 出土遺物 (5)

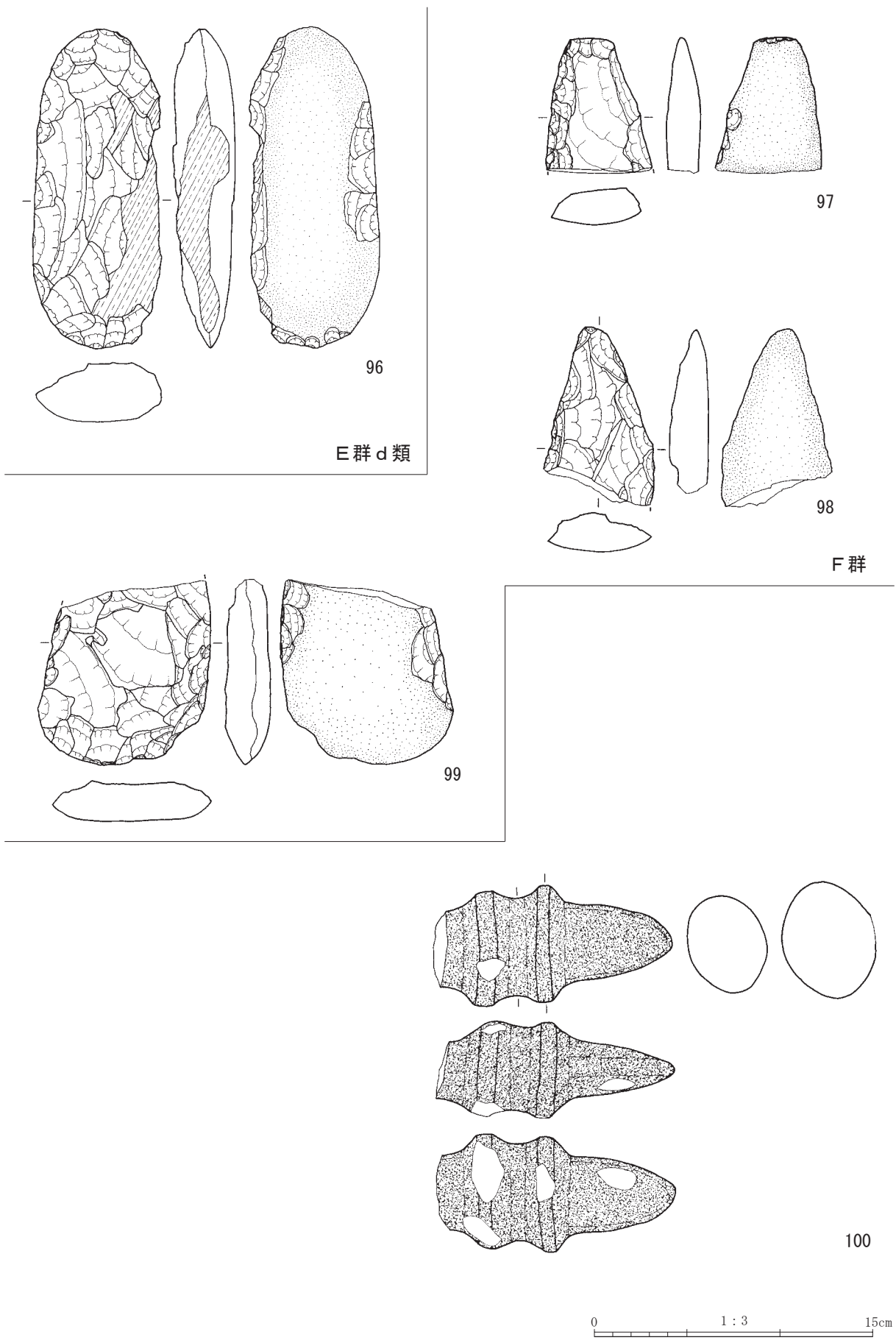


第46図 出土遺物(6)



第47図 出土遺物 (7)

2 遺構外出土遺物



第48図 出土遺物 (8)

第4表 土器・陶磁器観察表

掲載 番号	出土地点	層位	器種	部位	文様・調整等	内面	備考	分類	図版	写真
1	46号陥し穴状遺構	埋土上位	深鉢	胴	単節LR縄文	ナデ		VIII群	41	38
2	2号焼土遺構	上面	壺	口縁部	沈線	ナデ		VI群	41	38
3	2号焼土遺構	上面	鉢or高坏	頸部	沈線	ナデ	赤色顔料付着	VI群	41	38
4	2号焼土遺構	上面	深鉢	口縁部	単節縄文(不明瞭)	ナデ		VIII群	41	38
5	VI E 8 b グリッド	V層	深鉢	胴部~底部	条痕・刺突	ナデ	内面すず付着	I群	41	38
6	I E 7 j グリッド	V層	深鉢	口縁部	口唇部縄文施文・単節LR縄文	ナデ	繊維含む	II群	41	38
7	I E 7 j グリッド	V層	深鉢	口縁部	附加条?	ナデ	繊維含む	II群	41	38
8	I E 10 j グリッド	V層	深鉢	口縁部	単節LR縄文	ナデ	繊維含む	II群	41	38
9	II E 5 i グリッド	V層	深鉢	口縁部	口唇部縄文施文・単節LR縄文?(不明瞭)	ナデ	繊維含む	II群	41	38
10	II E 9 a グリッド	V層	深鉢	口縁部	縄文施文(不明瞭)	縄文施文	繊維含む	II群	41	38
11	II E 2 h グリッド	V層	深鉢	口縁部	縄文施文(不明瞭)	ナデ	繊維含む	II群	41	38
12	VB 6 b グリッド	II層	深鉢	胴部	単節RL縄文	ナデ	繊維含む	II群	41	38
13	VC 5 d グリッド	II層	深鉢	底部	単節RL縄文	ナデ	繊維含む	II群	41	38
14a	VC 5 d グリッド	II層	深鉢	口縁部~頸部	庄痕(LR)・隆帯・単節LR縄文	ナデ		III群	41	38
14b										
14c										
15	VI C グリッド	表探	深鉢	胴部	単節RL縄文・沈線	ナデ		III群	41	38
16	III F 3 h グリッド	V層	深鉢	胴部	単節LR縄文?(不明瞭)	ナデ	内面二次加熱	III群	41	38
17	I E グリッド	V層	深鉢	口縁部	複節RLR縄文・沈線	ナデ		IV群	41	38
18	IV B 7 c グリッド	II層	鉢	口縁部~胴部	口唇部刻目・単節LR縄文	ナデ		V群	41	38
19	IV B 7 c グリッド	II層	鉢or高坏	口縁部	沈線	ナデ		VI群	41	38
20	IV C 7 c グリッド	II層	鉢?	胴部	沈線・単節縄(不明瞭)・孔	ナデ		VI群	41	38
21	IV B 7 c グリッド	II層	鉢or高坏	胴部	沈線・単節LR縄文	ナデ		VI群	41	38
22	II D 7 j グリッド	II層	鉢?	頸部	沈線	ナデ	赤色顔料付着	VI群	41	38
23	II D 10 j グリッド	V層	深鉢or甕	口縁部	沈線	ナデ		VI群	41	38
24	IV B 7 c グリッド	II層	壺	口縁部	沈線	ナデ		VI群	41	38
25	II D 3 j グリッド	表土	甕	口縁部	附加条	ナデ		VI群	41	38
26	II D 10 j グリッド	不明	深鉢or甕	口縁部	無節・隆帯刻目	ナデ		VII群	41	38
27	II E 8 b グリッド	V層	深鉢or甕	口縁部	無節・隆帯刻目	ナデ		VII群	41	38
28	II E 10 d グリッド	V層	深鉢or甕	口縁部	口唇部縄文施文?・隆帯刻目	ナデ		VII群	41	38
29	VII C 2 G グリッド	II層	深鉢	口縁部~胴部	口縁部折り返し・単節LR縄文?	ナデ		VIII群	42	38
30	IV B 6 b グリッド	II層	深鉢	口縁部	口縁部波状・沈線・隆帯・RL縄文	ナデ		VIII群	42	38
31	VC 5 d グリッド	II層	深鉢	口縁部~胴部	口縁部波状・単節LR縄文	ナデ		VIII群	42	38
32	VC 5 d グリッド	II層	深鉢	口縁部~胴部	口縁部小波状・単節RL縄文	ナデ		VIII群	42	38
33	III E 1 c グリッド	V層	深鉢	口縁部	縄文施文(不明瞭)	ナデ		VIII群	42	38
34	VI F 3 h グリッド	V層	深鉢	口縁部	単節LR縄文?(不明瞭)	ナデ		VIII群	42	38
35	IV F 2 b グリッド	V層	深鉢?	口縁部	無文	ナデ		VIII群	42	38
36	II D 7 j グリッド	II層	甕?	口縁部	無文	ナデ		VIII群	42	38
37	IV B 6 b グリッド	II層	深鉢	胴部	単節縄文(不明瞭)	ナデ	外面すず付着	VIII群	42	38
38	IV B 7 c グリッド	II層	深鉢	胴部	単節LR縄文	ナデ		VIII群	42	38
39	VC 5 d グリッド	II層	深鉢	底部	縄文施文(不明瞭)	ナデ		VIII群	42	38
40	III D 1 j グリッド	V層	深鉢	底部	単節RL縄文	ナデ		VIII群	42	38
41	VC 5 d グリッド	II層	深鉢	底部	単節LR縄文	ナデ		VIII群	42	38
42	VC 5 d グリッド	II層	深鉢	底部	単節RL縄文?(不明瞭)	ナデ		VIII群	42	38
43	不明	不明	片口	口縁部	灰釉		陶器	IX群	42	38
44	調査区内	盛り土	碗	口縁部~胴部	染付		磁器	IX群	42	38

2 遺構外出土遺物

第5表 石器観察表

掲載番号	器種	出土地点	出土層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	刃角度	分類	図版	写真
45	石鏃	ⅢF4jグリッド	検出面	2.5	1.0	0.3	0.54	頁岩(北上山地・中生代)			43	39
46	石匙	ⅢE1aグリッド		7.4	1.8	0.7	7.36	頁岩(北上山地・中生代)			43	39
47	石匙	ⅠE7jグリッド		(6.7)	2.5	0.6	9.16	頁岩(北上山地・中生代)			43	39
48	石錐	ⅣB7cグリッド	Ⅱ層	5.0	1.5	0.9	5.30	赤色頁岩(北上山地・中生代)			43	39
49	籠状石器	ⅢE1aグリッド		7.3	5.7	1.7	22.41	凝灰岩(北上山地・中生代)	54°		43	39
50	搔・削器	ⅡE1gグリッド		(3.5)	3.7	0.8	12.73	頁岩(北上山地・中生代)			43	39
51	凹石	ⅡE6iグリッド		11.2	99.8	5.5	841.6	石英斑岩(北上山地・中生代白亜紀)			43	39
52	凹石	ⅡE8hグリッド		11.6	9.1		692.5	石英斑岩(北上山地・中生代白亜紀)			43	39
53	敲石	ⅡEグリッド	表探	11.4	6.4	3.4	387.5				43	39
54	敲石	ⅢDグリッド	表探	18.3	7.2	6.7	1368.2	花崗斑岩(中生代白亜紀)			44	39
55	磨製石斧	ⅡE2Iグリッド	V層	(6.6)	4.7	3.2	139.1	デイサイト(北上山地・中生代白亜紀)	25°		44	39
56	磨製石斧	V B9dグリッド	V層	8.2	4.8	1.6	103.6	アオトラ石結晶片岩(北海道?)	29°		44	39
57	磨製石斧	ⅥE7iグリッド	文化課トレンチ内	17.8	6.7	2.2	368.4	アオトラ石結晶片岩(北海道?)	23°		44	39
58	打製石斧	ⅢD1hグリッド	V層	8.3	5.1	1.4	74.7	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	55°	Aa	44	40
59	打製石斧	ⅡD1iグリッド		6.1	3.9	1.1	37.4	砂岩(北上山地・中生代)	20°	Aa	44	40
60	打製石斧	ⅡD1iグリッド		8.2	4.9	1.6	89.4	細粒閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	45°	Aa	44	40
61	打製石斧	ⅡE2iグリッド	V層	9.5	5.7	1.7	127.4	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	39°	Aa	45	40
62	打製石斧	ⅢE1aグリッド	Ⅱ層	9.6	5.9	1.7	149.5	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	41°	Ab	45	40
63	打製石斧	ⅡE6jグリッド		8.5	5.1	1.6	94.8	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	41°	Ab	45	40
64	打製石斧	ⅡE4hグリッド		9.3	4.9	1.7	140.3	はんれい岩(北上山地・中生代白亜紀)	81°	Ab	45	40
65	打製石斧	ⅡD7jグリッド	Ⅱ層	8.1	4.8	2.0	102.1	砂岩(北上山地・中生代)	58°	Ab	45	40
66	打製石斧	ⅠE7jグリッド		8.9	5.1	1.1	87.8	砂岩(北上山地・中生代)	47°	Ab	45	40
67	打製石斧	ⅢD1hグリッド	V層	12.3	6.5	2.5	250.1	ヒン岩(北上山地・中生代白亜紀)	69°	Ab	45	40
68	打製石斧	ⅡE9cグリッド	V層	9.4	5.6	5.5	133.6	砂岩(北上山地・中生代)	41°	Ab	45	40
69	打製石斧	ⅢD1hグリッド	V層	6.8	4.5	1.1	49.8	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	44°	Ab	45	40
70	打製石斧	ⅢF2aグリッド		11.1	7.2	1.9	230.5	デイサイト(原地山層・中生代白亜紀)	65°	Ab	45	40
71	打製石斧	ⅢE2bグリッド		10.3	6.1	1.9	168.3	凝灰質砂岩(北上山地・中生代)	24°	Ab	45	40
72	打製石斧	ⅡE2hグリッド		10.4	10.4	7.6	233.4	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	22°	Ab	45	40
73	打製石斧	ⅡE2iグリッド	V層	11.1	6.2	1.7	198.5	デイサイト(北上山地・中生代白亜紀)	45°	Ab	46	41
74	打製石斧	ⅢE1aグリッド	Ⅱ層	8.4	4.9	1.1	83.0	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	51°	Ac	46	41
75	打製石斧	ⅡD7jグリッド		8.8	4.6	1.5	99.4	細粒閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	35°	Ac	46	41
76	打製石斧	ⅠE10gグリッド		15.1	8.1	3.2	453.4	砂岩(北上山地・中生代)	45°	Ac	46	41
77	打製石斧	ⅡF7aグリッド		8.6	4.6	2.2	95.2	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	63°	Ad	46	41
78	打製石斧	ⅢE1iグリッド		10.1	7.4	3.1	262.2	ヒン岩(北上山地・中生代白亜紀)	56°	Ae	46	41
79	打製石斧	ⅡE6gグリッド		9.5	5.6	1.7	107.7	ヒン岩(北上山地・中生代白亜紀)	51°	Af	46	41
80	打製石斧	ⅡE9hグリッド		6.5	4.5	1.0	41.9	凝灰質砂岩(北上山地・中生代)	35°	Ag	46	41
81	打製石斧	ⅡE4fグリッド	V層	10.4	7.1	2.1	223.1	砂岩(北上山地・中生代)	40°	B	46	41
82	打製石斧	ⅡE9eグリッド		10.1	5.4	1.8	137.6	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	40°	C	46	41
83	打製石斧	ⅡE4cグリッド	V層	10.2	4.7	1.9	122.1	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代)	44°	C	46	41
84	打製石斧	ⅠE9eグリッド		8.1	5.3	1.7	105.7	砂岩(北上山地・中生代)	89°	Da	47	41
85	打製石斧	ⅢE3fグリッド		7.7	4.7	1.2	71.6	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	93°	Db	47	41
86	打製石斧	ⅢE1aグリッド		5.7	4.9	1.5	48.2	ホルンフェルス(北上山地・変成は中生代白亜紀)	30°	Dc	47	41
87	打製石斧	ⅢF2aグリッド		8.3	6.7	2.1	162.7	凝灰質砂岩(北上山地・中生代)	42°	Dc	47	41
88	打製石斧	ⅡE9fグリッド		5.9	2.7	1.0	28.6	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	63°	Dd	47	42
89	打製石斧	ⅢE1cグリッド		9.5	4.9	1.9	108.9	砂岩(北上山地・中生代)	73°	Ea	47	42
90	打製石斧	不明	盛土	11.8	4.8	1.8	149.1	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	50°	Ea	47	42
91	打製石斧	ⅢE2bグリッド		7.5	3.4	1.3	45.3	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	25°	Eb	47	42
92	打製石斧	ⅡE9gグリッド	Ⅱ層	9.6	5.2	1.7	120.8	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	52°	Eb	47	42
93	打製石斧	ⅠE9eグリッド		14.5	9.3	3.3	437.9	デイサイト(原地山層・中生代白亜紀)	26°	Eb	47	42
94	打製石斧	ⅢE1aグリッド		10.2	4.9	2.2	138.8	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	43°	Ec	47	42
95	打製石斧	ⅡEグリッド	表探	14.1	7.6	3.9	531.2	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	34°	Ec	47	42
96	打製石斧	ⅡE9gグリッド	Ⅱ層	17.2	7.8	3.4	526.4	砂岩(種市層・中生代白亜紀)	26°	Ed	48	42
97	打製石斧	ⅠE7jグリッド		(7.3)	5.8	1.8	109.4	ヒン岩(北上山地・中生代白亜紀)	刃部破損	F	48	42
98	打製石斧	ⅡE9gグリッド	Ⅱ層	(9.5)	5.8	2.1	137.7	細粒花崗閃緑岩(北上山地・中生代白亜紀)	刃部破損	F	48	42
99	打製石斧	ⅢD1hグリッド	V層	(9.9)	8.6	2.5	340.5	ヒン岩(北上山地・中生代白亜紀)	刃部破損	F	48	42
100	独鈷石	ⅣB7cグリッド	Ⅱ層	(12.8)	6.4	6.3	403.2	ホルンフェルス(原地山層・中生代白亜紀)			48	42

VI 総 括

1 陥し穴状遺構について

(1) 副穴を伴う陥し穴状遺構（5～13号、16～18号土坑）

平面形が円形・楕円形・小判形で、断面形では底面径より開口部径が広く、底面に副穴を伴う土坑は陥し穴状遺構と判断した。時期は十和田南部浮石テフラ層を截り、埋土上部に十和田中掬テフラが堆積していることから、南部浮石降下以降～中掬テフラ降下以前の遺構である。埋土に十和田中掬テフラが認められないものについても、底面に副穴が伴うことから同時期のものと判断される。開口部径は最大のもので180×140cm(13号土坑)、最小のもので116×78(10号土坑)である。副穴の規模は径4～11cm、深さ6～43cmで6～22基配置されるA類(5～10・13号)と、径16～34cm、深さ10～20cmの底面中央付近に配置されるB類(14・16～18号)の2種に大別される(第49図)。配置は、IV E・IV F・V E・V Dグリッド内で北西から南東方向に列状に配置されるものがある(5～9号・17～18号)。

本遺跡から半径およそ30km圏内の次の遺跡では、同類の遺構が検出されている。鶉窪遺跡(八戸市)・黒坂遺跡(八戸市)・荒屋敷久保(1)遺跡(八戸市)・櫛館遺跡(八戸市)・岩ノ沢平遺跡(八戸市)・松ヶ崎遺跡(八戸市)・笹子(2)遺跡(八戸市)・田向冷水遺跡(八戸市)・上野遺跡(八戸市)・弥次郎窪遺跡(八戸市)・小坂橋(2)遺跡(階上町)・道仏鹿糠遺跡(階上町)・藤沢(2)遺跡(階上町)・田中IV遺跡(久慈市)・北ノ越遺跡(久慈市)・早坂平遺跡(久慈市)・菅窪長屋構遺跡(田野畑村)・島越II遺跡(田野畑村)・和野ソマナイ遺跡(田野畑村)・野場I遺跡(田野畑村)・上泉沢遺跡(野田村)の21遺跡で、検出数は144基である。

本遺跡分類のA類と類似するものは57基、B類と類似するものは45基、底面に副穴が認められないものが23基(C類)、壁沿いに副穴が配置される23基(D類)である(第6表)。第50～53図は、144基のうち82基それぞれの遺跡の特徴を示す82基の陥し穴状遺構を抽出したものである。

形状は本遺跡と同様に、平面形は円形・楕円形・小判形状、断面形はすり鉢状に底面から外傾するものと底面から直立ぎみに立ち上がるものが大部分である。本遺跡のA・B類と異なるものは、副穴がないもの(C類)と、副穴が岩ノ沢平遺跡の第19～22・28・36・49号土坑のような壁沿いに配置されるもの(D類)である。D類については他の遺跡と比較しても類似するものはない。岩ノ沢平遺跡の陥し穴状遺構群は、他遺跡と比較して特異的なものと言える。

埋土は、本遺跡と同様に上部に十和田中掬テフラを含むものが検出されている(鶉窪遺跡・黒坂遺跡・荒屋敷久保(1)遺跡・櫛館遺跡・岩ノ沢平遺跡・早坂平遺跡・上泉沢遺跡・田向冷水遺跡・上野遺跡・弥次郎窪遺跡・道仏鹿糠遺跡)。

(2) 溝状陥し穴状遺構（1～69号陥し穴状遺構）

形状は両端がオーバーハングするものが大半である。短軸方向の断面形は、V字形・Y字形・U字形・逆台形の4種である。Y字形・U字形と表記したものの中には、埋土の大半が壁面崩落土であることから、本来はV字形であったものを含むと考えられる。

規模は長軸が最大のもので440cm(1号陥し穴状遺構)、最小のもので220cm(22号陥し穴状遺構)、深さは最深のもので171cm(10号陥し穴状遺構)である。

1 陥し穴状遺構について

主軸方位は東西軸の割合が多く、調査区北側斜面部と南側斜面部の標高53～64m付近において等高線と平行に配置される。時期は66号陥し穴状遺構の断面観察で基本層序Ⅱ層から掘り込まれていることから、十和田中楸テフラ降下以降に構築されたものと考えられるが、詳細な時期を特定することは出来なかった。

2 打製石斧について

出土した石器の中で77.9%を占める。多くはⅡEグリッドで出土した。分類ごとの個数は、A群26点(26.2%)、B群1点(1.01%)、C群3点(3.03%)、D群5点(5.05%)、E群8点、F群57(57.5%)点の合計99点が出土した。法量の平均は長さ9.25cm、幅5.22cm、厚さ1.83cm、重量141.4gである(完形品のみの計測)。

刃角度の平均値は45.9°である。分類ごとにみると、A群は48.4°、B群40°、C群42°、D群63.4°、E群41.1°である。他の群と比較してD群は全体平均より刃角度が17.5°大きい。石質は99点中、細粒花崗閃緑岩製51点(51.5%)、砂岩製22点(22.2%)、ヒン岩製12点(12.1%)、細粒閃緑岩製6点(6.06%)、デイサイト製6点(6.06%)、凝灰質砂岩製5点(5.05%)、はんれい岩製3点(3.03%)、石英斑岩製2点(2.02%)、玄武岩製2点(2.02%)、ホルンフェルス岩製1点(1.01%)、安山岩製1点(1.01%)である。

本遺跡から半径30km圏内の遺跡でも片面に自然面を残し、法量(長さ、幅、厚さ)、刃角度が同類のものが出土している。第7表にこれらの中で、竪穴住居跡から出土したものを掲載した。扱った遺跡はゴッソー遺跡(洋野町)・平沢Ⅰ遺跡(久慈市)・力持遺跡(普代村)・長七谷地遺跡・長七谷地貝塚・風張(1)遺跡(八戸市)・瀧野遺跡(八戸市)・藤沢(2)遺跡(階上町)である。時期は縄文時代早期末葉～弥生時代中期の竪穴住居跡から出土している。

本遺跡で打製石斧と呼称した礫石器は、三陸沿岸部で顕著に出土する傾向がある。普代村力持遺跡(2008岩埋文報第510集)では、「力持型スクレイパー」と呼称し、スクレイピングなどを行う道具として報告している。また、洋野町北鹿糠遺跡(2018岩埋文報第686集)では、敲打痕跡が認められることから、石斧製作工程の荒割→剥離調整→敲打→研磨の一連の中で、敲打時に破損もしくは目指す形状に至らなかった「磨製石斧の未製品」として報告している。本遺跡で出土した礫石器には、肉眼による観察で使用痕跡・敲打痕跡は認められなかった。また、石器製作に関連する遺物は出土していない。こうした状況により今回は「スクレイパー」であるのか、あるいは「磨製石斧未製品」であるのかの判断は保留せざるを得ない。

3 遺跡全体について

今回のサンニヤⅢ遺跡調査では、小河川に面した起伏のある丘陵地を対象として3万㎡以上の広大な範囲を発掘し、上述のとおり溝状陥し穴、及び円形、楕円形で副穴を伴う陥し穴が全面に分布する状況を確認した。これらは降下テフラ、基本層序との関係から、縄文時代早期中葉～前期中葉の所産である副穴を伴う円形陥し穴、前期中葉以降の溝状陥し穴に大別される。調査区内では縄文時代の居住施設等は発見されていないため、専ら川尻川周辺に集まる動物を対象とした狩猟地として、長期間に亘り利用されてきた場所であると考えられる。一方、遺物では三陸沿岸地方に特徴的な打製石斧が多く出土しており、狩猟地と遺物組成の関連についても更に検討する必要がある。

第Ⅱ章に関わる引用・参考文献

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター発行

1987『田中Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第117集

2001『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集

2004『早坂平遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第437集

2004『和野ソマナイ遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第466集

2008『力持遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第510集

2015『野場Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第635集

2015『豊間根新田Ⅰ発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第642集

2015『島越Ⅱ遺跡・島越Ⅳ遺跡・菅窪遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第645集

2016『宇部館跡・北ノ越遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第654集

2017『上泉沢遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第674集

久慈市教育委員会発行

2002『平沢Ⅰ遺跡』久慈市埋蔵文化財調査報告書第30集

洋野町教育委員会発行

2017『ゴッソー遺跡』洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集

青森県教育委員会発行

1979『長七谷地貝塚』青森県埋蔵文化財調査報告書第57集

1982『鶉窪遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第76集

1989『弥次郎窪遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第128集

2001『上野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第297集

2001『岩ノ沢平遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第301集

2002『蟹沢(3)遺跡 黒坂遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第317集

2002『田向冷水遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第336集

2003『檜館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第342集

2004『松ヶ崎遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第377集

2004『笹ノ沢(3)遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第372集

2008『荒屋敷久保(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第453集

2010『笹子(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第480集

2011『道仏鹿糠遺跡 藤沢(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第499集

2014『潟野遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第537集

青森県八戸市教育委員会発行

1980『長七谷地遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第8集

1988『赤御堂遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第33集

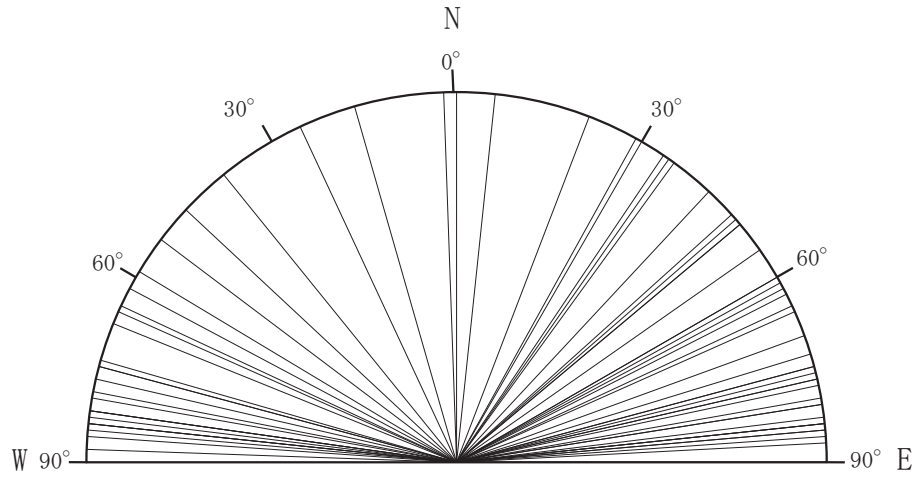
1990『風張(1)遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第42集

2014『潟野遺跡Ⅲ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第537集

青森県階上町教育委員会発行

2002『小板橋(2)遺跡』石炭採掘表土堆積場設置事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

3 遺跡全体について

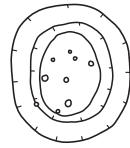


N- 0° ~ 45° -W 4 基
N- 46° ~ 90° -W 24 基

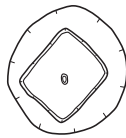
N- 0° ~ 45° -E 8 基
N- 46° ~ 90° -E 33 基

第49図 陥し穴状遺構主軸グラフ

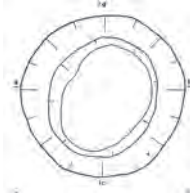
サンニヤⅢ9号土坑 サンニヤⅢ18号土坑 鶉窪22号ピット 岩ノ沢平20号土坑



A類



B類



C類



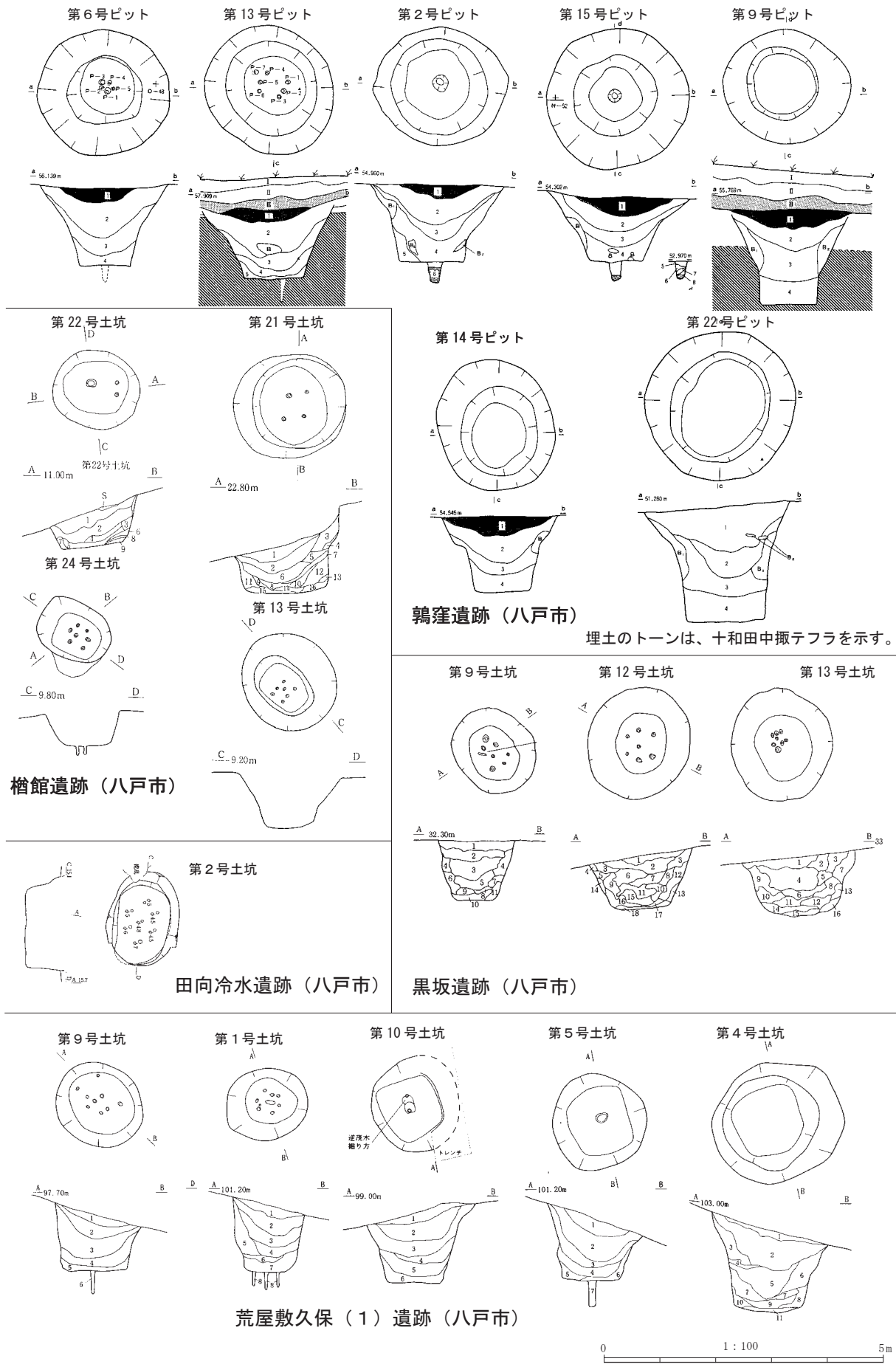
D類

第50図 土坑分類図

S=1:100

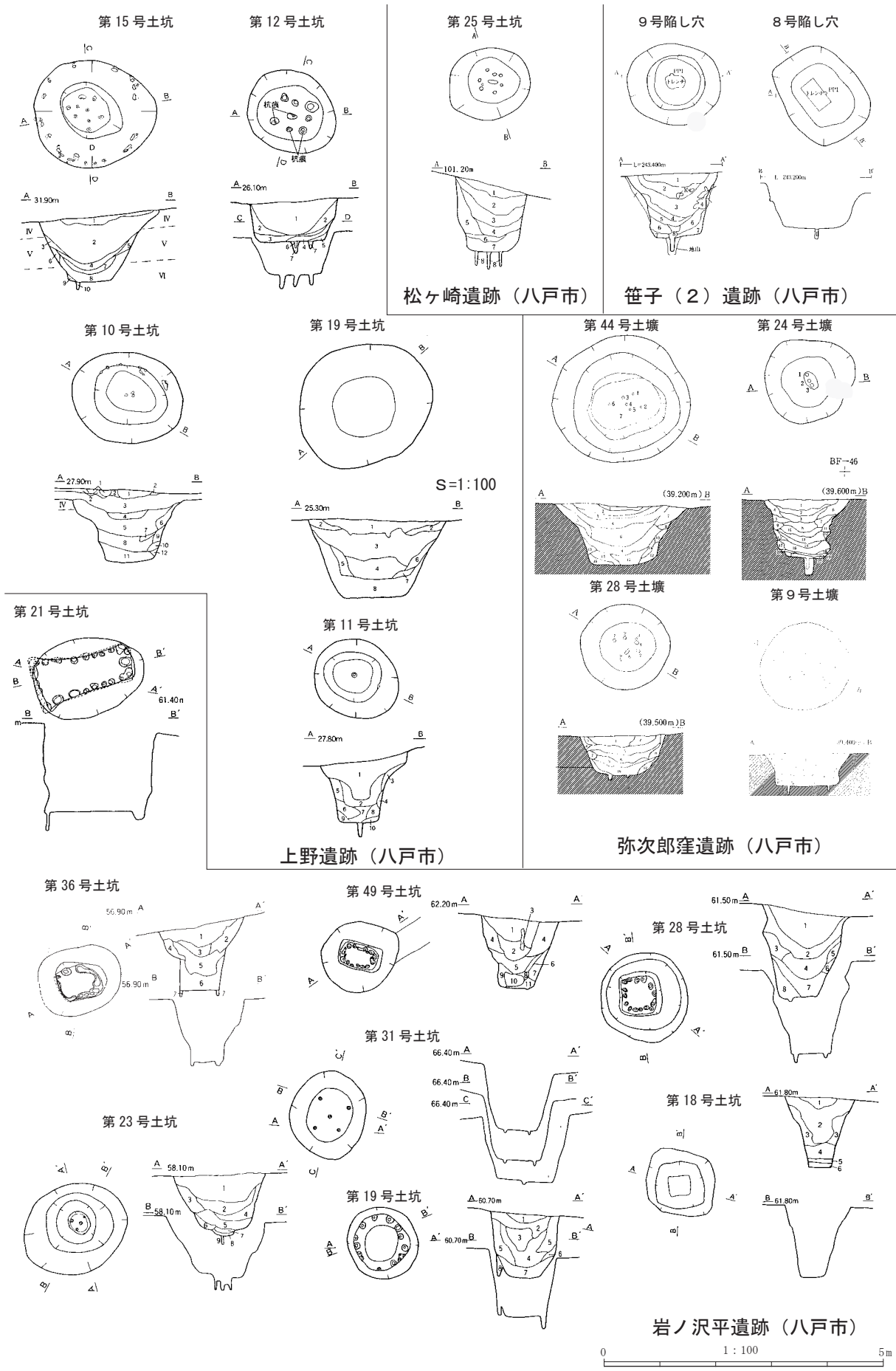
第6表 陥し穴状遺構集成一覧

遺跡名	市町村名	総数	A類	B類	C類	D類	図
1 鶉窪遺跡	八戸市	16	6	2	8	0	第51図
2 樽館遺跡	八戸市	6	6	0	0	0	第51図
3 田向冷水遺跡	八戸市	1	1	0	0	0	第51図
4 黒坂遺跡	八戸市	3	3	0	0	0	第51図
5 荒屋敷久保(1)遺跡	八戸市	7	4	2	1	0	第51図
6 上野遺跡	八戸市	5	3	1	1	0	第52図
7 松ヶ崎遺跡	八戸市	1	1	0	0	0	第52図
8 笹子(2)遺跡	八戸市	4	1	3	0	0	第52図
9 弥次郎窪遺跡	八戸市	4	4	0	0	0	第52図
10 岩ノ沢平遺跡	八戸市	26	4	0	4	18	第52・53図
11 道仏鹿糠遺跡	階上町	10	8	0	2	0	第53図
12 田中Ⅳ遺跡	久慈市	1	1	0	0	0	第53図
13 菅窪長屋構遺跡	田野畑村	1	0	1	0	0	第53図
14 藤沢(2)遺跡	階上町	5	4	0	1	0	第53図
15 小坂橋(2)遺跡	階上町	4	3	1	0	0	第53図
16 早坂平遺跡	久慈市	9	6	1	2	0	第53・54図
17 北ノ越遺跡	久慈市	8	0	8	0	0	第54図
18 島越Ⅱ遺跡	田野畑村	3	1	2	0	0	第54図
19 和野ソマナイ遺跡	田野畑村	2	0	1	0	0	第54図
20 上泉沢遺跡	野田村	22	1	17	4	0	第54図
21 野場Ⅰ遺跡	田野畑村	6	0	6	0	0	第54図
合計		144	57	45	23	18	

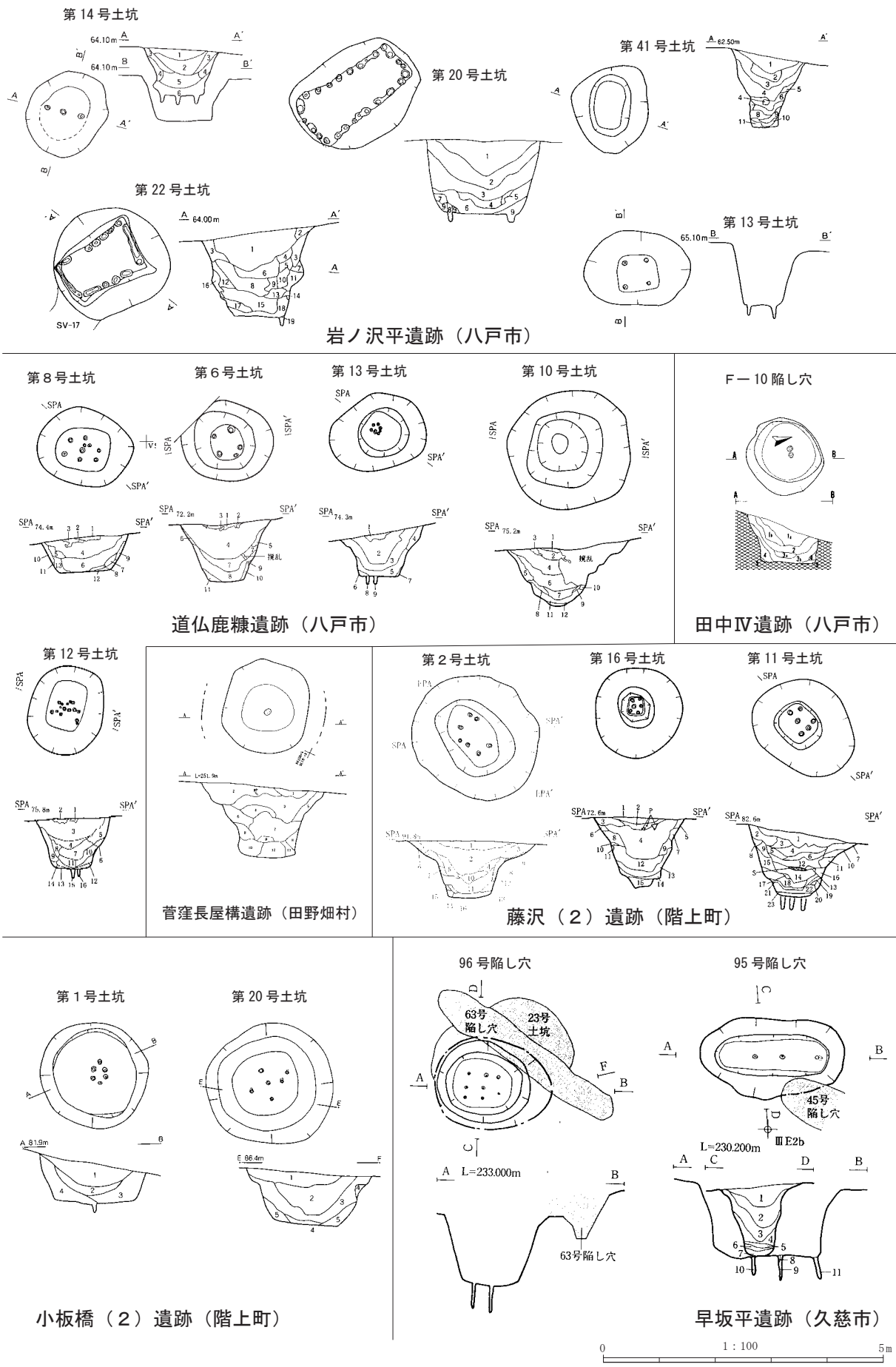


第51図 円形陥し状遺構集成図（1）

3 遺跡全体について

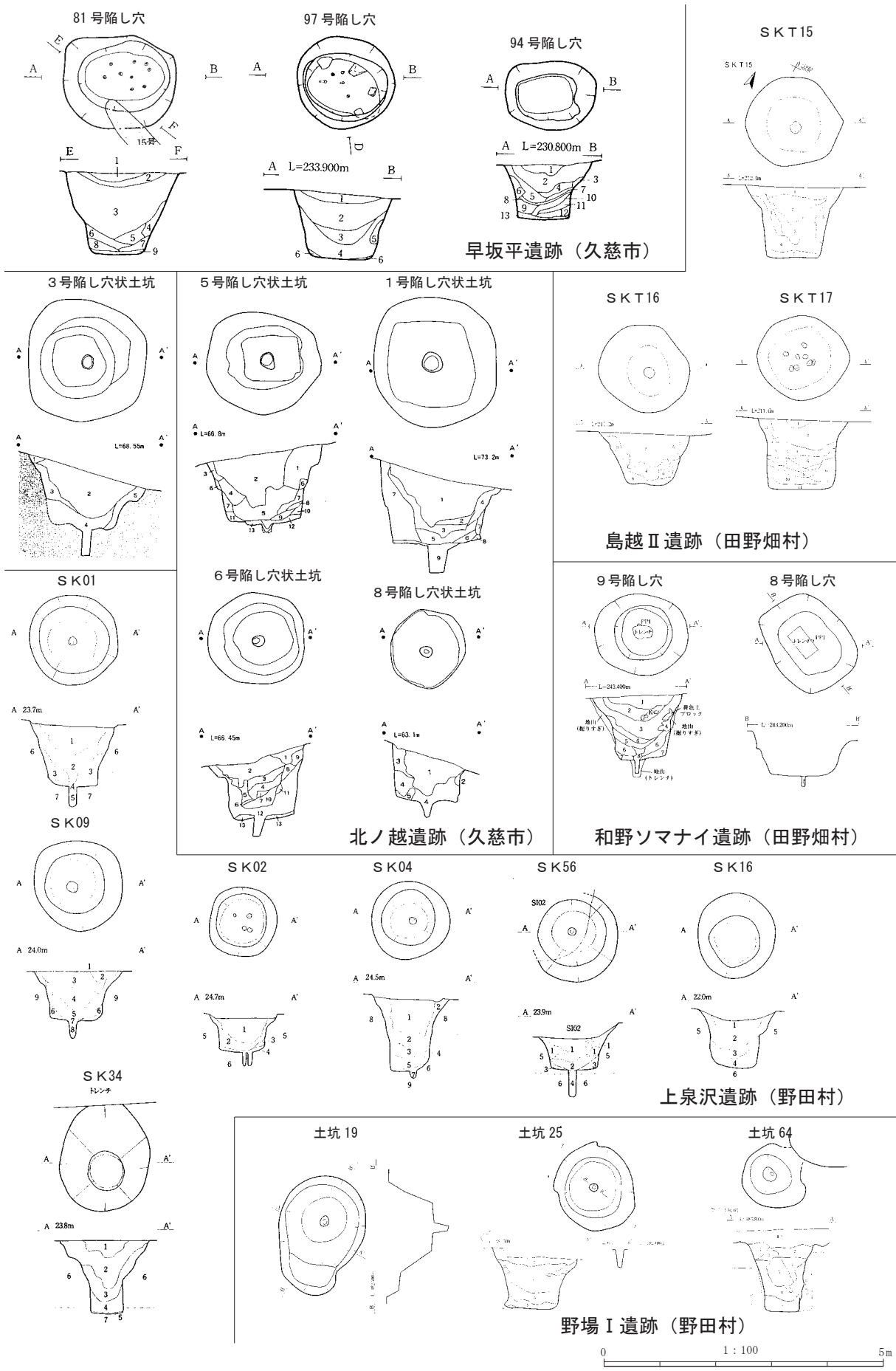


第52図 円形陥し状遺構集成図(2)



第53図 円形陥し状遺構集成図(3)

3 遺跡全体について



第54図 円形陥し状遺構集成図 (4)

第7表 周辺遺跡の打製石斧(本遺跡と同類)が出土している竪穴住居跡

ゴッソー遺跡(洋野町)			
竪穴住居跡	時期	備考	報告書
2号竪穴住居	縄文時代中期前葉	円筒上層a式埋設炉検出面で出土	洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集 2017
I C 3 c住居跡	縄文時代中期末葉～後期前葉	埋土から出土	岩埋文報第357集 2001
平沢I遺跡(久慈市)			
竪穴住居跡	時期	備考	報告書
RA009	縄文時代後期	埋土から出土	久慈市埋蔵文化財調査報告書第30集 2002
RA010	縄文時代後期	埋土から出土	
RA013	縄文時代後期	埋土から出土	
長七谷地遺跡(八戸市)			
竪穴住居跡	時期	備考	報告書
第5号竪穴住居跡	縄文時代早期末葉		八戸市埋蔵文化財調査報告書第8集 1980・1981
長七谷地貝塚(八戸市)			
竪穴住居跡	時期	備考	報告書
第2号竪穴住居跡	縄文時代早期末葉		青森県埋蔵文化財調査報告書第57集 1979
赤御堂遺跡(八戸市)			
竪穴住居跡	時期	備考	報告書
第7号竪穴住居跡	縄文時代早期中葉～後葉		八戸市埋蔵文化財調査報告書第33集 1988
風張(1)遺跡(八戸市)			
竪穴住居跡	時期	備考	報告書
第30号竪穴住居跡	縄文時代後葉前葉		八戸市埋蔵文化財調査報告書第42集 1990
潟野遺跡(八戸市)			
竪穴住居跡	時代	備考	報告書
第46号竪穴住居跡	縄文時代前葉初頭～前葉		青森県埋蔵文化財調査報告書第537集 2014
力持遺跡(普代村)			
竪穴住居跡	時期	備考	報告書
B II d 11住居跡1号	縄文時代中期中葉		岩埋文報第510集 2008
B II j 11住居跡1号	縄文時代中期中葉		
B II r 21住居跡1号	縄文時代前期中葉～後葉		
B II t 22住居跡3号	縄文時代前期前葉～中葉	To-Cu 降下期より古い	
B II u 21住居跡1号	縄文時代中期末葉		
B II u 24住居跡1号	縄文時代中期中葉		
B II v 24住居跡1号	縄文時代中期初～中葉		
B II y 22住居跡1号	縄文時代中期中葉～末葉		
B III t 2住居跡1号	縄文時代中期中葉		
B III u 2住居跡1号	縄文時代中期中葉		
B III v 2住居跡1号	縄文時代中期中葉		
C II a 23住居跡1号	縄文時代前期前葉～中葉	To-Cu 降下期より古い	
C II a 23住居跡4号	縄文時代前期中葉～後葉	To-Cu 降下期より新しい	
C II b 24住居跡1号	縄文時代前期前葉～中葉		
C II c 23住居跡1号	縄文時代中期末葉		
C II c 23住居跡2号	縄文時代中期中葉		
C II d 24住居跡1号	縄文時代前期末葉		
C II d 24住居跡2号	縄文時代前期末葉～中期前葉		
C II d 24住居跡3号	縄文時代前期前葉～中葉	To-Cu 降下期より古い	
C III c 1住居跡1号	縄文時代中期中葉		
C III e 1住居跡1号	縄文時代中期前葉		
C III e 2住居跡2号	縄文時代中期前葉		
藤沢(2)遺跡(階上町)			
竪穴住居跡	時期	備考	報告書
10号竪穴住居跡	弥生時代前期～中期		青森県埋蔵文化財調査報告書第499集 2011
12号竪穴住居跡	縄文時代早期末葉		
13号竪穴住居跡	縄文時代前期		
14号竪穴住居跡	弥生時代前期～中期		
15号竪穴住居跡	縄文時代早期末～前期初頭		
16号竪穴住居跡	縄文時代前期初頭		
18号竪穴住居跡	縄文時代前期初頭		
19号竪穴住居跡	縄文時代前期初頭		
28号竪穴住居跡	縄文時代前期初頭		

Ⅶ 火山灰分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県洋野町種市に所在するサンニヤⅢ遺跡では、縄文時代の陥し穴状遺構や土坑が検出されたほか、弥生時代、古代、中近世の遺構や遺物が確認されている。本報告では、遺構の覆土中および自然堆積層に認められた火山灰とされる堆積物の特性を明らかにして、既知の火山灰との対比を行い、年代に係る資料を作成する。

1. 試料

試料は縄文時代の土坑覆土および自然堆積層から採取されたテフラ様試料9点(No.1～9)である。No.1は9号土坑覆土、No.2は6号土坑覆土、No.3が7号土坑遺構検出面に対応する自然堆積層、No.4～8は5号土坑トレンチの自然堆積層断面の各層、No.9は5号土坑覆土よりそれぞれ採取されている。試料の一覧は、結果を呈示した表1に併記する。

2. 分析方法

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

さらに火山ガラスおよび軽石については、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

3. 結果

結果を表1に示す。9点の試料のうち、試料No.6と試料No.8以外の7点は、多量の軽石から構成される。軽石の特徴は、いずれの試料もほぼ同様であり、白色で発泡は良好～やや良好またはやや不良であり、輝石類の斑晶または不透明鉱物の斑晶を包有する。最大粒径は、試料によって違いが大きく、試料No.5は18mmあるのに対し、試料No.2は0.5mmである。他の試料は数mm程度を呈する。試料No.7には火山ガラスも中量含まれる。火山ガラスのほとんどは、無色透明の軽石型であり、無色透明のバブル型も微量含まれる。

試料No.6は、火山ガラスが多量に含まれ、軽石は少量である。火山ガラスの多くは、無色透明の軽石型であり、無色透明のバブル型も微量含まれる。試料No.8には火山ガラスが少量含まれる。火山ガラスは無色透明の軽石型が多いが、褐色を帯びた軽石型やバブル型も微量含まれる。

各試料の軽石・火山ガラスの屈折率を表1および図1～3に示す。9点の試料のうち、試料No.1、2、9の3点は、レンジの下限が $n_{1.510}$ または1.511であり、上限は1.514、モードは1.511-1.513を示す。

試料 No. 3と4の2点は、レンジの下限がn1. 514または1. 515であり、上限は1. 520～1. 523、モードは1. 516-1. 517を示す。試料 No. 5～8は、モードが不明瞭であり、レンジの幅が広い。これらのうち、試料 No. 5のレンジはn1. 505-1. 512、モードはn1. 506-1. 509であるが、試料 No. 6と No. 7は、レンジの下限はn1. 503～1. 505、上限はn1. 516を示す。さらに試料 No. 8は、レンジの下限はn1. 497、上限はn1. 514を示す。

4. 考 察

9点の試料のうち、試料 No. 8以外の8点は、いずれも軽石質テフラの降下堆積物に由来すると考えられる。遺跡の地理的位置を考慮すれば、テフラは十和田カルデラを給源とするテフラであると判断される。十和田カルデラを給源とするテフラは、町田・新井(2003)に記載された火山ガラスの屈折率によってテフラを特定することが可能である。今回の試料のうち、試料 No. 1, 2, 9の3点については、十和田中掬テフラ (To-Cu: 早川, 1983) に同定され、試料 No. 3, 4の2点については、十和田南部テフラ (To-Nb) に同定される。To-Cu の噴出年代は、暦年で約6100年前とされ、To-Nb の噴出年代は暦年で約9200年前とされている(工藤, 2008)。

試料 No. 5については、その屈折率からは、十和田八戸テフラ (To-H: Hayakawa, 1985) に由来する可能性があると考えられる。To-H は約1万5500年前(工藤, 2008)に噴出したテフラであり、大規模火砕流の噴出を伴い、東北地方北部の更新世段丘上に広く分布している。5号土坑東側土層地点のB層とされた試料 No. 5は、To-H の再堆積物の可能性があると考えられる。

試料 No. 6～8については、幅広い屈折率のレンジとモードの不明瞭な状況から、複数のテフラの混在物である可能性が指摘される。その屈折率のレンジからは、To-H および To-Nb の各テフラの混在が推定される。さらに、試料 No. 8の火山ガラスは、これら十和田カルデラ由来のテフラに加えて、屈折率が1. 500よりも低い火山ガラスが含まれることから、北海道の洞爺カルデラを給源とする洞爺テフラ (Toya: 町田ほか, 1987) の混在も示唆される。Toya の噴出年代は、11万2000～11万5000年前とされている(町田・新井, 2003)。

表1 テフラ分析結果

遺構名	層名	試料番号	火山ガラス		軽石			軽石・火山ガラスの屈折率 (n)	テフラ
			量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径		
9号土坑	埋土上部	No. 1	—		++++	W・g ~ W・sg (opx・cpx・mt)	2.0	1.510-1.514(1.512)	To-Cu
6号土坑	埋土上部	No. 2	—		++++	W・g ~ W・sg (opx・cpx・mt)	0.5	1.510-1.514(1.511)	To-Cu
7号土坑	検出面	No. 3	—		++++	W・sg ~ W・sb>g (opx)	15.0	1.515-1.520(1.518)	To-Nb
5号土坑東側土層地点	A層	No. 4	—		++++	W・g ~ W・sg>W・sb (opx)	3.5	1.514-1.523(1.516-1.517)	To-Nb
5号土坑東側土層地点	B層砂	No. 5	—		++++	W・g ~ W・sg>W・sb (opx)	18.0	1.505-1.512(1.506-1.509)	To-H・Nb
5号土坑東側土層地点	C層シルト質	No. 6	++++	cl・pm>>cl・bw	++	W・g ~ W・sg>W・sb (opx)	4.0	1.505-1.516	To-H・Nb
5号土坑東側土層地点	D層砂	No. 7	+++	cl・pm>>cl・bw	++++	W・g ~ W・sb>W・g (opx)	16.5	1.503-1.516	To-H・Nb
5号土坑東側土層地点	E層上面 (-25cm) 付近	No. 8	++	cl・pm>br・pm, cl・bw, br・bw	—		—	1.497-1.514	Toya・To-H・Nb
5号土坑	埋土最上位	No. 9	—		++++	W・g ~ W・sg (opx・cpx)	1.2	1.511-1.514(1.513)	To-Cu

凡例 —:含まれない, ++:少量, +++:中量, ++++:多量。
g:良好, sg:やや良好, sb:やや不良, 最大粒径はmm。
cl:無色透明, br:褐色, bw:バブル型, pm:軽石型。
(opx):斜方輝石斑晶包有, (cpx):単斜輝石斑晶包有, (mt):不透明鉱物斑晶包有。

引用文献

- 古澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別. 地質学雑誌, 101, 123-133.
早川由紀夫, 1983, 十和田火山中掬テフラ層の分布、粒度組成、年代. 火山第2集, 28, 263-273. Hayakawa, Y., 1985, Pyroclastic Geology of Towada Volcano. Bulletin of The Earthquake Reserch Institute University of Tokyo, vol. 60, 507-592.
工藤 崇, 2008, 十和田火山エピソードE及びG噴出物の放射性炭素年代. 火山, 53, 193-199.
町田 洋・新井房夫, 2003, 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
町田 洋・新井房夫・宮内崇裕・奥村晃史, 1987, 北日本を広く覆う洞爺火山灰. 第四紀研究, 26, 129-145.

4. 考 察

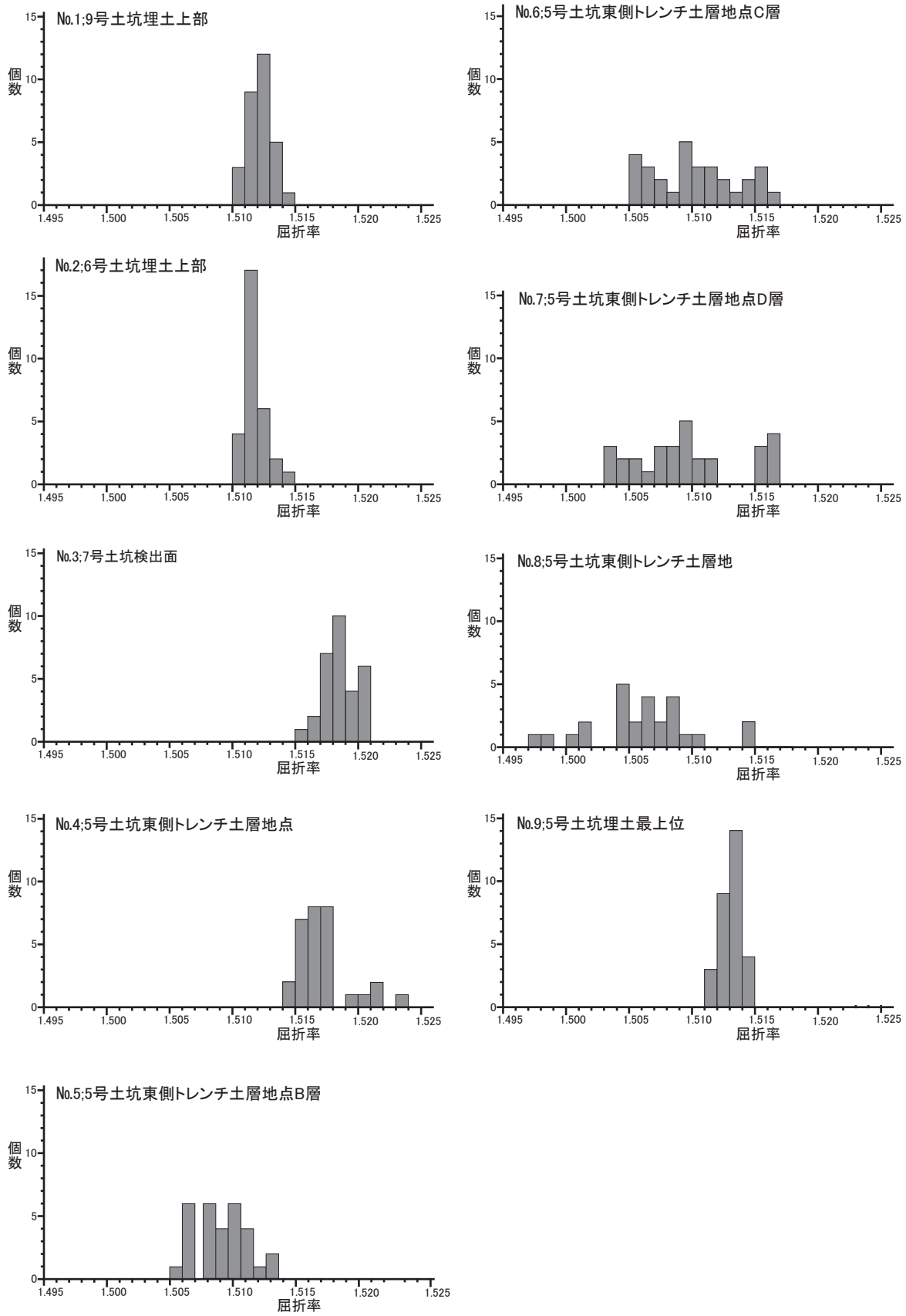
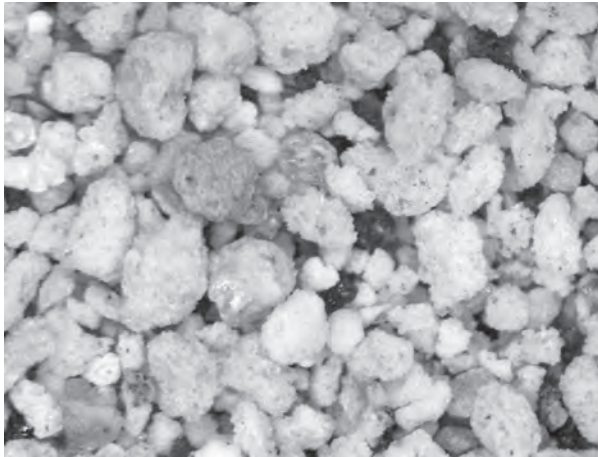
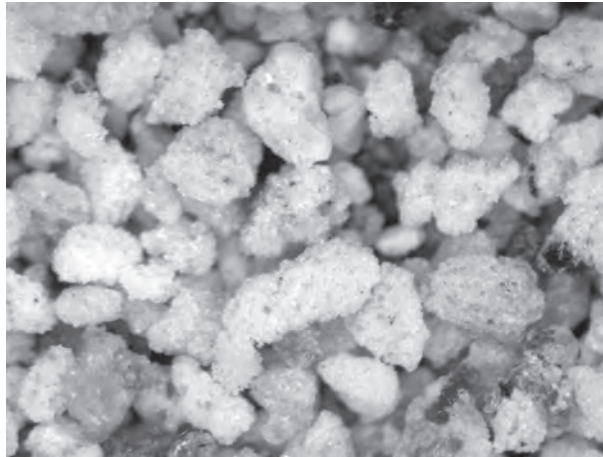


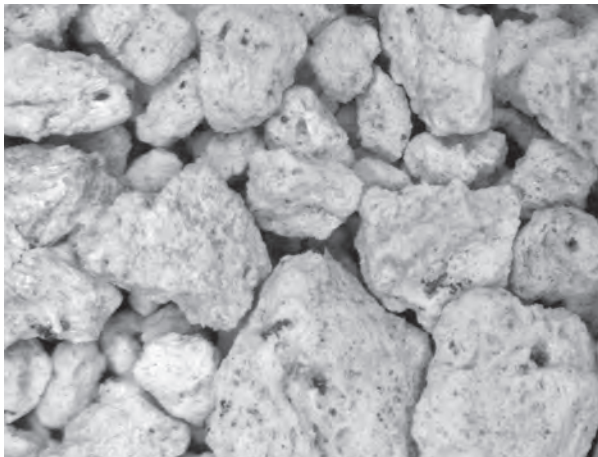
図1 軽石・火山ガラスの屈折率



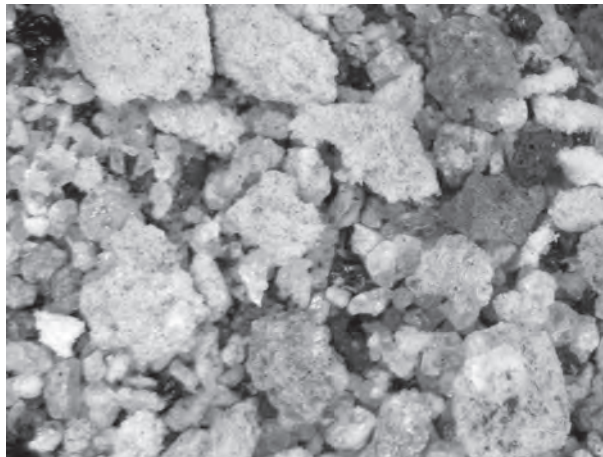
1.軽石(9号土坑埋土上部;1)



2.軽石(6号土坑埋土上部;2)



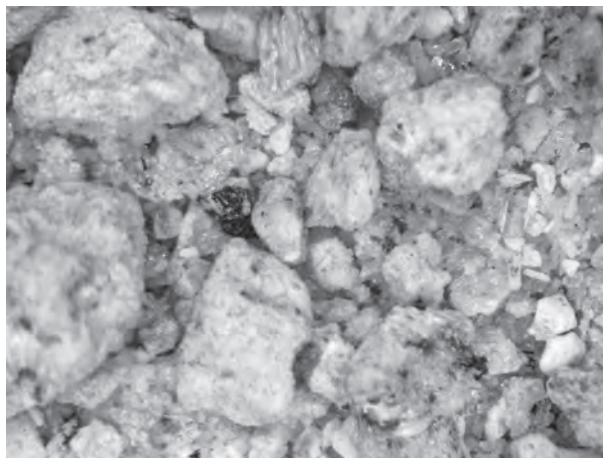
3.軽石(7号土坑検出面;3)



4.軽石(5号土坑東側トレンチ土層地点A層;4)



5.軽石(5号土坑東側トレンチ土層地点B層砂;5)

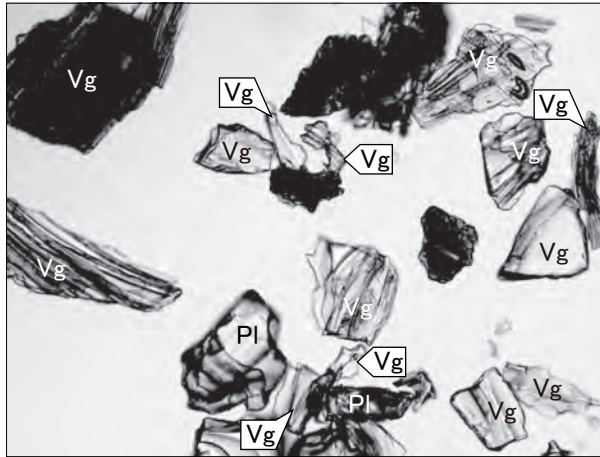


6.軽石(5号土坑東側土層地点C層シルト質;6)

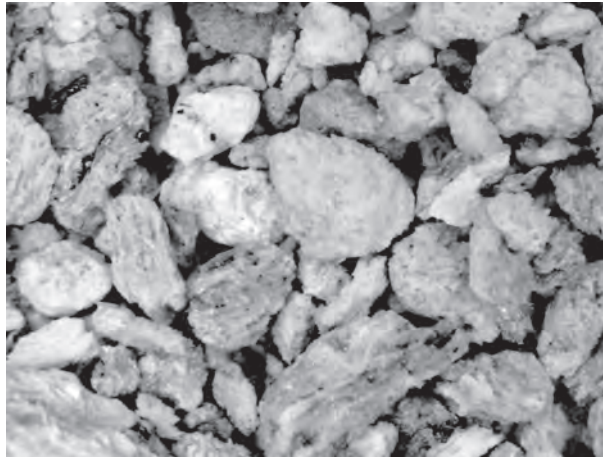


図版1 テフラ(1)

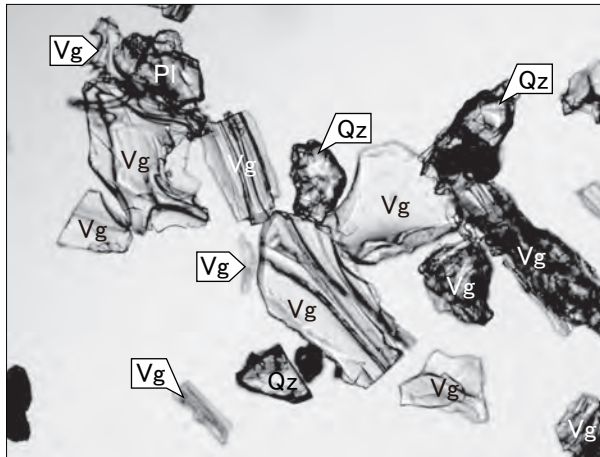
4. 考 察



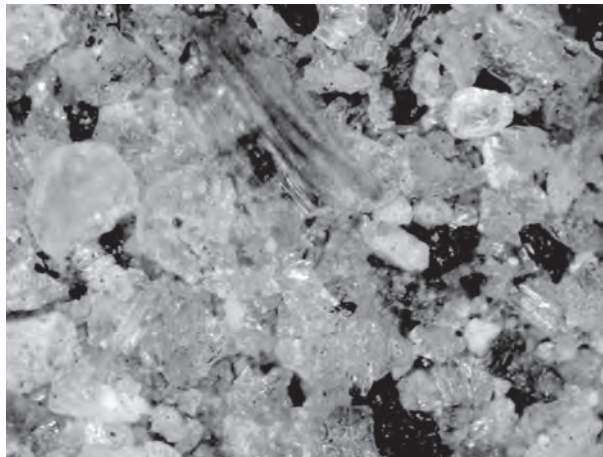
7.火山ガラス(5号土坑東側トレンチ土層地点C層シルト質;6)



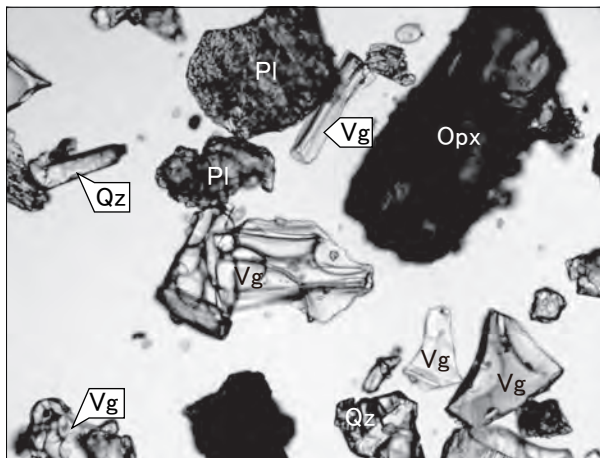
8.軽石(5号土坑東側トレンチ土層地点D層砂;7)



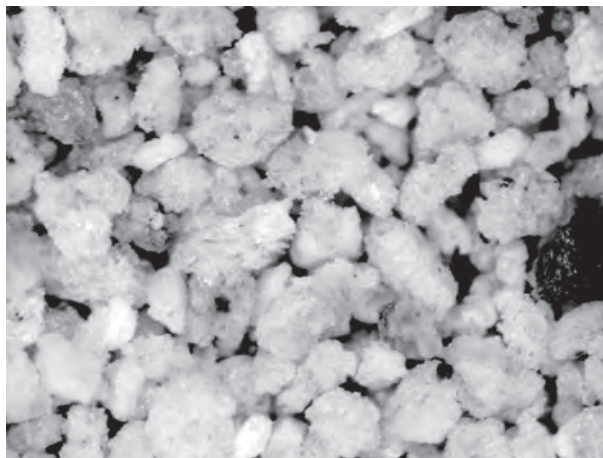
9.火山ガラス(5号土坑東側トレンチ土層地点D層砂;7)



10.火山ガラス(5号土坑東側トレンチ土層地点E層上面付近;8)



11.火山ガラス(5号土坑東側トレンチ土層地点E層上面付近;8)



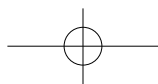
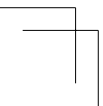
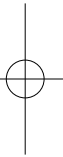
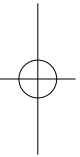
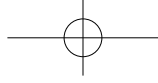
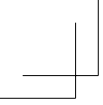
12.軽石(5号土坑埋土最上位;9)

Opx:斜方輝石. Vg:火山ガラス. Qz:石英.
Pl:斜長石.

2.0mm	0.2mm	1.0mm	1.0mm
8	7,9,11	12	10

図版1 テフラ (2)

写真図版





調査区現況（南から）



調査区現況（東から）

写真図版 1 調査区現況

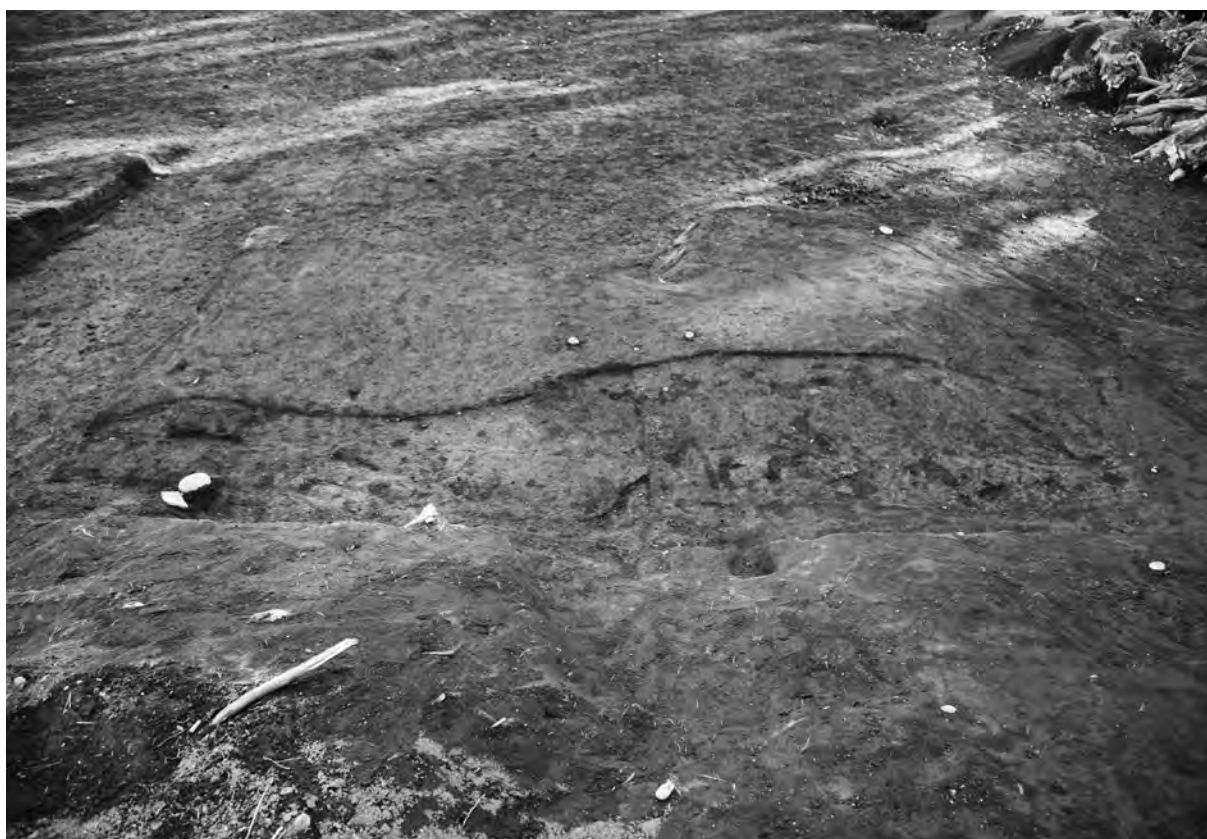


基本層序A地点（西から）



基本層序B地点（北から）

写真図版2 基本層序



1号炭窯 全景（北から）



1号炭窯 断面（南から）



1号炭窯 断面（東から）



2号炭窯 全景（南から）

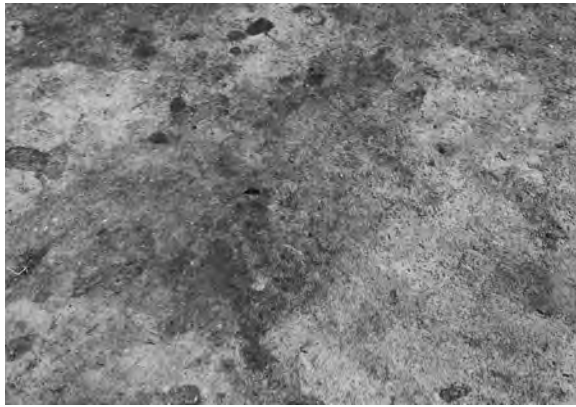


2号炭窯 断面（南から）



2号炭窯 断面（東から）

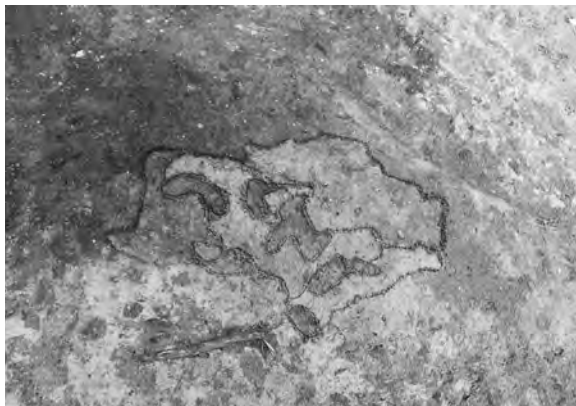
写真図版4 2号炭窯



1号焼土 全景（南から）



1号焼土 断面（北東から）



2号焼土 全景（南から）



2号焼土 断面（東から）



1号陥し穴状遺構 全景（北東から）



1号陥し穴状遺構 断面（北東から）



2号陥し穴状遺構 全景（北東から）



2号陥し穴状遺構 断面全景（北東から）



3号陥し穴状遺構 全景（東から）



3号陥し穴状遺構 断面（東から）



4号陥し穴状遺構 全景（北東から）



4号陥し穴状遺構 断面（北東から）



5号陥し穴状遺構 全景（南東から）



5号陥し穴状遺構 断面（南東から）



6号陥し穴状遺構 全景（東から）



6号陥し穴状遺構 断面（東から）

写真図版6 3～6号陥し穴状遺構



7号陥し穴状遺構 全景（東から）



7号陥し穴状遺構 断面（東から）



8号陥し穴状遺構 全景（東から）



8号陥し穴状遺構 断面（東から）



9号陥し穴状遺構 全景（北西から）



9号陥し穴状遺構 断面（北西から）



10号陥し穴状遺構 全景（西から）



10号陥し穴状遺構 断面（東から）

写真図版7 7～10号陥し穴状遺構



11号陥し穴状遺構 全景（東から）



11号陥し穴状遺構 断面（東から）



12号陥し穴状遺構 全景（東から）



12号陥し穴状遺構 断面（西から）



13号陥し穴状遺構 全景（南東から）



13号陥し穴状遺構 断面（南東から）



14号陥し穴状遺構 全景（東から）



14号陥し穴状遺構 断面（東から）

写真図版 8 11～14号陥し穴状遺構



15号陥し穴状遺構 全景（南から）



15号陥し穴状遺構 断面（南から）



16号陥し穴状遺構 全景（東から）



16号陥し穴状遺構 断面（東から）



17号陥し穴状遺構 全景（東から）



17号陥し穴状遺構 断面（東から）



18号陥し穴状遺構 全景（西から）



18号陥し穴状遺構 断面（西から）

写真図版9 15～18号陥し穴状遺構



19号陥し穴状遺構 全景（南東から）



19号陥し穴状遺構 断面（南東から）



20号陥し穴状遺構 全景（東から）



20号陥し穴状遺構 断面（東から）



21号陥し穴状遺構 全景（東から）



21号陥し穴状遺構 断面（東から）



22号陥し穴状遺構 全景（東から）



22号陥し穴状遺構 断面（東から）

写真図版 10 19～22号陥し穴状遺構



23号陥し穴状遺構 全景（南から）



23号陥し穴状遺構 断面（南から）



24号陥し穴状遺構 全景（北東から）



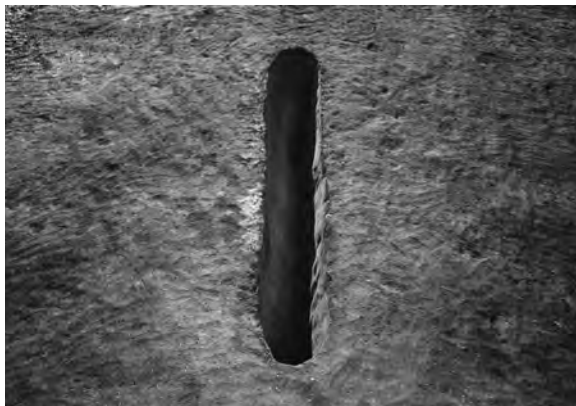
24号陥し穴状遺構 断面（北東から）



25号陥し穴状遺構 全景（南東から）



25号陥し穴状遺構 断面（南東から）



26号陥し穴状遺構 全景（北東から）



26号陥し穴状遺構 断面（北東から）

写真図版 11 23～26号陥し穴状遺構



27号陥し穴状遺構 全景（東から）



27号陥し穴状遺構 全景（東から）



28号陥し穴状遺構 全景（東から）



28号陥し穴状遺構 断面（東から）



29号陥し穴状遺構 全景（東から）



29号陥し穴状遺構 断面（東から）



30号陥し穴状遺構 全景（南西から）



30号陥し穴状遺構 断面（南西から）

写真図版 12 27～30号陥し穴状遺構



31号陥し穴状遺構 全景（北東から）



31号陥し穴状遺構 断面（北東から）



32号陥し穴状遺構 全景（東から）



32号陥し穴状遺構 断面（東から）



33号陥し穴状遺構 全景（南東から）



33号陥し穴状遺構 断面（南東から）



34号陥し穴状遺構 全景（北から）



34号陥し穴状遺構 断面（北から）

写真図版 13 31～34号陥し穴状遺構



35号陥し穴状遺構 全景（東から）



35号陥し穴状遺構 断面（東から）



36号陥し穴状遺構 全景（東から）



36号陥し穴状遺構 断面（東から）



37号陥し穴状遺構 全景（北西から）



37号陥し穴状遺構 断面（南東から）



38号陥し穴状遺構 全景（南西から）



38号陥し穴状遺構 断面（南西から）

写真図版 14 35～38号陥し穴状遺構



39号陥し穴状遺構 全景（南東から）



39号陥し穴状遺構 断面（南東から）



40号陥し穴状遺構 全景（北東から）



40号陥し穴状遺構 断面（北東から）



41号陥し穴状遺構 全景（西から）



41号陥し穴状遺構 断面（西から）



42号陥し穴状遺構 全景（西から）



42号陥し穴状遺構 断面（西から）

写真図版 15 39～42号陥し穴状遺構



43号陥し穴状遺構 全景（東から）



43号陥し穴状遺構 断面（東から）



44号陥し穴状遺構 全景（東から）



44号陥し穴状遺構 断面（東から）



48号陥し穴状遺構 全景（東から）



48号陥し穴状遺構 断面（東から）



49号陥し穴状遺構 全景（東から）



49号陥し穴状遺構 断面（東から）

写真図版 16 43・44・48・49号陥し穴状遺構



45号陥し穴状遺構 検出状況（東から）



45号陥し穴状遺構 断面（北から）



45号陥し穴状遺構 全景（北から）



46号陥し穴状遺構 検出状況（東から）



46号陥し穴状遺構 断面（北から）



46号陥し穴状遺構 全景（北から）



47号陥し穴状遺構 検出状況（東から）



47号陥し穴状遺構 断面（北から）



47号陥し穴状遺構 全景（北から）



50号陥し穴状遺構 全景（東から）



50号陥し穴状遺構 断面（東から）



51号陥し穴状遺構 全景（東から）



51号陥し穴状遺構 断面（東から）



52号陥し穴状遺構 全景（東から）



52号陥し穴状遺構 断面（北から）



53号陥し穴状遺構 全景（東から）



53号陥し穴状遺構 断面（東から）

写真図版 20 50～53号陥し穴状遺構



54号陥し穴状遺構 全景（東から）



54号陥し穴状遺構 断面（東から）



55号陥し穴状遺構 全景（北東から）



55号陥し穴状遺構 断面（北東から）



56号陥し穴状遺構 全景（北東から）



56号陥し穴状遺構 断面（北東から）



57号陥し穴状遺構 全景（東から）



57号陥し穴状遺構 断面（東から）



58号陥し穴状遺構 全景（北東から）



58号陥し穴状遺構 断面（北東から）



59号陥し穴状遺構 全景（南東から）



59号陥し穴状遺構 断面（北東から）



60号陥し穴状遺構 全景（南東から）



60号陥し穴状遺構 断面（北東から）



61号陥し穴状遺構 全景（北から）



61号陥し穴状遺構 断面（東から）

写真図版 22 58～61号陥し穴状遺構



62号陥し穴状遺構 全景（東から）



62号陥し穴状遺構 断面（西から）



63号陥し穴状遺構 全景（北から）



63号陥し穴状遺構 断面（東から）



64号陥し穴状遺構 全景（北東から）



64号陥し穴状遺構 断面（北東から）



65号陥し穴状遺構 全景（北から）



65号陥し穴状遺構 断面（東から）



66号陥し穴状遺構 全景（南から）



66号陥し穴状遺構 断面（南から）



67号陥し穴状遺構 全景（東から）



68号陥し穴状遺構 全景（東から）



68号陥し穴状遺構 断面（東から）



69号陥し穴状遺構 全景（東から）



69号陥し穴状遺構 全景（東から）

写真図版 24 66～69号陥し穴状遺構



1号土坑 全景 (西から)



1号土坑 断面 (西から)



2号土坑 全景 (南から)



2号土坑 断面 (南から)



3号土坑 全景 (北西から)



3号土坑 断面 (北西から)



4号土坑 全景 (北から)



4号土坑 断面 (北から)



8号土坑 全景（東から）



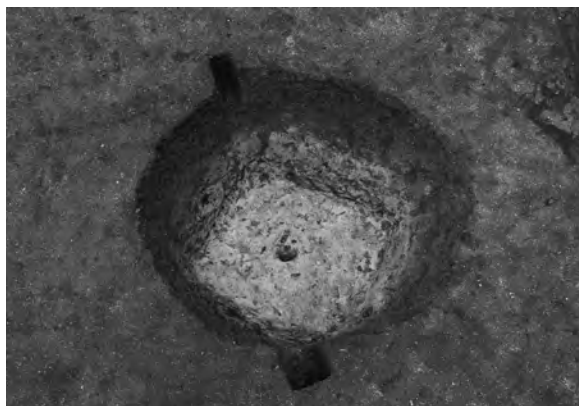
8号土坑 断面（西から）



15号土坑 全景（東から）



15号土坑 断面（東から）



18号土坑 全景（北東から）



18号土坑 断面（北東から）



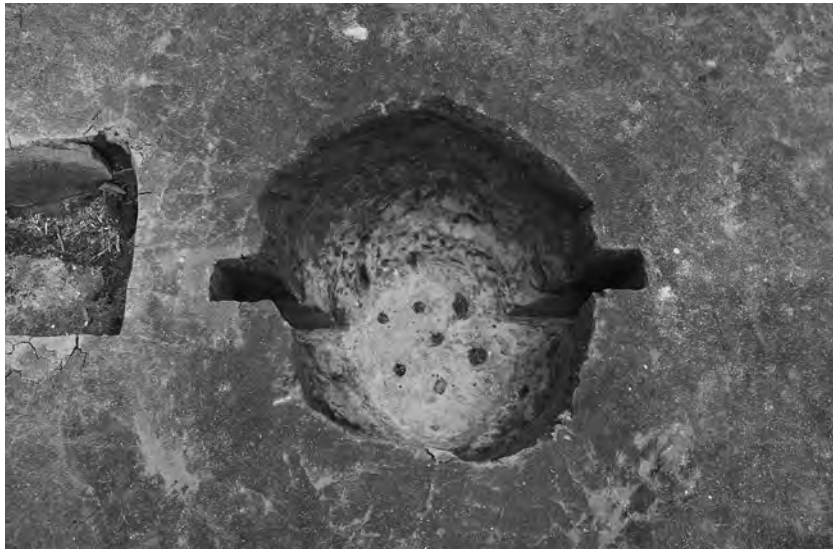
5号土坑 全景（東から）



5号土坑 断面（東から）



5号土坑 副穴断面（東から）



6号土坑 全景（東から）



6号土坑 断面（東から）



6号土坑 副穴断面（東から）



7号土坑 全景（南東から）



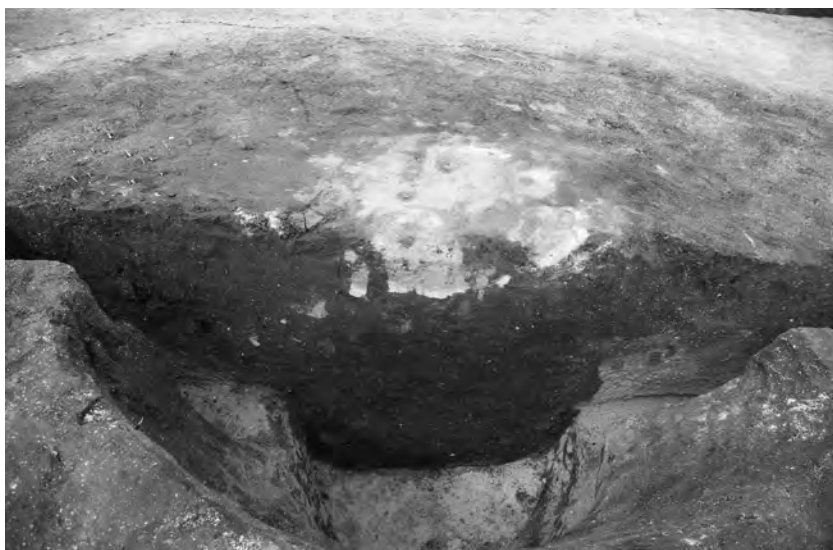
7号土坑 断面（南東から）



7号土坑 副穴断面（南から）



9号土坑 全景（東から）



9号土坑 断面（東から）



9号土坑 副穴断面（東から）

写真図版 30 9号土坑



10号土坑 全景（北から）



10号土坑 断面（東から）



10号土坑 副穴断面（東から）



13号土坑 全景（南東から）



13号土坑 断面（南東から）



13号土坑 副穴断面（東から）



14号土坑 全景（北東から）



14号土坑 断面（北東から）



14号土坑 副穴断面（南東から）



16号土坑 全景（東から）



16号土坑 断面（東から）



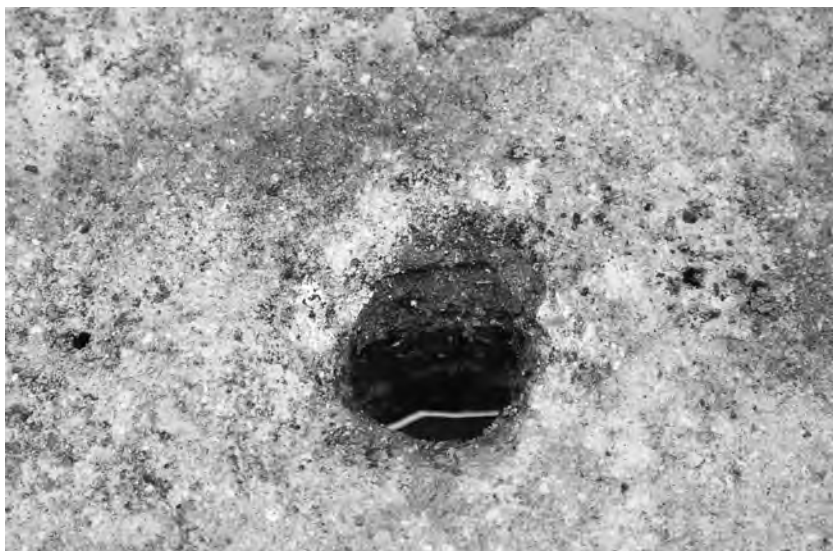
16号土坑 副穴断面（東から）



17号土坑 全景（北から）



17号土坑 断面（東から）



17号土坑 副穴断面（北東から）



調査区南端斜面部検出状況（南西から）



調査区中央部検出状況（南から）

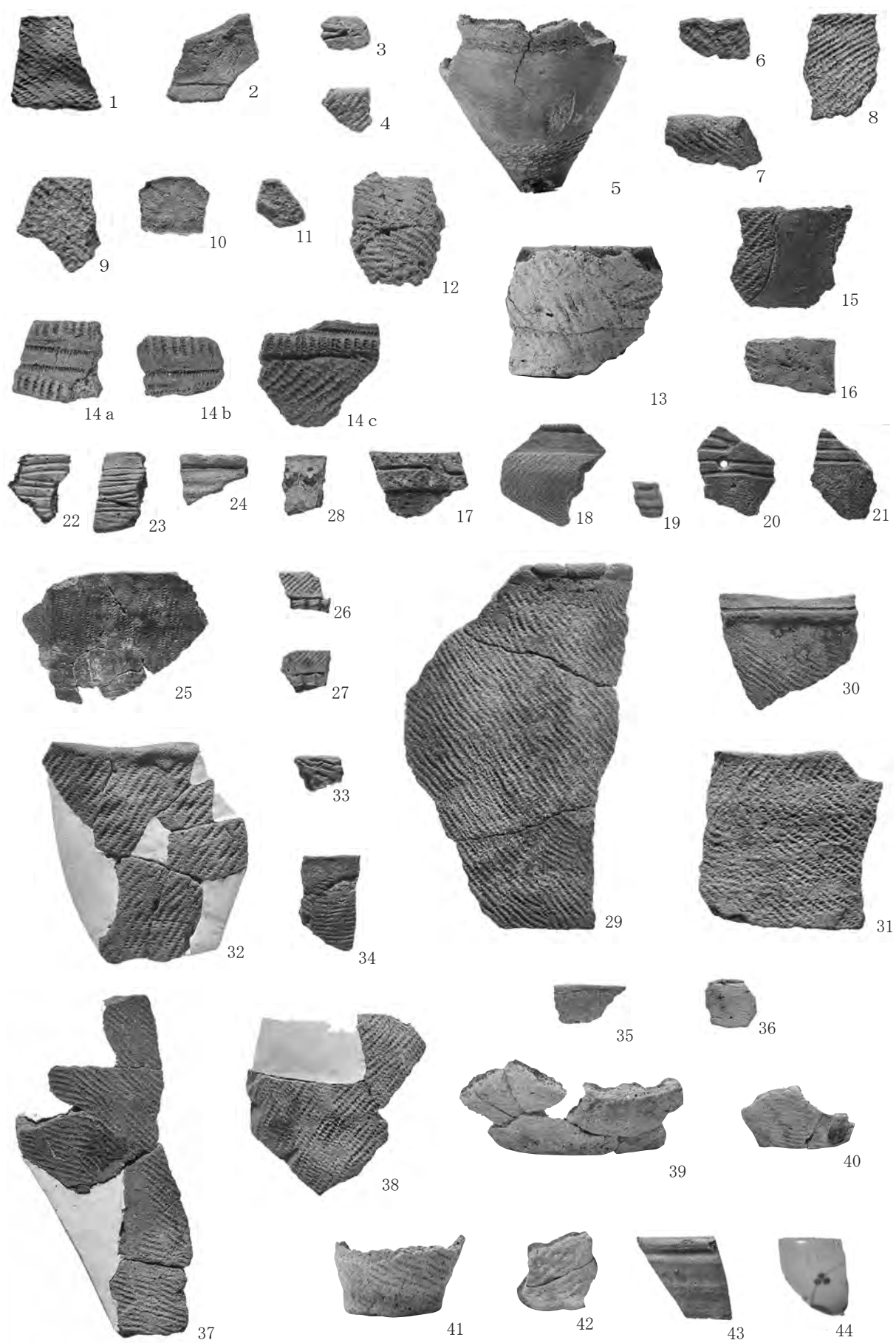
写真図版 36 検出状況



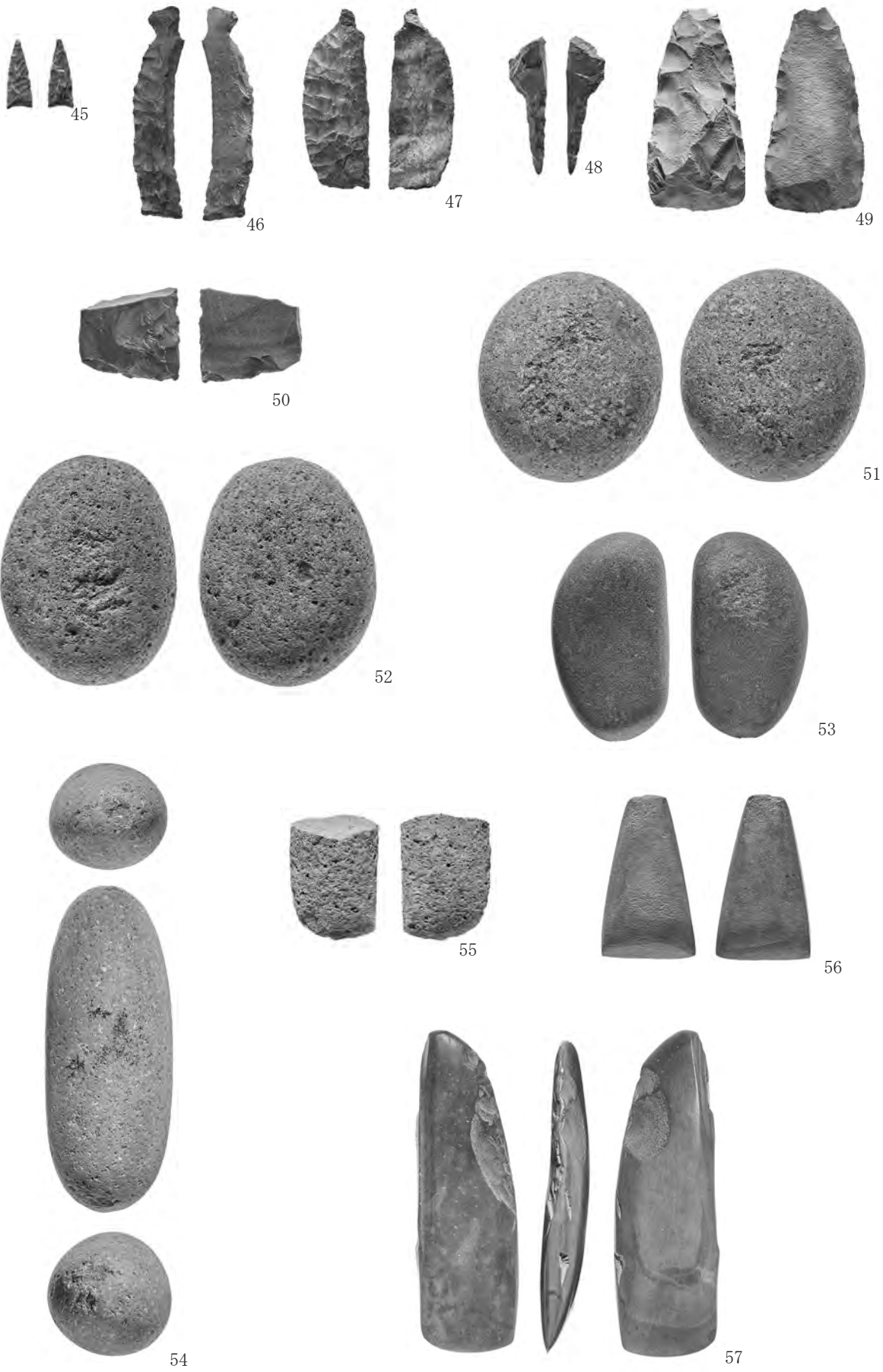
調査区南西部検出状況（南から）



作業風景（南から）



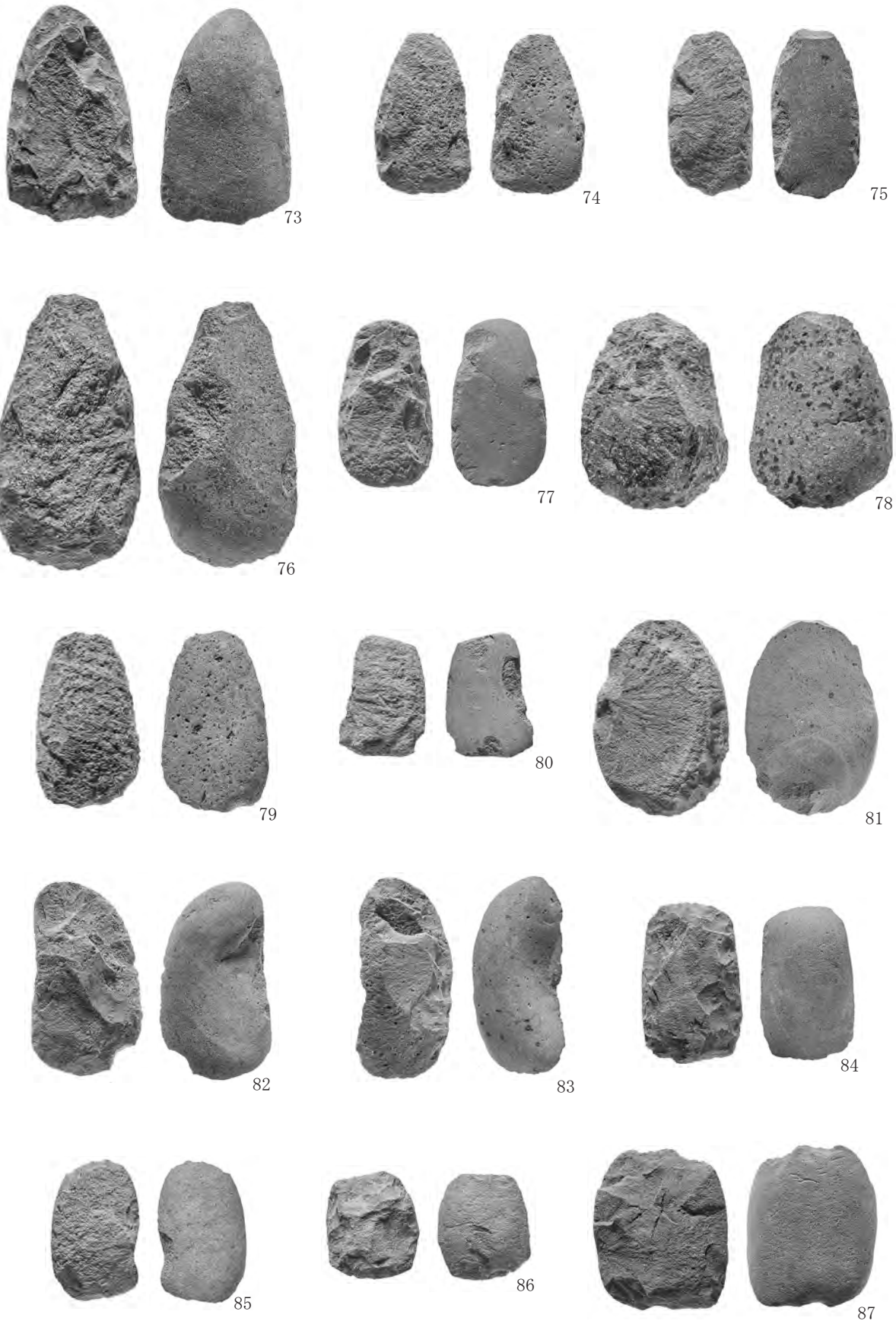
写真図版 38 出土遺物 (1)



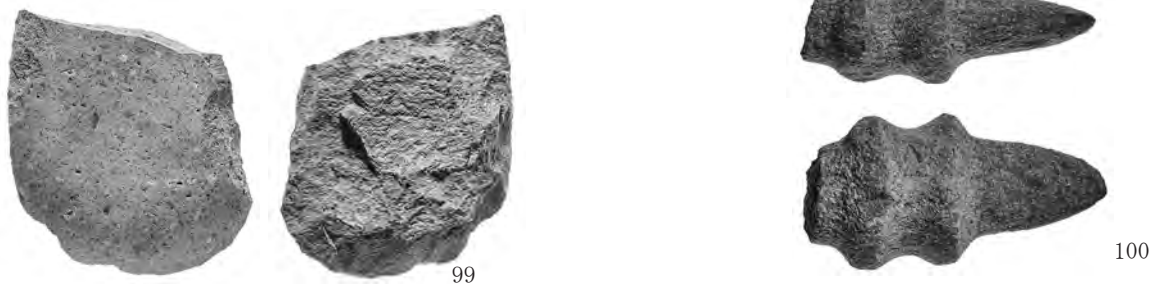
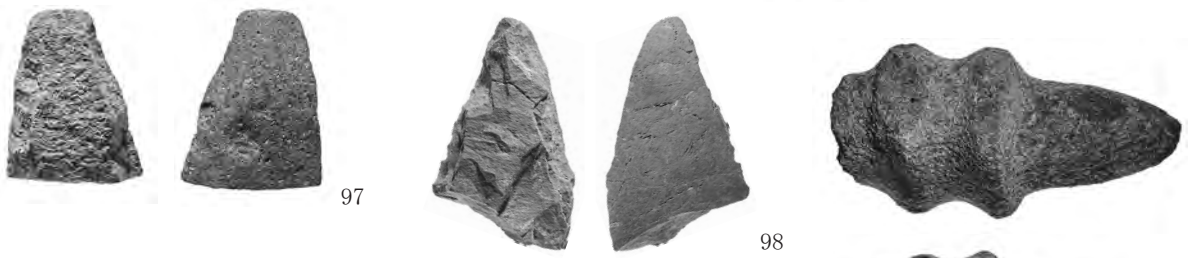
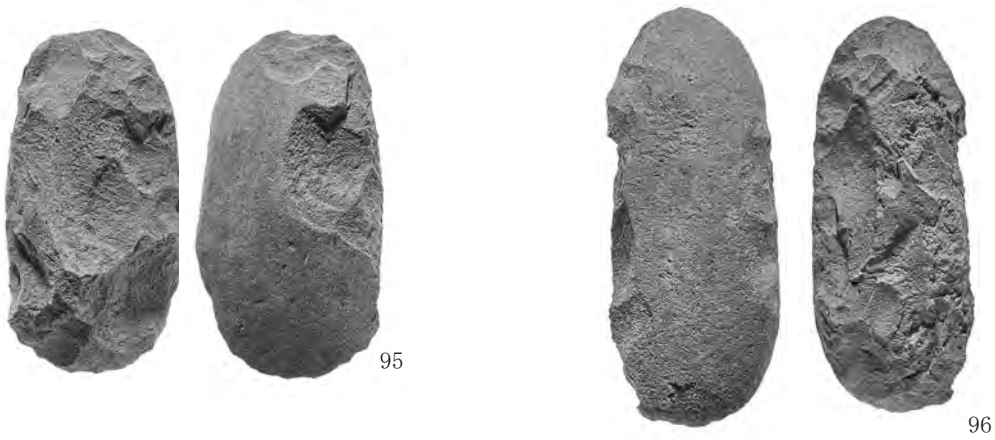
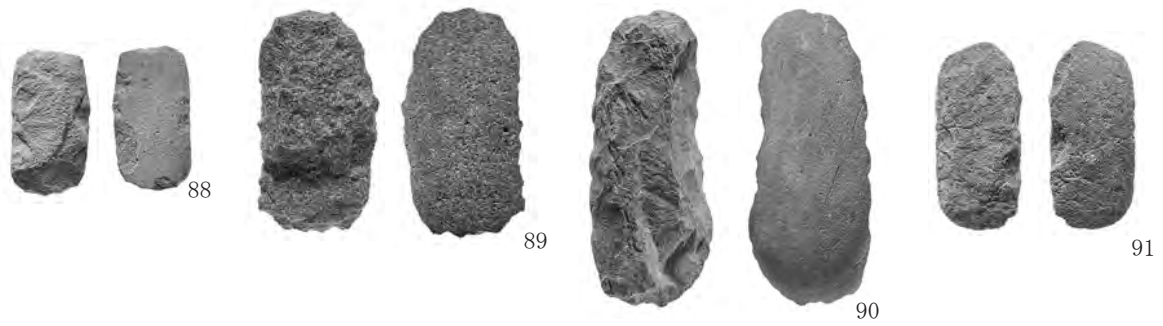
写真図版 39 出土遺物 (2)



写真図版 40 出土遺物 (3)



写真図版 41 出土遺物 (4)



写真図版 42 出土遺物 (5)

報告書抄録

ふりがな	さんにや3いせきはくつちょうさほうこくしよ							
書名	サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書							
副書名	三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第714集							
編著者名	菊池貴広・八木勝枝・佐々木あゆみ・森 裕樹・遠藤 修							
編集機関	(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地							
発行年月日	2020年3月13日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ′	東経 ° / ′	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さんにや3いせき サンニヤⅢ遺跡	いわてけんくのへぐんひろのちよう 岩手県九戸郡洋野町 たねいちだいにちわり 種市第25地割	03507	IF48-2250	40度 24分 26秒	141度 42分 9秒	2016.09.15 ～ 12.16 2017.04.07 ～ 11.29 2018.04.04 ～ 09.30	33,200㎡	三陸沿岸道路建設 事業関連発掘調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
サンニヤⅢ遺跡	狩猟場	縄文時代	陥し穴状遺構 69基 土坑 16基 焼土遺構 2基 炭窯 2基	縄文土器、石器、 弥生土器、近世陶磁器		石斧類のうち、北海道産アオトラ石の可能性が高い石材を利用したものが含まれる。		
要約	丘陵地の緩い谷部、緩斜面に位置する遺跡である。遺構は埋土に十和田中楸テフラを含み副穴を備える円形陥し穴状遺構と、溝状の陥し穴状遺構が検出された。陥し穴状遺構は列状に配置される部分がある。出土遺物では片面に自然を残す打製石斧が多数出土している。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第714集

サンニヤ皿遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連発掘調査

印刷 令和2年3月10日

発行 令和2年3月13日

編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019)638-9001

発行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
〒027-0029 岩手県宮古市藤の川4番1号
電話 (0193)62-1711

(公財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電話 (019)654-2235

印刷 株式会社 光文社
〒020-0106 岩手県盛岡市東松園3-12-1
電話 (019)661-3441(代)

©(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2020